第７期江戸川区障害福祉計画・
第３期江戸川区障害児福祉計画
策 定 の た め の 基 礎 調 査

（江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査）

結果報告書

令和５年３月

江戸川区

目　次

第１章　調査の概要 ･･1

１　調査目的 ･･1
２　調査対象者及び回収状況 ･･1
３　調査方法と調査期間 ･･1
４　調査結果を見るうえでの注意事項 ････････････････････････････････････1

第２章　調査結果の詳細 ･･2

Ｉ　障害者・児調査 ･･2
１　回答者について ･･2
（１）回答者の属性 ･･2
２　本人の属性について ･･3
（１）性別、年齢、居住地域 ･･3
（２）現在の生活場所 ･･4
（３）同居者 ･･5
３　本人の状況について ･･6
（１）障害者手帳の有無 ･･6
（２）手帳の種類と等級 ･･6
（３）身体障害の種類 ･･10
（４）介護保険の認定状況（40歳以上の方のみ） ･････････････････････････11
（５）介護保険の認定内容（40歳以上の方のみ） ･････････････････････････12
（６）受けている障害や疾患の診断 ･･････････････････････････････････････13
４　日常生活の手助けについて ･･･14
（１）介助や支援の必要性の有無 ･･14
（２）介助や支援が必要な場面 ･･16
（３）主な介助者 ･･18
（４）介護の悩みや不安 ･･19
（５）将来希望する暮らし ･･21
（６）介助者の負担軽減のために必要な支援やサービス ･･････････････････22
（７）家族以外の介助者の有無 ･･23
５　相談や情報入手について ･･24
（１）健康・医療面での困りごと ･･24
（２）相談相手（場所）の有無 ･･27
（３）相談相手（場所） ･･28
（４）相談する際に不便なこと ･･30
（５）相談相手がいない理由 ･･32
（６）生活支援に関するサービスの情報の入手源 ･･････････････････････････33
（７）情報取得やコミュニケーションの際に必要な配慮 ･･････････････････35

6　通園・通学について …… **36**
（1）通園・通学状況 …… 36
（2）父親、母親の就労状況 …… 37
（3）通園・通学先 …… 39
（4）通園・通学するうえで困っていること …… 40
（5）放課後や休みの日などの過ごし方 …… 41
（6）卒業後の希望進路 …… 42
7　仕事の状況や今後の希望について …… **43**
（1）就労状況 …… 43
（2）現在の職場への就職時期 …… 44
（3）就職の際に利用した機関 …… 46
（4）仕事をしていない理由 …… 48
（5）必要な就労支援 …… 50
8　趣味の活動や地域の活動について …… **52**
（1）外出頻度 …… 52
（2）最近1年間に参加した活動 …… 54
（3）取り組んでみたい活動 …… 55
（4）スポーツ（運動）実施状況 …… 57
（5）スポーツ（運動）に対する意識 …… 59
9　サービスの利用等について …… **62**
（1）障害福祉サービスの利用状況 …… 62
（2）障害福祉サービスを利用する際の不便 …… 64
10　災害時の対応について …… **66**
（1）災害に備えた特別な対策 …… 66
（2）近所に助けてくれる人の有無 …… 68
11　障害者差別について …… **69**
（1）障害者差別解消法の理解 …… 69
（2）障害者差別を感じる場面 …… 70
（3）差別を受けた際の相談先 …… 73
（4）相談しなかった（できなかった）理由 …… 75
12　現在の暮らしと今後のことについて …… **77**
（1）江戸川区での暮らしの満足度 …… 77
（2）希望する将来の暮らし …… 80
（3）充実すべき障害者福祉施策 …… 82
13　意見・要望 …… **84**

Ⅱ　医療的ケア者・児調査 …… **89**
1　回答者について …… **89**
（1）回答者の属性 …… 89
2　本人の属性について …… **89**
（1）年齢 …… 89
（2）現在の生活場所 …… 90
（3）同居者 …… 90

３　本人の状況について ・・・ 91
（１）必要とする医療的ケア・・91
（２）障害者手帳の有無・・92
（３）障害の種類（身体） ・・・94
（４）主な介護者・・・94
（５）家族以外の介護者の有無・・・95
（６）介護者の就業状況・・・96
（７）介護の悩みや不安・・・97
（８）不安や悩みの内容・・・99
（９）介護者の負担軽減のために必要なサービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
４　サービスの利用等について ・・・ 102
（１）在宅医療サービス、障害福祉サービスの利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
（２）平日の日中の過ごす場所・・104
５　相談や情報入手について ・・・ 105
（１）相談相手（場所） ・・・105
（２）医療的ケアに関する情報の入手源・・・107
（３）医療的ケア児・者の生活や医療的ケア等の知りたい情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
６　災害時の対応について ・・・ 111
（１）災害に備えた特別な対策・・・111
（２）近所に助けてくれる人の有無・・・112
（３）災害時の不安や具体的な支援の内容・・113
７　今後のことについて ・・ 115
（１）充実すべき障害者福祉施策・・・115
８　意見・要望 ・・・ 116

第Ⅰ章　調査の概要

１　調査目的

本調査は令和６年度から令和８年度までを計画期間とする「第７期江戸川区障害福祉計画・第３期江戸川区障害児福祉計画」の策定にあたり、区内の障害や疾病のある方の実態や障害福祉サービス等に対する意向を把握するために実施した。

なお、アンケート調査名は「江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査」とした。

２　調査対象者及び回収状況

【障害者・児調査】

	調査対象者	発送数	回収数	回収率	本文中での表記
1	身体障害者手帳所持者	600件	384件	64.0%	身体障害
2	愛の手帳所持者	200件	114件	57.0%	知的障害
3	精神障害者保健福祉手帳所持者	250件	142件	56.8%	精神障害
4	難病手当受給者	100件	63件	63.0%	難病
5	児童通所受給者証所持者	100件	67件	67.0%	児童通所
6	重症心身障害児・者	87件	62件	71.3%	重症心身障害
合　計		1,337件	832件	62.2%	

【医療的ケア者・児調査】

調査対象者	発送数	回収数	回収率	本文中での表記
医療的ケア者・児	163件	117件	71.8%	医療的ケア

３　調査方法と調査期間

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：【障害者・児調査】　　令和４年10月21日（金）～11月８日（火）

　　【医療的ケア者・児調査】令和４年11月１日（火）～11月25日（金）

４　調査結果を見るうえでの注意事項

・本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数である。

・百分率（%）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示した。したがって、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足しあわせて100%にならない場合がある。

・複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。

・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

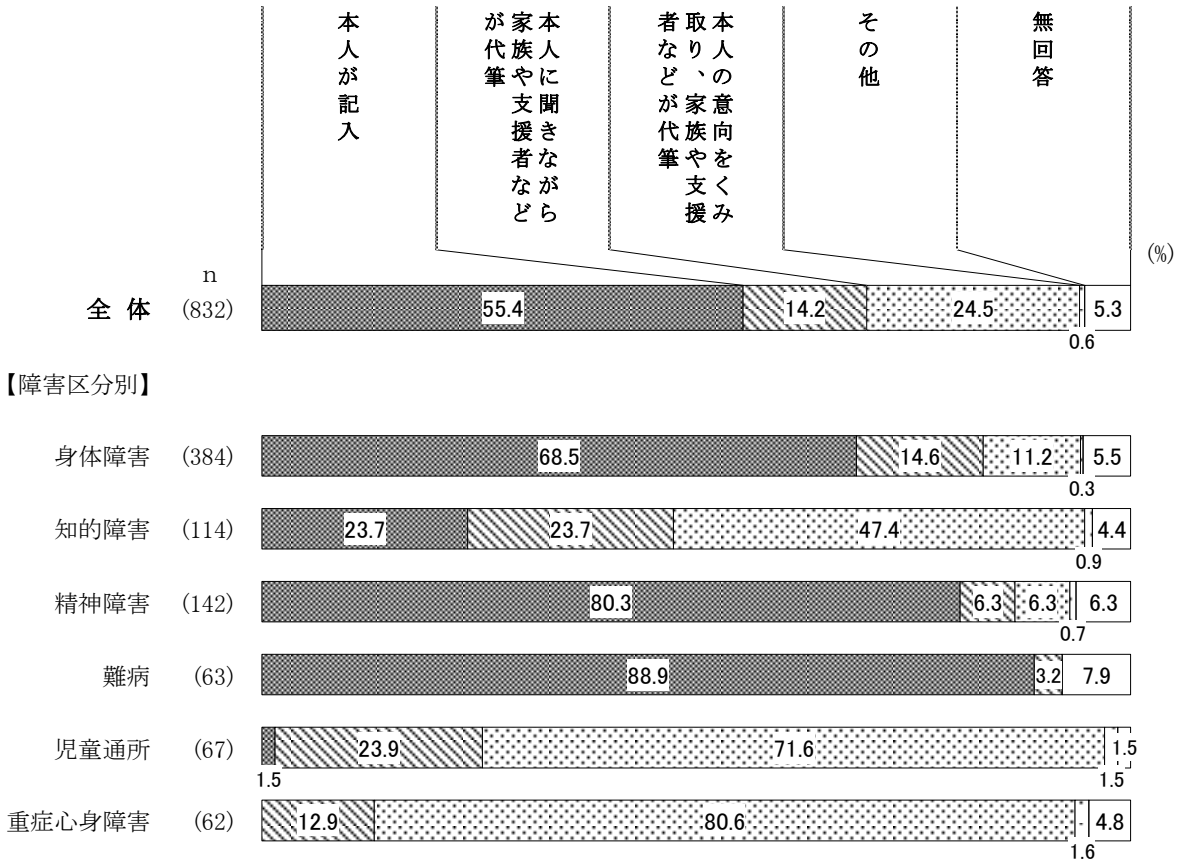
第２章　調査結果の詳細

Ⅰ　障害者・児調査

1　回答者について

（1）回答者の属性

問１　回答されている方はどなたですか。（１つに○）

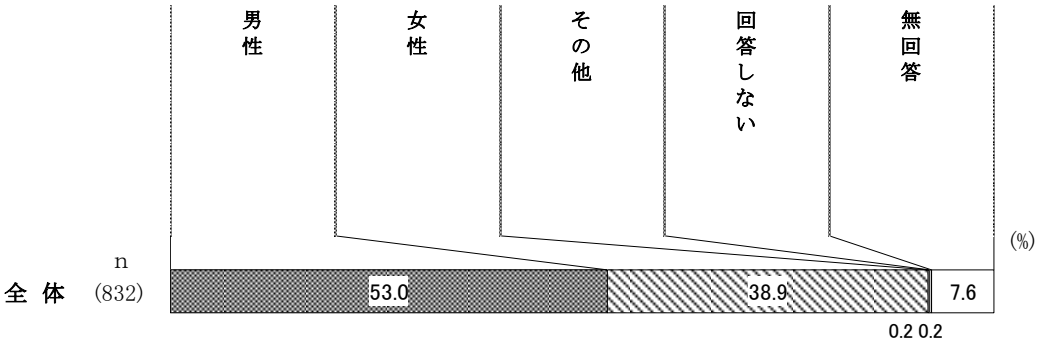


2　本人の属性について

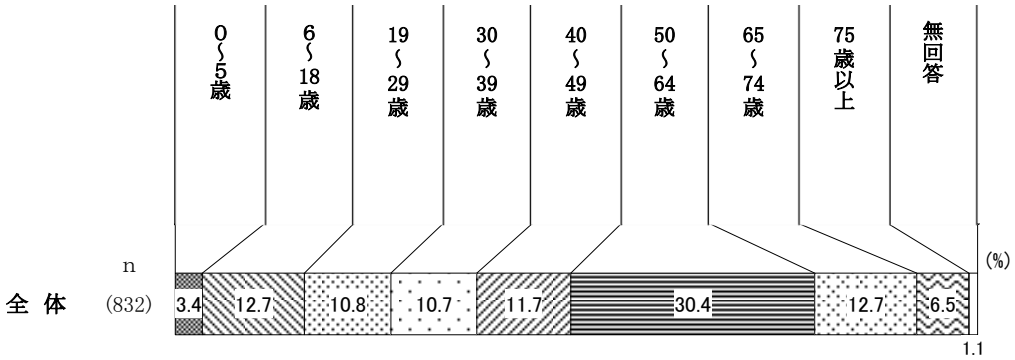
（1）性別、年齢、居住地域

問２　あなたの性別と年齢、お住まいをお答えください。（それぞれ１つに○）

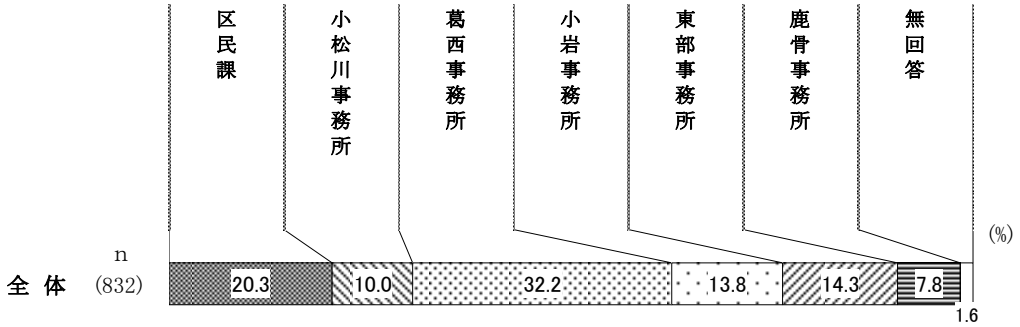
① 性　別



② 年　齢



③ 居住地域



（2）現在の生活場所

問３　あなたは現在どこで生活していますか。（１つに○）
※週末だけご自宅に戻られている方などは、一番長く生活している場所をお答えください。

現在の生活場所は、「自宅（持ち家・家族の持ち家）」が57.5%、「自宅（賃貸住宅）」が35.9%となっている。

障害区分別にみると、「自宅（持ち家・家族の持ち家）」はいずれの障害区分でも５割以上となっている。「自宅（賃貸住宅）」は身体障害（39.3%）が約４割と多い。

(%)

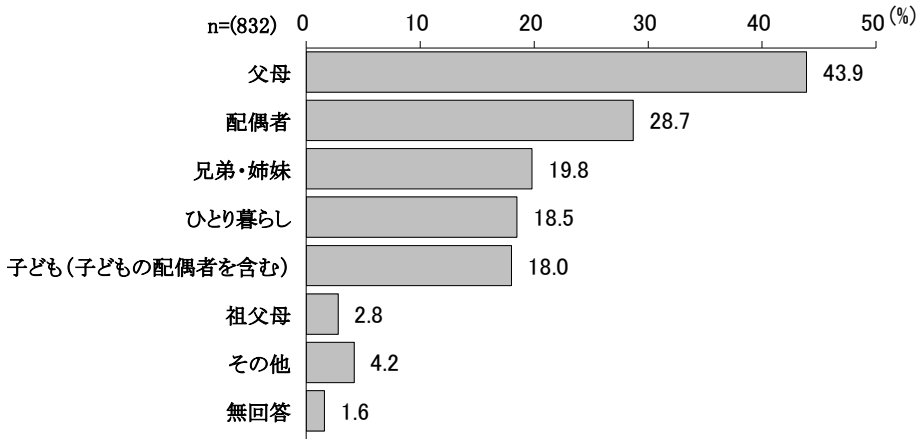
		全体	自宅（持ち家・家族の持ち家）	自宅（賃貸住宅）	グループホーム	障害者入所施設	介護保険施設	病院	その他	無回答
全体		832	478	299	14	4	5	7	12	13
		100.0	57.5	35.9	1.7	0.5	0.6	0.8	1.4	1.6
障害区分別	身体障害	384	207	151	2	1	5	5	6	7
		100.0	53.9	39.3	0.5	0.3	1.3	1.3	1.6	1.8
	知的障害	114	71	34	6	1	－	－	2	－
		100.0	62.3	29.8	5.3	0.9	－	－	1.8	－
	精神障害	142	77	51	4	－	－	1	4	5
		100.0	54.2	35.9	2.8	－	－	0.7	2.8	3.5
	難病	63	41	21	－	－	－	－	－	1
		100.0	65.1	33.3	－	－	－	－	－	1.6
	児童通所	67	42	25	－	－	－	－	－	－
		100.0	62.7	37.3	－	－	－	－	－	－
	重症心身障害	62	40	17	2	2	－	1	－	－
		100.0	64.5	27.4	3.2	3.2	－	1.6	－	－

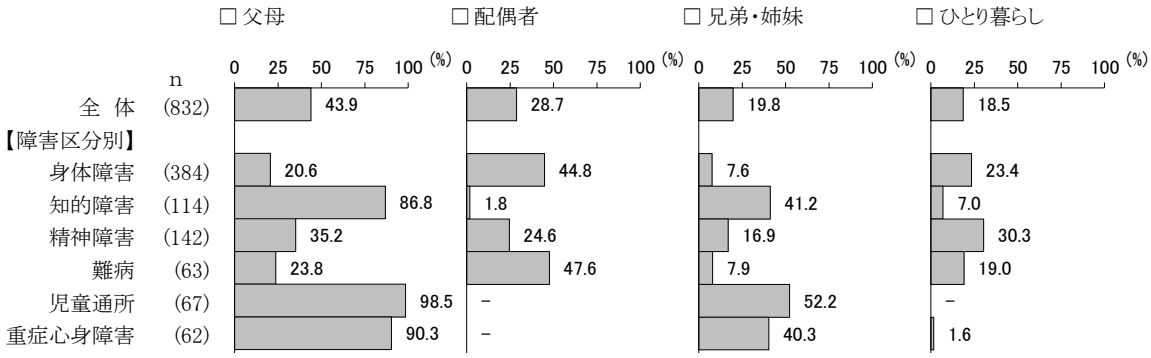
（3）同居者

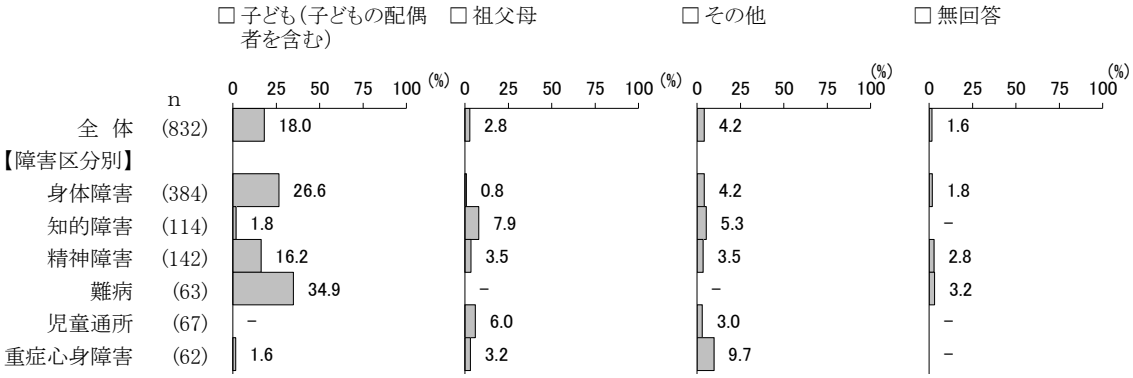
問４　あなたはどなたとお住まいですか。（あてはまるものすべてに○）

同居者は、「父母」が43.9％、「配偶者」が28.7％と多く、これに「兄弟・姉妹」（19.8％）、「ひとり暮らし」（18.5％）、「子ども（子どもの配偶者を含む）」（18.0％）が１割台と続いている。

障害区分別にみると、児童通所と重症心身障害では「父母」が９割以上を占め、知的障害でも86.8％と多くなっている。この他、身体障害と難病では「配偶者」が４割台、児童通所では「兄弟・姉妹」も52.2％と多くなっている。





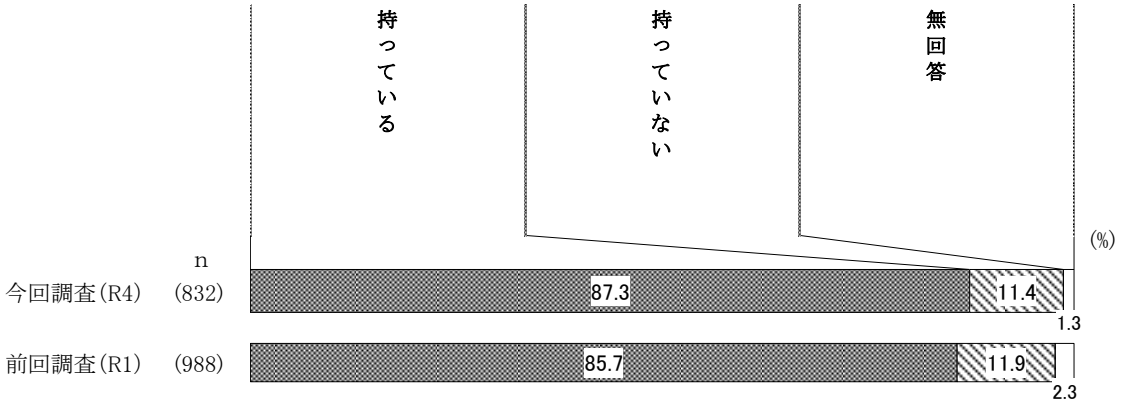


3　本人の状況について

（1）障害者手帳の有無

問５　あなたは、障害者手帳をお持ちですか。（１つに○）

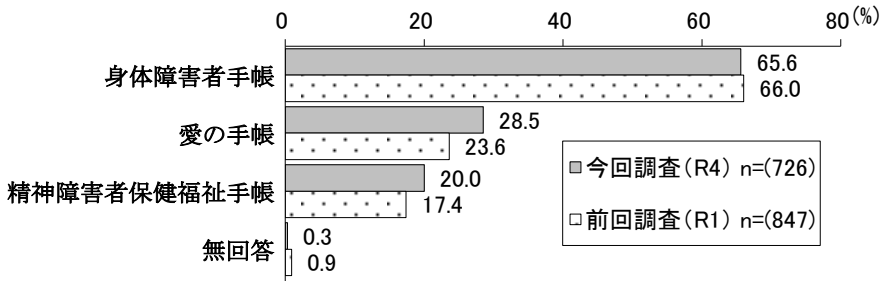
障害者手帳を「持っている」は87.3%、「持っていない」は11.4%となっている。



（2）手帳の種類と等級

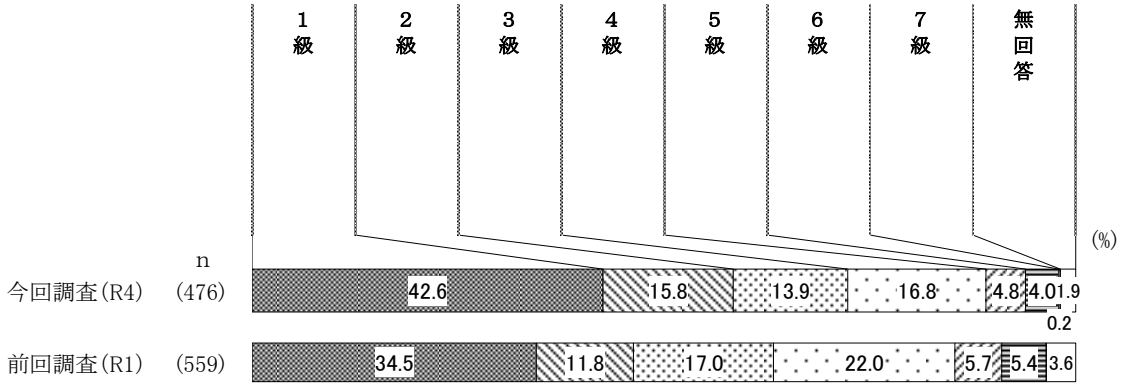
問５で「持っている」と回答した方のみ
問６　お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

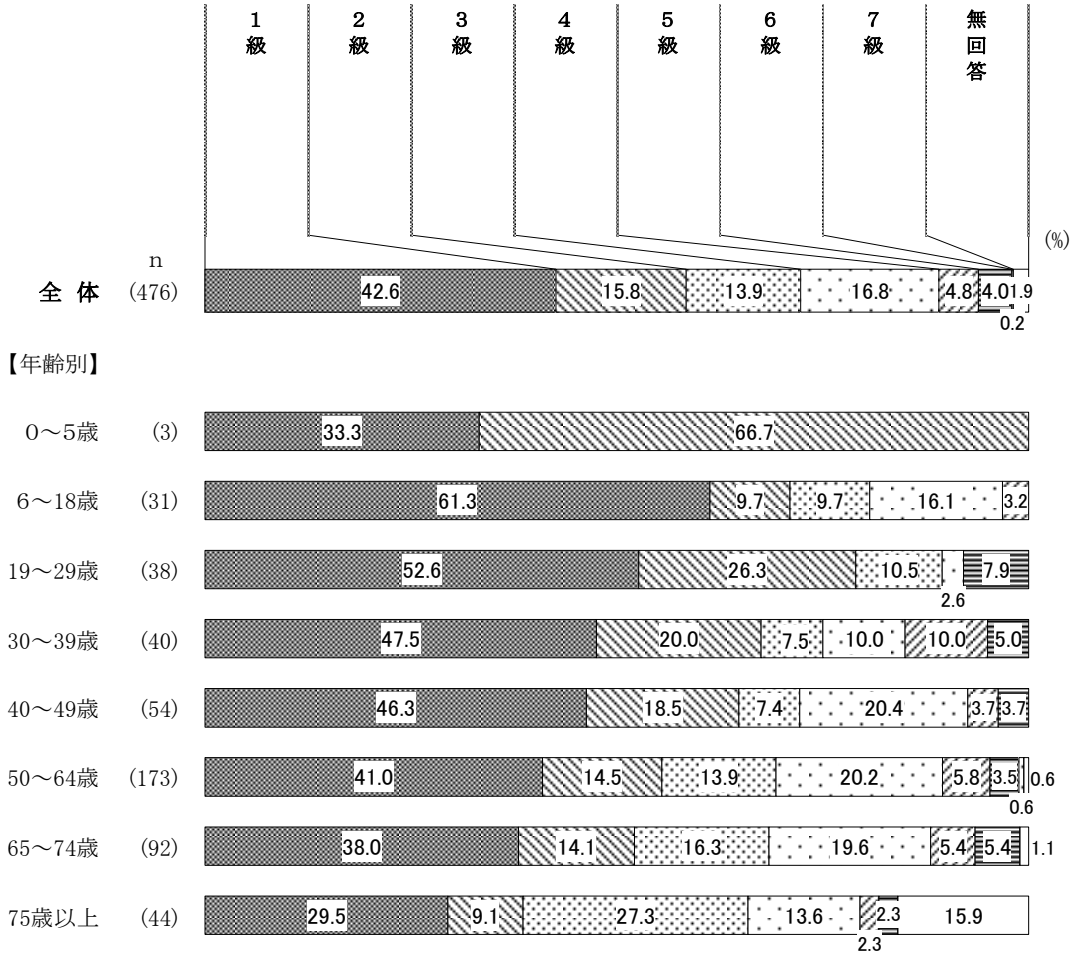
所持している手帳の種類は、「身体障害者手帳」が65.6%、「愛の手帳」が28.5%、「精神障害者保健福祉手帳」が20.0%となっている。



①身体障害者手帳等級

身体障害者手帳の等級は、「１級」が42.6％、「４級」(16.8%)、「２級」(15.8％)、「３級」(13.9％）が１割台となっている。
年齢別にみると、６～18歳では「１級」が61.3％と最も多くなっている。

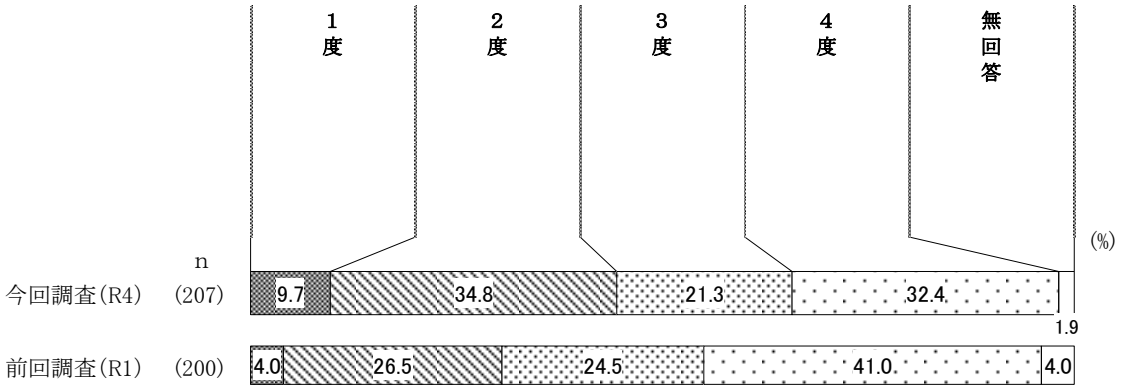


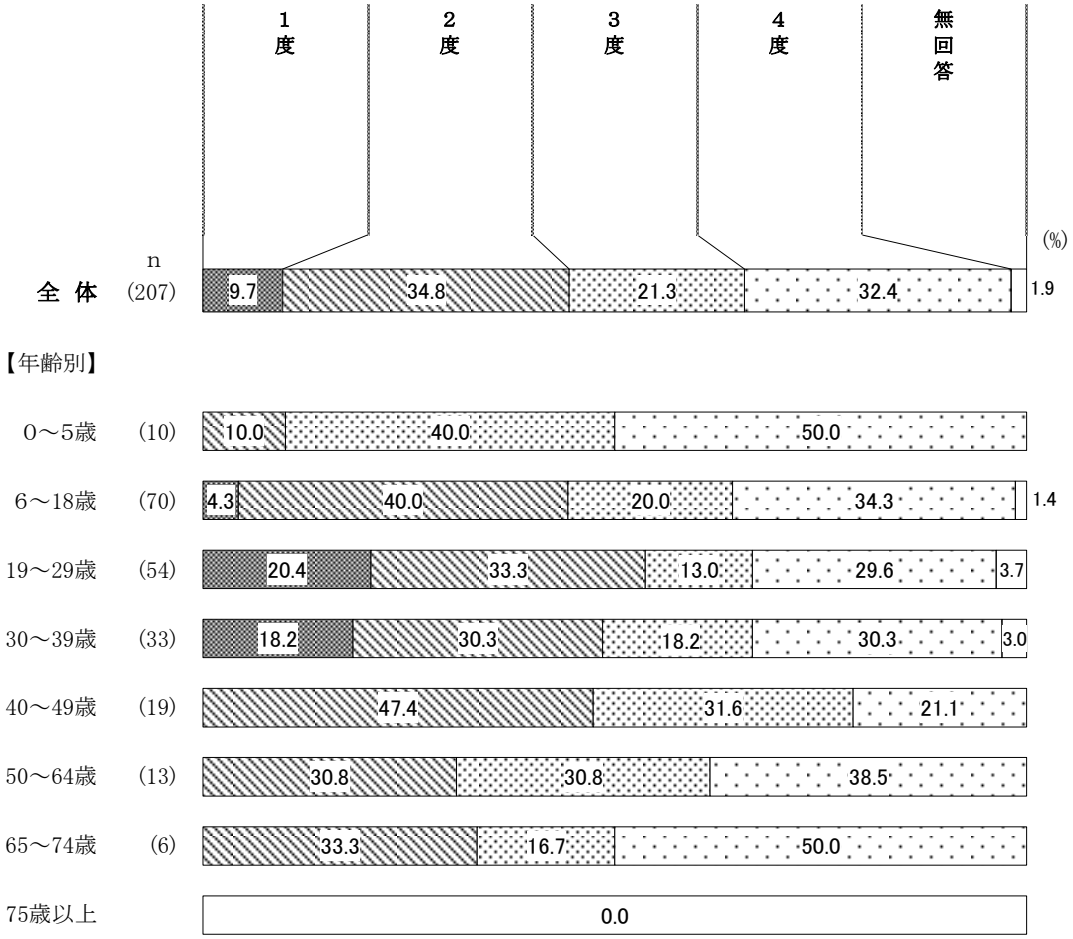


②愛の手帳等級

愛の手帳の等級は、「２度」(34.8%)、「４度」(32.4%) が３割台、「３度」が21.3%となっている。

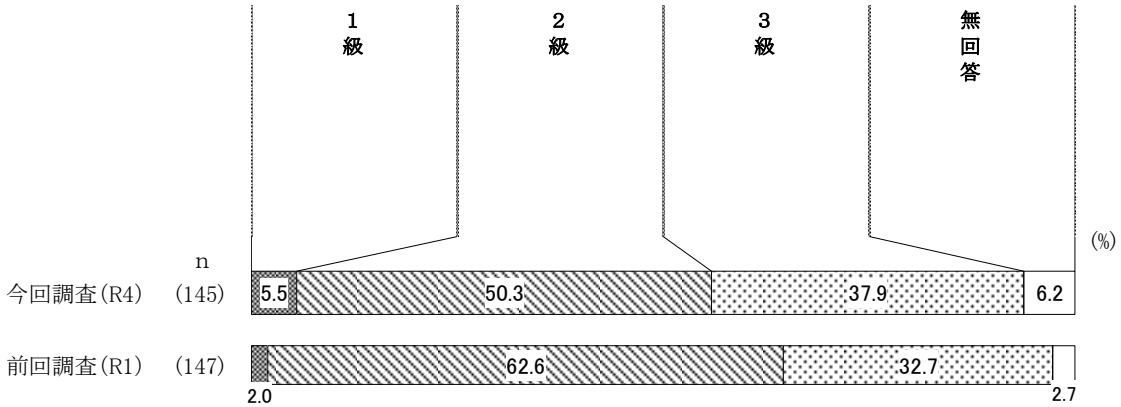
年齢別にみると、19～29歳では「１度」(最重度) が20.4%と他の年齢よりも多くみられる。また、６～18歳では「２度」が40.0%と多くなっている。

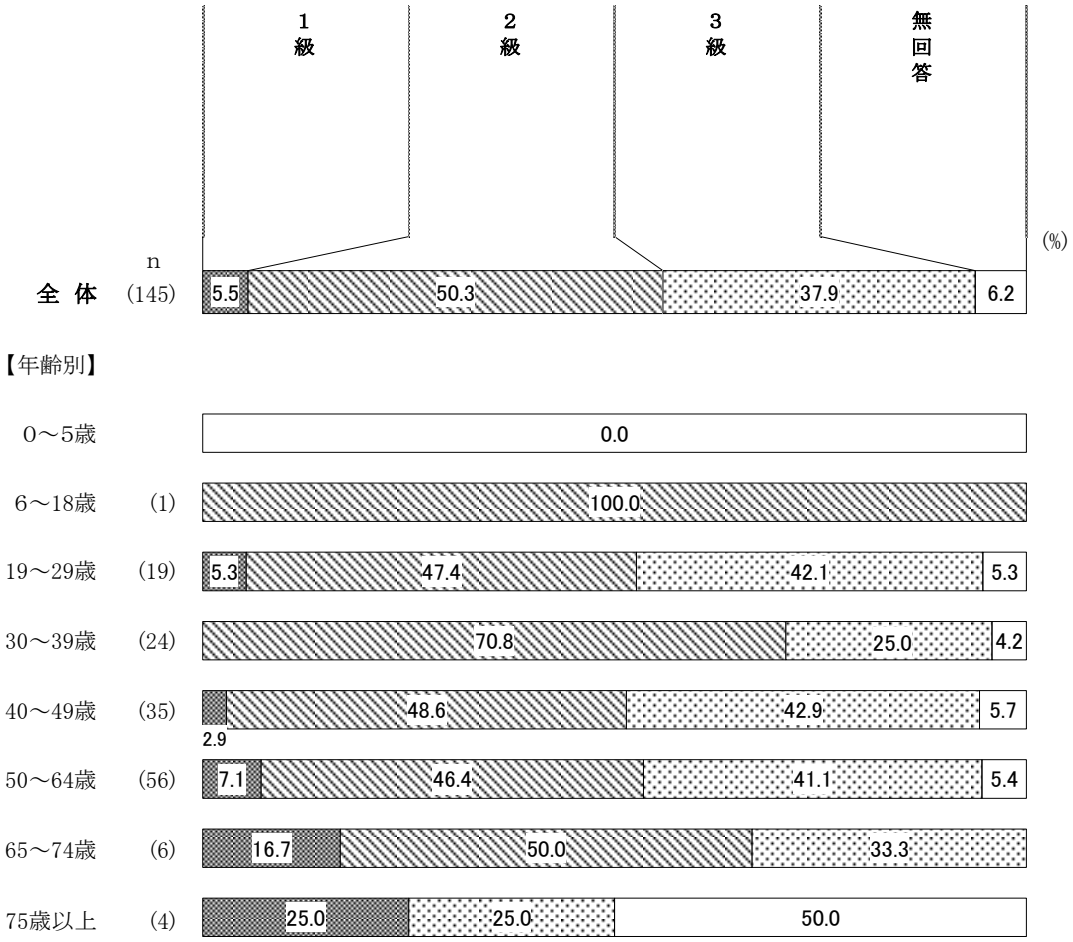




③精神障害者保健福祉手帳等級

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「２級」が50.3%、「３級」が37.9%となっている。
年齢別にみると、40～64歳の年齢層では「２級」が半数近くを占めている。



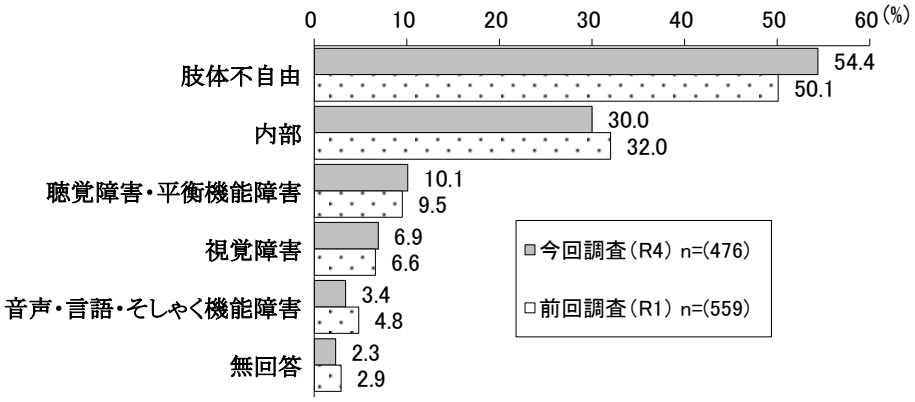


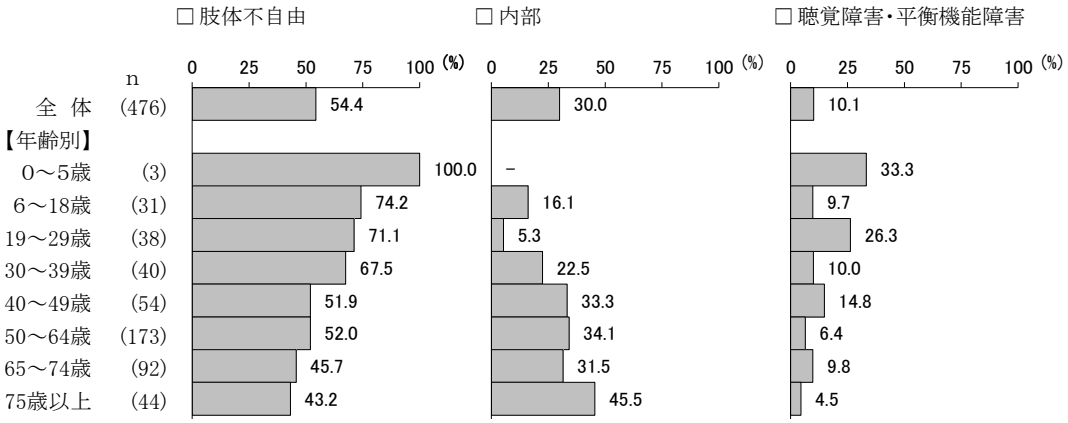
（３）身体障害の種類

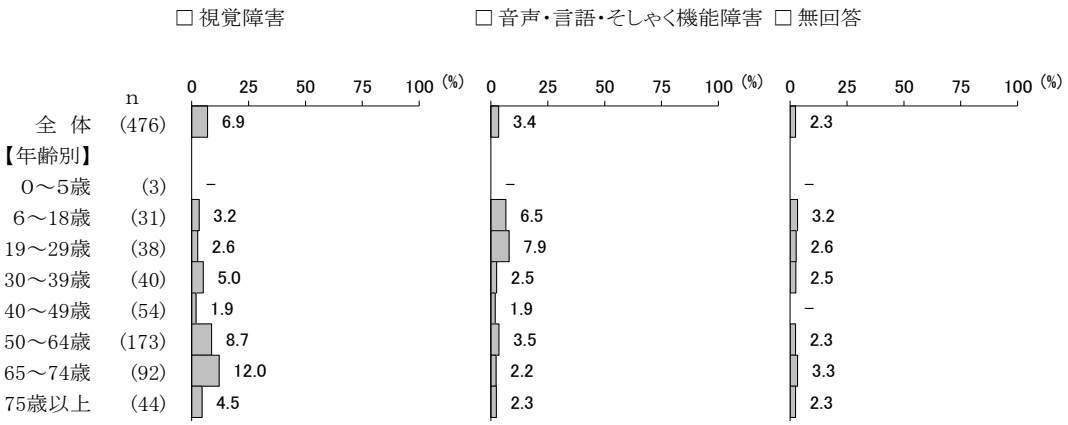
問６で「身体障害者手帳」と回答した方のみ
問６－１　障害の種類はどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

身体障害の種類は、「肢体不自由」が54.4％と最も多く、これに「内部」が30.0％と続いている。

年齢別にみると、「肢体不自由」は０～39歳の年齢層で、「内部」は40歳以上の年齢で多くなっている。





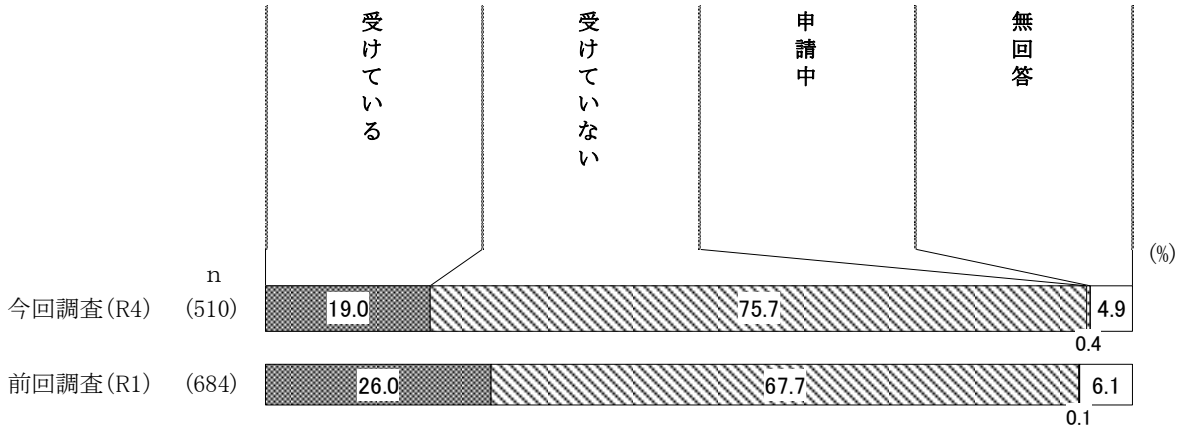


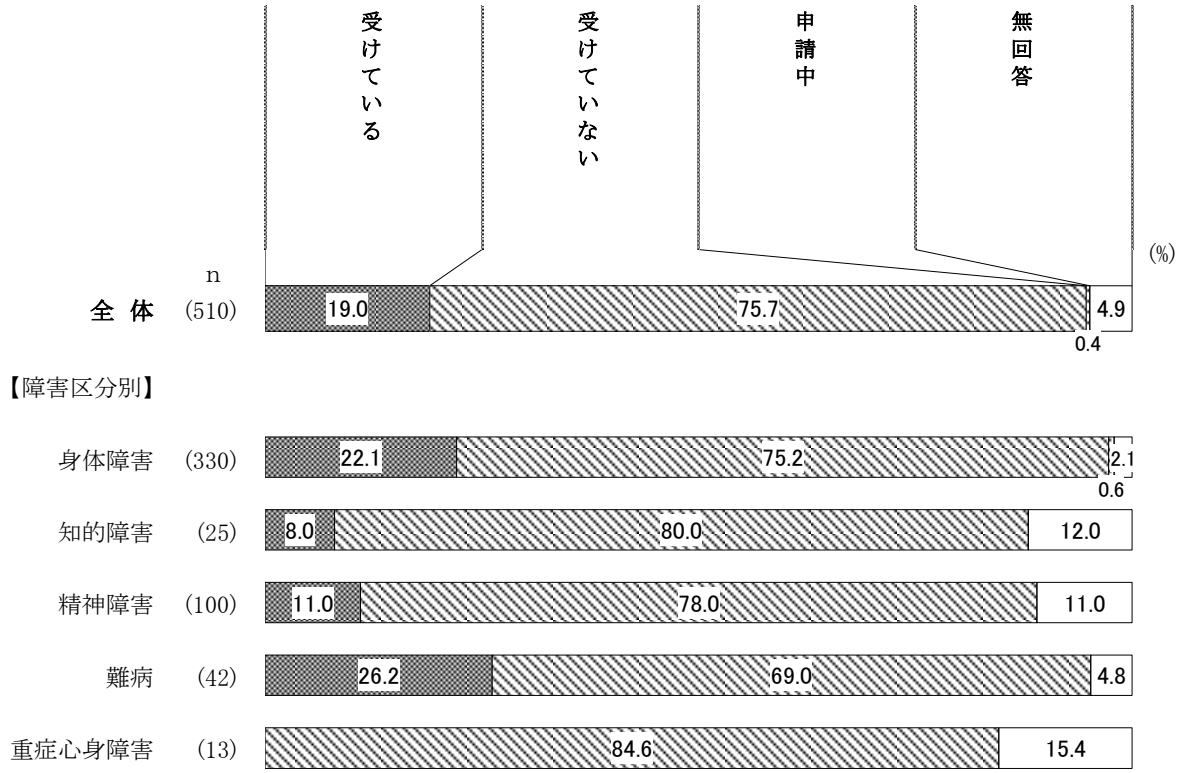
（４）介護保険の認定状況（40歳以上の方のみ）

問７　現在、介護保険の認定を受けていますか。（１つに○）

現在、介護保険の認定を「受けている」は19.0%、「受けていない」は75.7%となっている。

障害区分別にみると、「受けている」は難病（26.2%）、身体障害（22.1%）が２割台となっている。

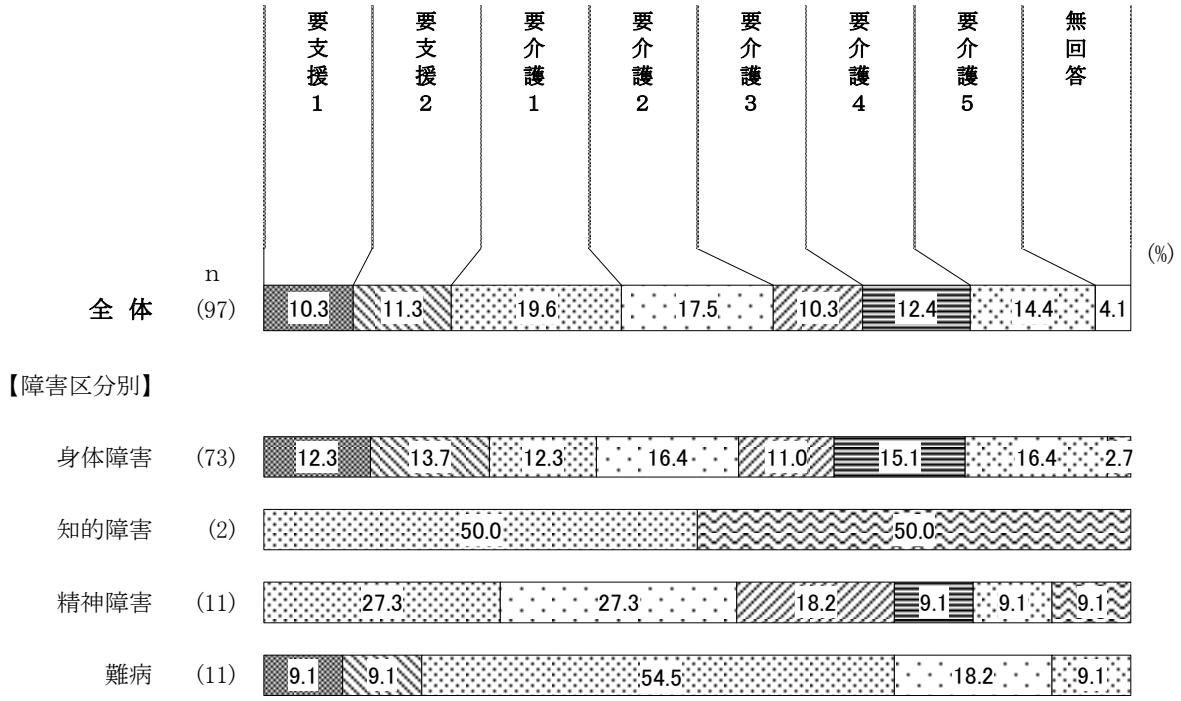




（５）介護保険の認定内容（40歳以上の方のみ）

問７で、「受けている」と回答した方のみ
問７－１　あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。（１つに○）

認定内容は幅広く分布しており、「要介護１」(19.6%)、「要介護２」(17.5%）が多くなっている。



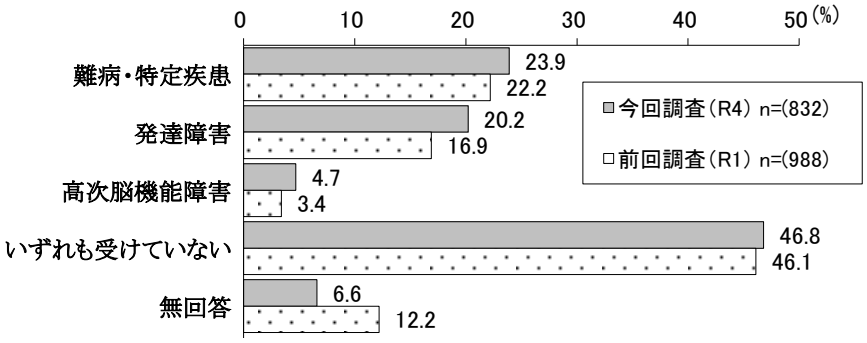
（６）受けている障害や疾患の診断

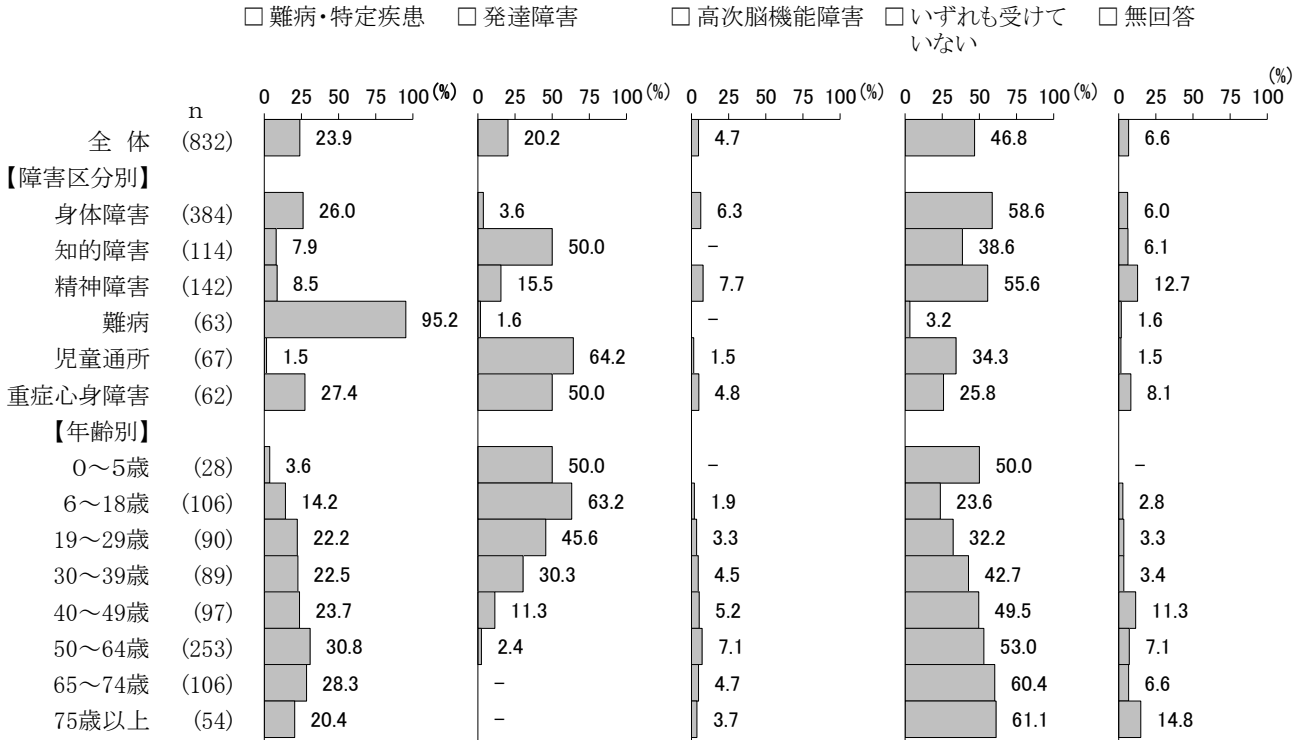
問８　あなたは現在、以下の診断を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

障害や疾患の診断状況は、「難病・特定疾患」が23.9％、「発達障害」が20.2％、「高次脳機能障害」が4.7％となっている。また、「いずれも受けていない」は46.8％となっている。

障害区分別にみると、「難病・特定疾患」は難病が95.2％、「発達障害」は児童通所が64.2％、知的障害と重症心身障害が50.0％と多くなっている。

年齢別にみると、「難病・特定疾患」は50～74歳の年齢にかけて３割前後となっている。「発達障害」は０～29歳が４割以上と多くなっている。





4　日常生活の手助けについて

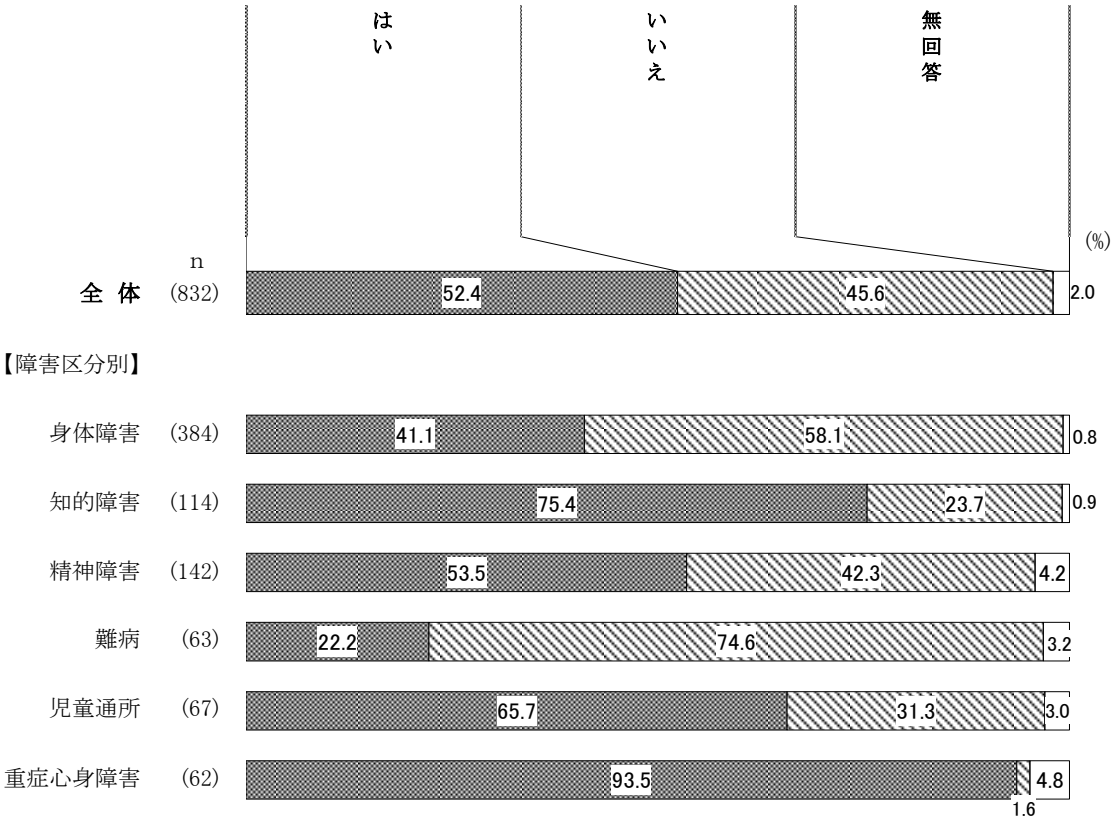
（1）介助や支援の必要性の有無

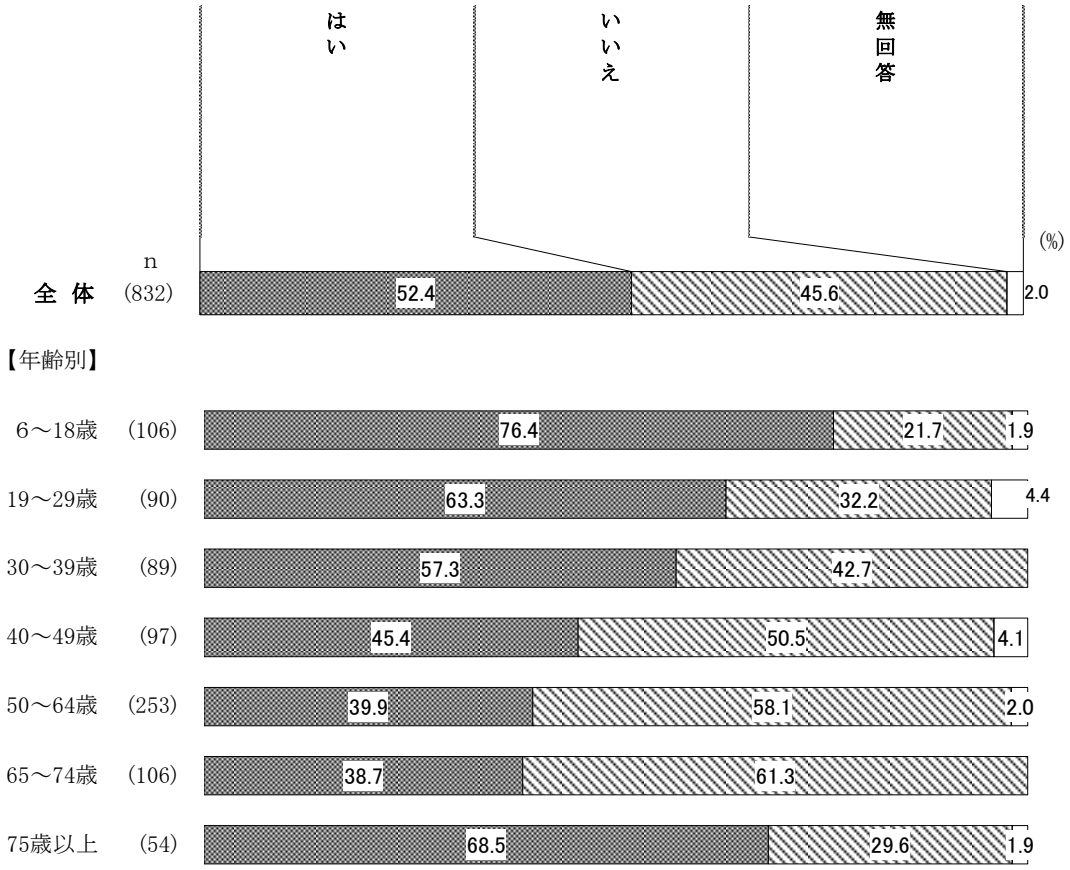
問９　あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。（１つに○）

普段の生活の中で、何らかの介助や支援が「必要」（はい）は52.4%、「不要」（いいえ）は45.6%となっている。

障害区分別にみると、「必要」（はい）は重症心身障害が93.5%と最も多く、知的障害が75.4%、児童通所が65.7%となっている。

年齢別にみると、「必要」（はい）は年齢が高くなるほど減少しており、６～39歳までは５割以上を占める。40歳以上の年齢からは５割を下回るが、75歳以上では68.5%と多くなっている。





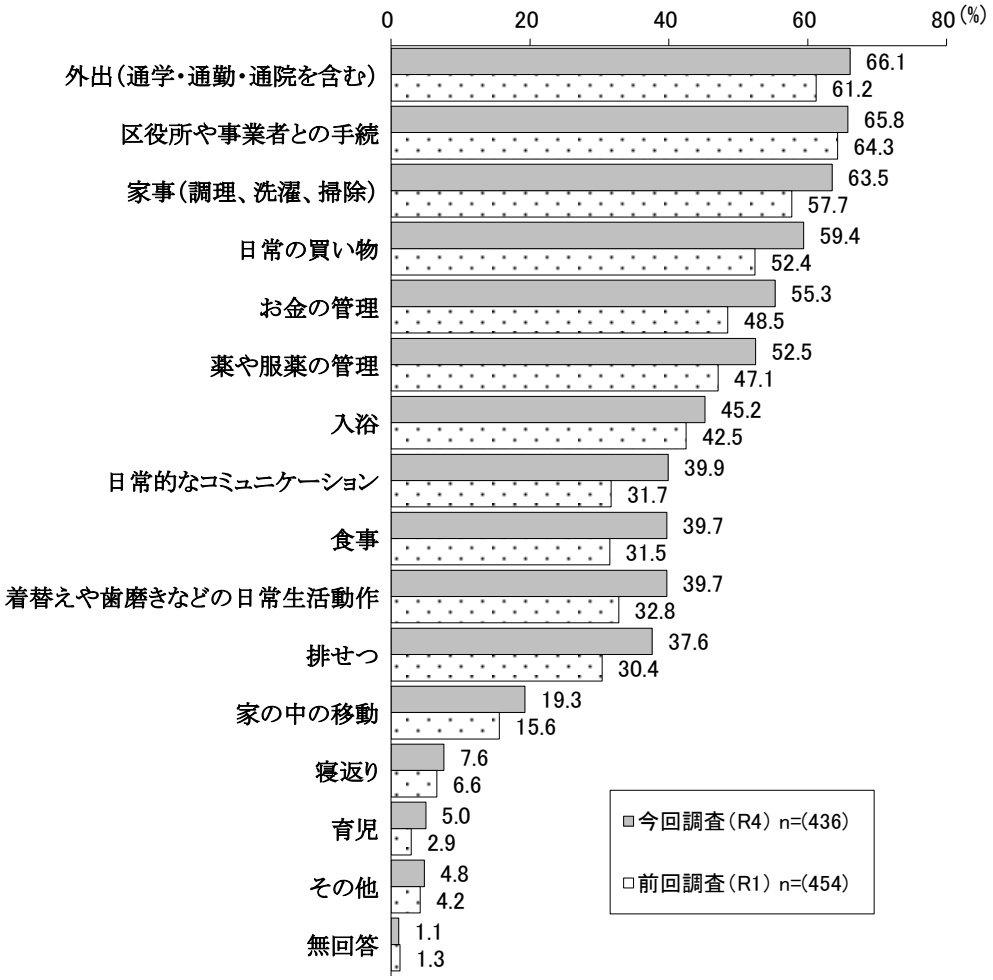
※０～５歳は分析対象から除き、グラフでの表記はしていない

（２）介助や支援が必要な場面

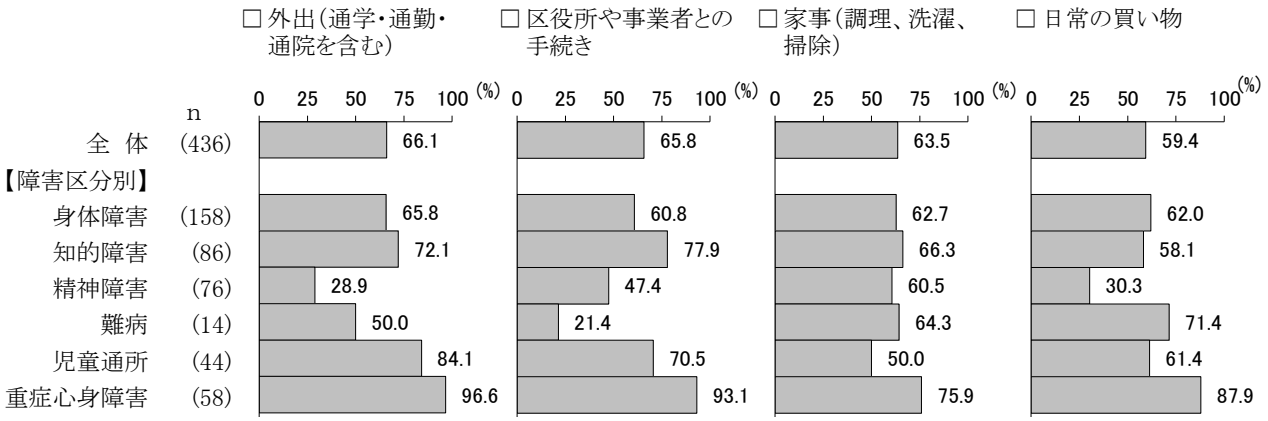
問９で「はい」と回答した方のみ
問９－１　どのような場面で介助や支援が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

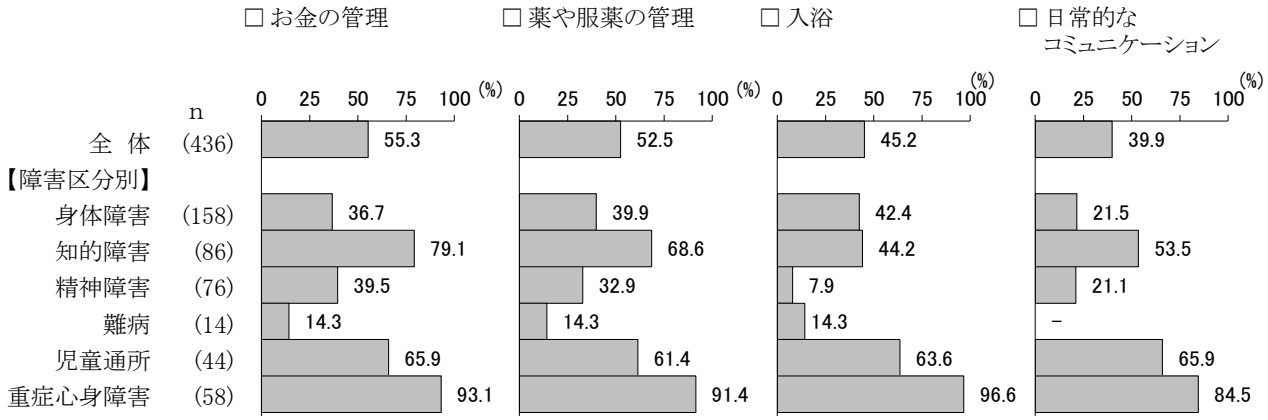
介助や支援が必要になる場面は、「外出（通学・通勤・通院を含む)」(66.1%)、「区役所や事業者との手続き」(65.8%)、「家事（調理、洗濯、掃除)」(63.5%）が６割台と多くなっている。以下、「日常の買い物」(59.4%)、「お金の管理」(55.3%)、「薬や服薬の管理」(52.5%）が５割台と続いている。

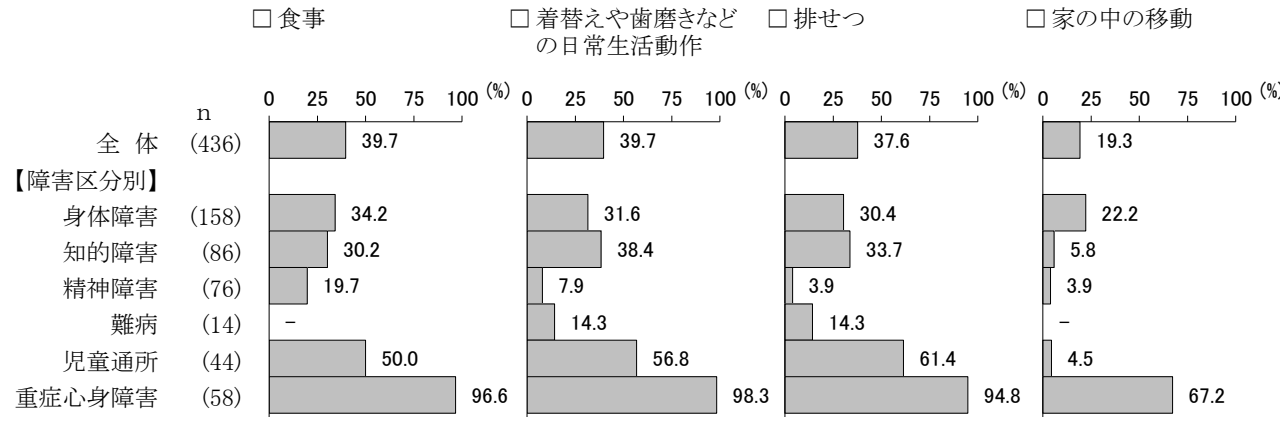
障害区分別にみると、「家事（調理、洗濯、掃除)」はすべての障害で５割以上と区分に関わらず共通した項目となっている。重症心身障害は「外出（通学・通勤・通院を含む)」、「区役所や事業者との手続き」、「お金の管理」、「薬や服薬の管理」、「入浴」、「食事」、「着替えや歯磨きなどの日常生活動作」、「排せつ」で９割を超える。「お金の管理」は知的障害でも約８割と多くなっている。



障害区分別(上位12項目)







（3）主な介助者

問９で「はい」と回答した方のみ
問９－２　介助や支援をしている方は、主にどなたですか。（主なもの１つに○）

主な介助者、支援者は、「父母」が42.4%、「配偶者」が15.6%となっている。

障害区分別にみると、「父母」は知的障害（77.9%）、児童通所（77.3%）、重症心身障害（75.9%）が７割台と他の障害区分より多い。「配偶者」は難病が35.7%、次いで身体障害が30.4%と３割を超えている。「ホームヘルパー」は精神障害が13.2%となっている。

（%）

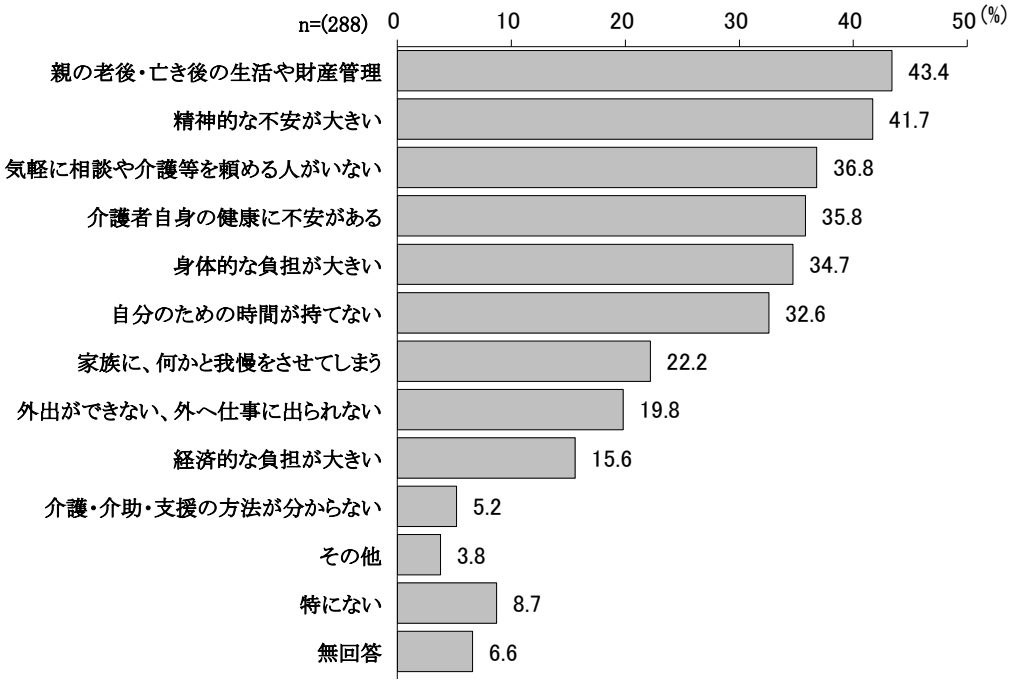
		全体	配偶者	父母	子ども（子どもの配偶者を含む）	兄弟・姉妹	祖父母	ホームヘルパー	施設や病院・学校の職員	ボランティア	その他	無回答
今回調査(R4)		436	68	185	25	8	2	32	19	－	14	83
		100.0	15.6	42.4	5.7	1.8	0.5	7.3	4.4	－	3.2	19.0
前回調査(R1)		454	83	192	46	17	1	35	38	－	26	16
		100.0	18.3	42.3	10.1	3.7	0.2	7.7	8.4	－	5.7	3.5
障害区分別	身体障害	158	48	25	18	3	－	17	10	－	5	32
		100.0	30.4	15.8	11.4	1.9	－	10.8	6.3	－	3.2	20.3
	知的障害	86	－	67	－	1	－	3	2	－	2	11
		100.0	－	77.9	－	1.2	－	3.5	2.3	－	2.3	12.8
	精神障害	76	15	12	7	4	1	10	3	－	5	19
		100.0	19.7	15.8	9.2	5.3	1.3	13.2	3.9	－	6.6	25.0
	難病	14	5	3	－	－	－	2	－	－	2	2
		100.0	35.7	21.4	－	－	－	14.3	－	－	14.3	14.3
	児童通所	44	－	34	－	－	1	－	1	－	－	8
		100.0	－	77.3	－	－	2.3	－	2.3	－	－	18.2
	重症心身障害	58	－	44	－	－	－	－	3	－	－	11
		100.0	－	75.9	－	－	－	－	5.2	－	－	19.0

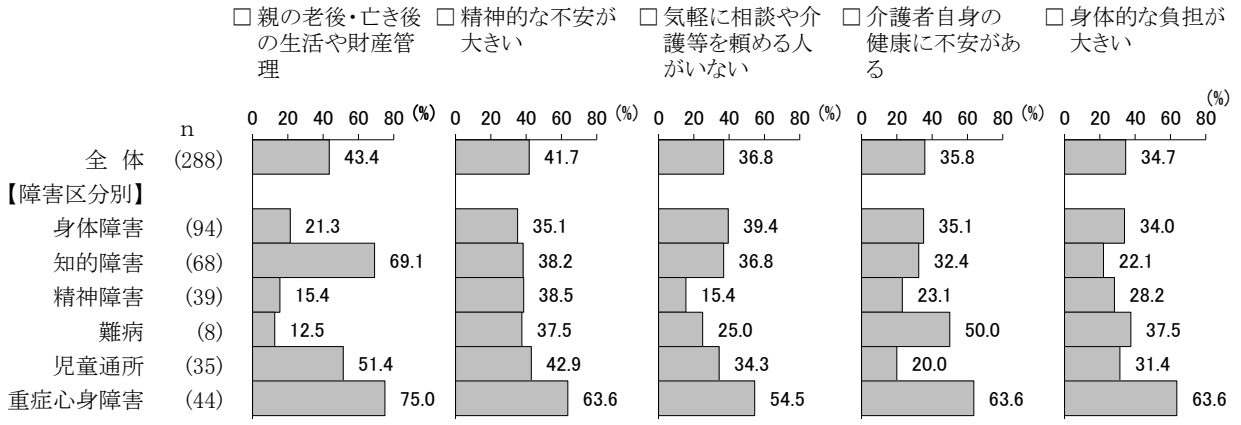
（４）介護の悩みや不安

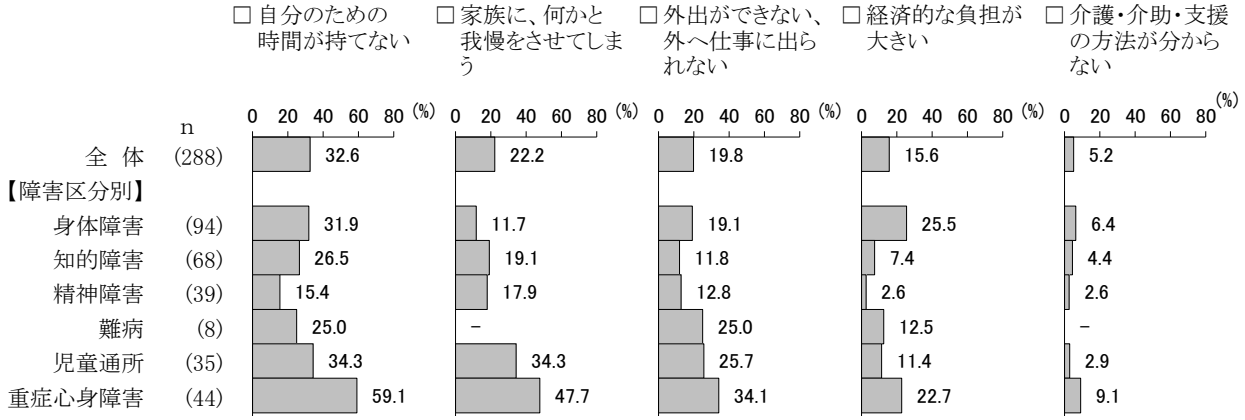
問９－２で「配偶者」「父母」「子ども」「兄弟姉妹」「祖父母」と回答した方のみ
問10　介護にあたり、どのような悩みや不安がありますか。（あてはまるものすべてに○）

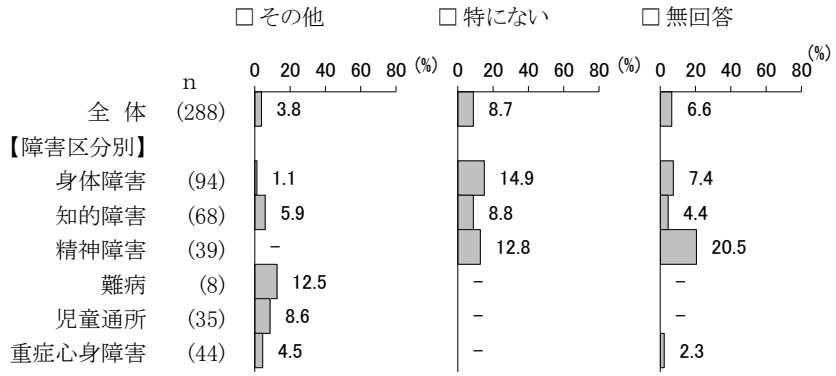
介護の悩みや不安は、「親の老後・亡き後の生活や財産管理」（43.4%）、「ストレスや緊張感など、精神的な不安が大きい」（41.7%）が４割台と多く、「何かあったとき、気軽に相談や介護等を頼める人がいない」（36.8%）、「介護者自身の健康に不安がある」（35.8%）、「睡眠不足や疲労など、身体的な負担が大きい」（34.7%）、「休業やくつろぎ、余暇など、自分のための時間が持てない」（32.6%）が３割台と続いている。

障害区分別にみると、「親の老後・亡き後の生活や財産管理」は重症心身障害が75.0%と多く、次いで知的障害（69.1%）、児童通所（51.4%）が多くなっている。




□親の老後･亡き後の生活や財産管理
□精神的な不安が大きい
□気軽に相談や介護等を頼める人がいない
□介護者自身の健康に不安がある
□身体的な負担が大きい
n
0 20 40 60 80 (%)
全 体 (288) 43.4 41.7 36.8 35.8 34.7
【障害区分別】
身体障害 (94) 21.3 35.1 39.4 35.1 34.0
知的障害 (68) 69.1 38.2 36.8 32.4 22.1
精神障害 (39) 15.4 38.5 15.4 23.1 28.2
難病 (8) 12.5 37.5 25.0 50.0 37.5
児童通所 (35) 51.4 42.9 34.3 20.0 31.4
重症心身障害 (44) 75.0 63.6 54.5 63.6 63.6


□自分のための時間が持てない
□家族に、何かと我慢をさせてしまう
□外出ができない、外へ仕事に出られない
□経済的な負担が大きい
□介護･介助･支援の方法が分からない
n
0 20 40 60 80 (%)
全 体 (288) 32.6 22.2 19.8 15.6 5.2
【障害区分別】
身体障害 (94) 31.9 11.7 19.1 25.5 6.4
知的障害 (68) 26.5 19.1 11.8 7.4 4.4
精神障害 (39) 15.4 17.9 12.8 2.6 2.6
難病 (8) 25.0 – 25.0 12.5 –
児童通所 (35) 34.3 34.3 25.7 11.4 2.9
重症心身障害 (44) 59.1 47.7 34.1 22.7 9.1

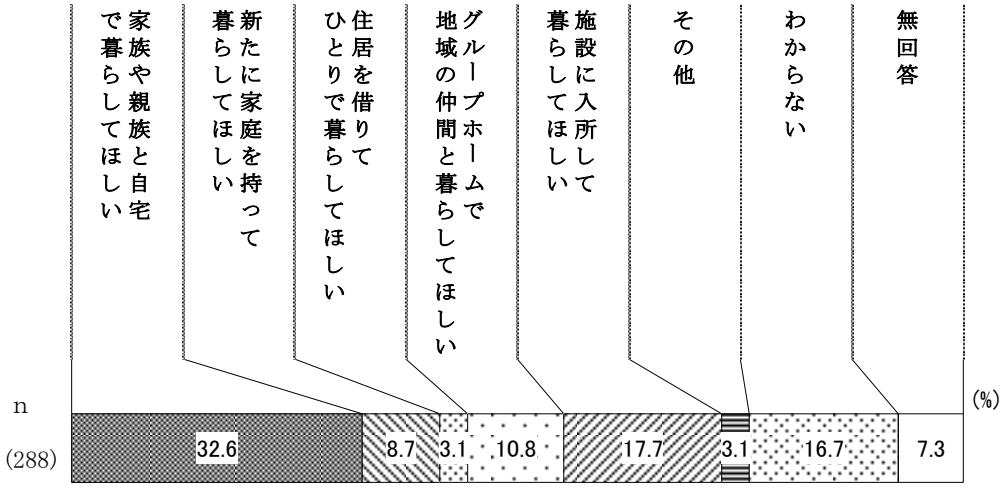

□その他
□特にない
□無回答
n
0 20 40 60 80 (%)
全 体 (288) 3.8 8.7 6.6
【障害区分別】
身体障害 (94) 1.1 14.9 7.4
知的障害 (68) 5.9 8.8 4.4
精神障害 (39) – 12.8 20.5
難病 (8) 12.5 – –
児童通所 (35) 8.6 – –
重症心身障害 (44) 4.5 – 2.3

（5）将来希望する暮らし

問９－２で「配偶者」「父母」「子ども」「兄弟姉妹」「祖父母」と回答した方のみ
問11　将来どのように暮らしてほしいと考えていますか。（１つに○）

将来希望する暮らしは、「家族や親族と自宅で暮らしてほしい」が32.6％と多く、「施設に入所して暮らしてほしい」（17.7％）、「グループホームで地域の仲間と暮らしてほしい」（10.8％）が１割台となっている。

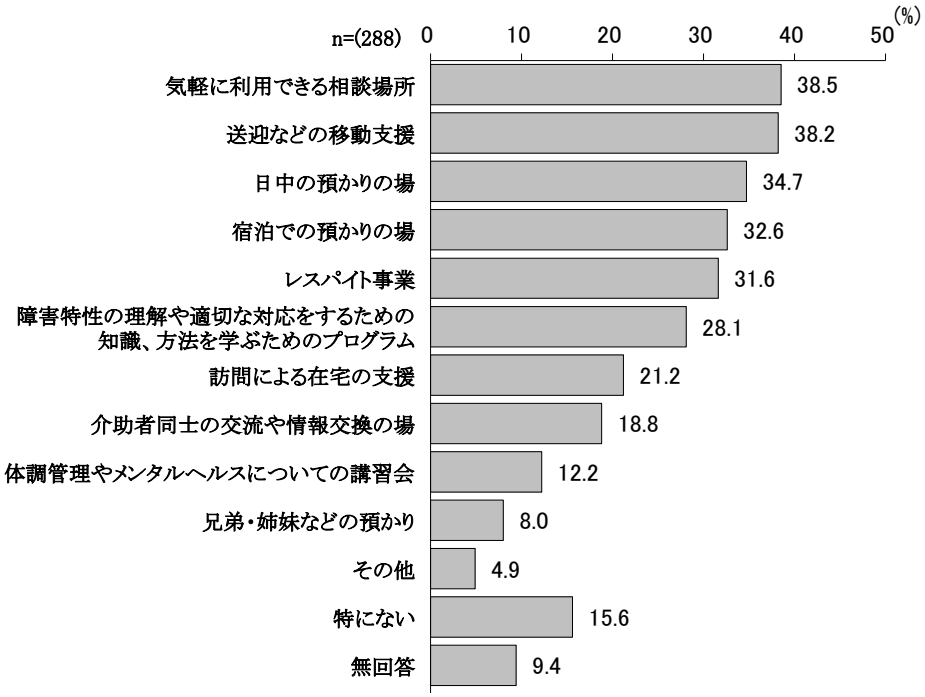
また、「わからない」も16.7％と多くなっている。



（６）介助者の負担軽減のために必要な支援やサービス

問９－２で「配偶者」「父母」「子ども」「兄弟姉妹」「祖父母」と回答した方のみ
問12　介助している家族のために、日々の負担を軽減するために必要と考える支援やサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

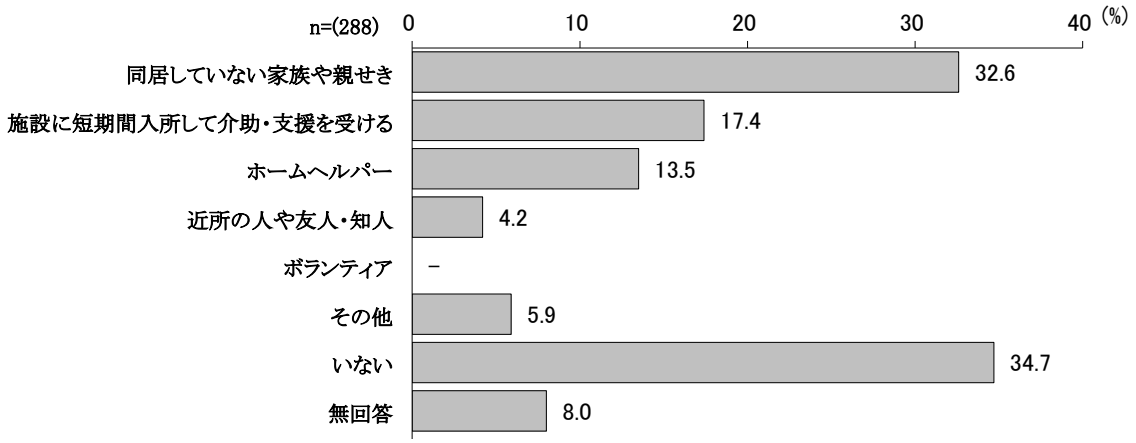
介助者の負担軽減のために必要な支援やサービスは、「気軽に利用できる相談場所（徒歩圏内に相談できる場所がある･WEBなど)」(38.5%)、「送迎などの移動支援」(38.2%)、「日中の預かりの場」(34.7%)、「宿泊での預かりの場」(32.6%)、「レスパイト事業（介護者に休養してもらうための事業)」(31.6%）が３割台となっている。



（７）家族以外の介助者の有無

問９－２で「配偶者」「父母」「子ども」「兄弟姉妹」「祖父母」と回答した方のみ
問13　家族以外の方に、介助している方を依頼できる人又は預けられる場所はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

家族以外の介助者は、「同居していない家族や親せき」が32.6％と最も多く、「施設に短期間入所して介助・支援を受ける」（17.4％）、「ホームヘルパー」（13.5％）が１割台となっている。一方、「介助・支援してくれる人がいない」が34.7％と多い。



5　相談や情報入手について

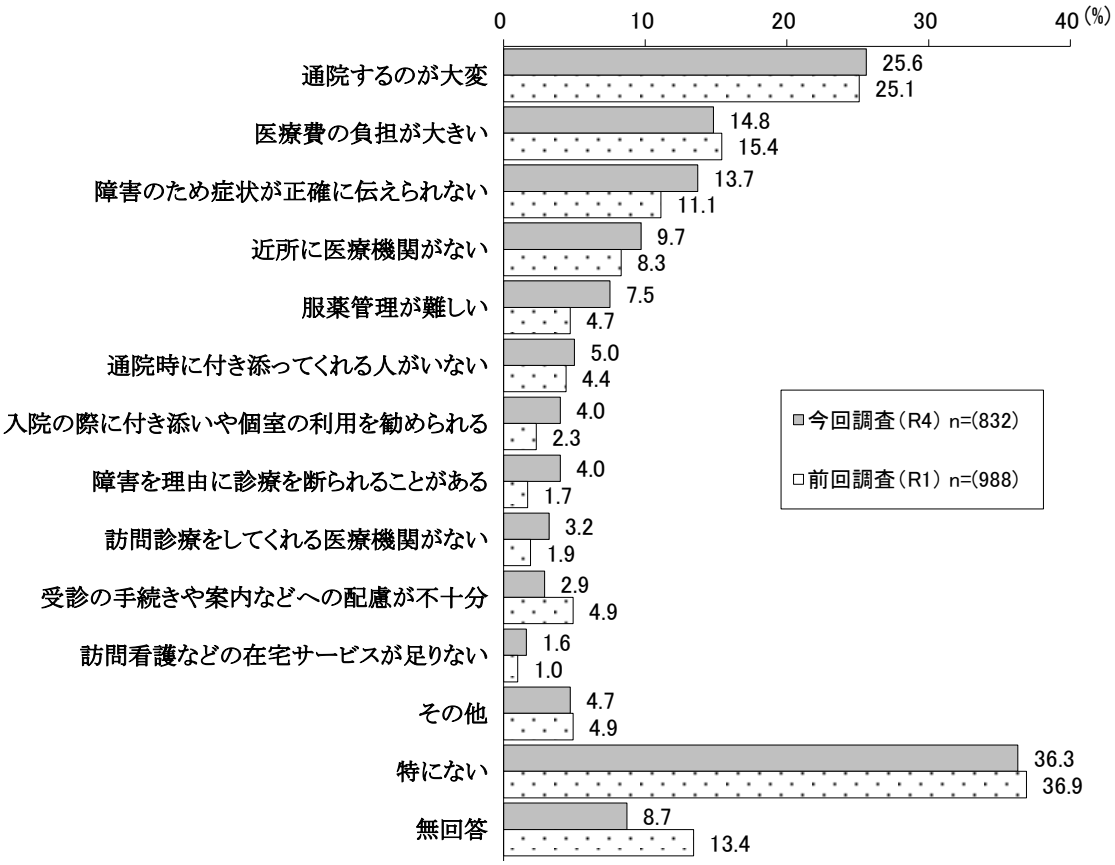
（1）健康・医療面での困りごと

問14　健康管理や医療について、困ったり不便に思ったりすることはありますか。
（主にあてはまるもの３つまでに〇）

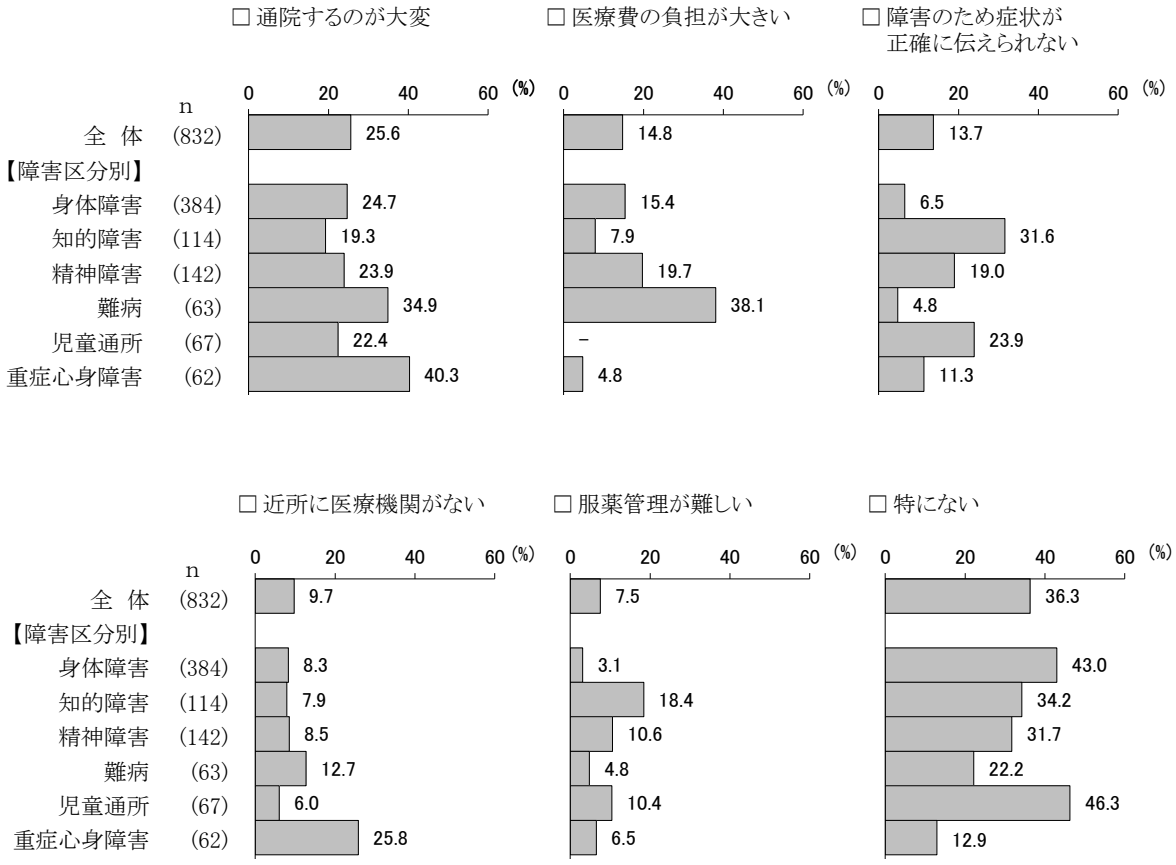
健康管理や医療で困ったり不便に思ったりすることは、「通院するのが大変」が25.6％と多く、以下、「医療費の負担が大きい」が14.8％、「障害のため症状が正確に伝えられない」が13.7％と続いている。

なお、「特に困っていることや不便に思うことはない」は36.3％となっている。

障害区分別にみると、重症心身障害では「通院するのが大変」が40.3％、難病では「医療費の負担が大きい」が38.1％と他の障害区分より多くなっている。

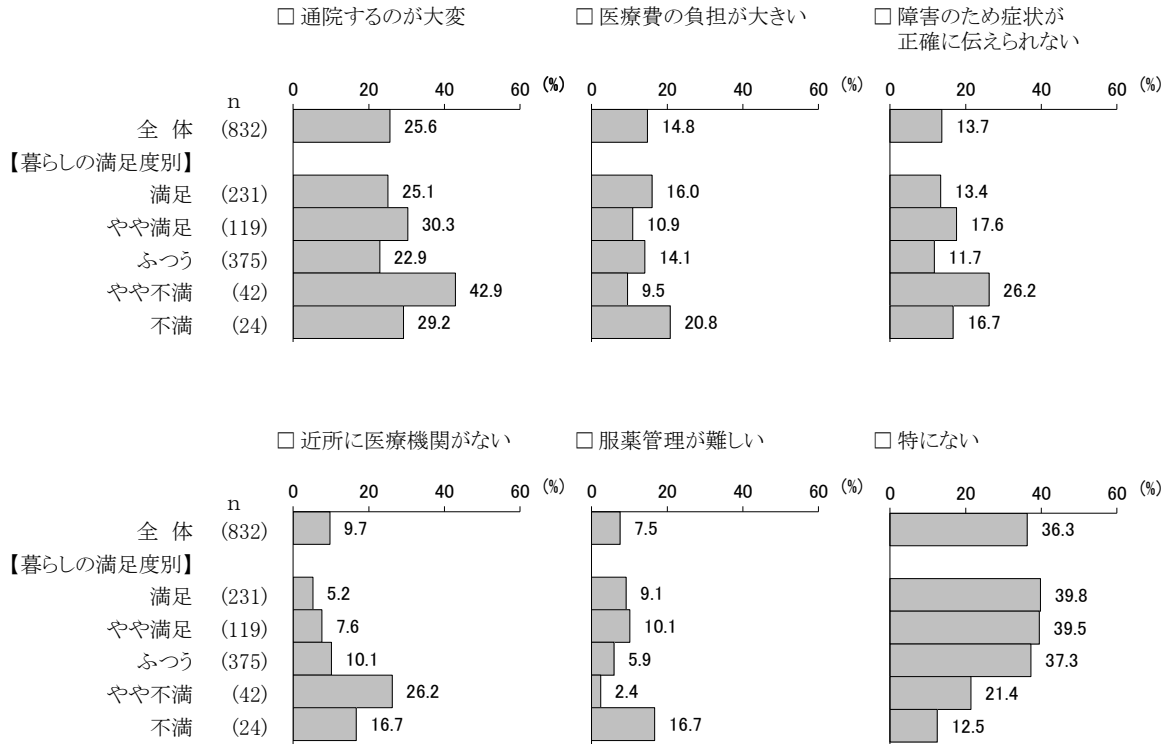


障害区分別（上位5項目＋「特にない」）



江戸川区での暮らしの満足度別（問36）にみると、「通院するのが大変」、「障害のため症状が正確に伝えられない」、「近所に医療機関がない」は概ね満足度が低いほど多くなっている。一方、満足度が高い層では、「特に困っていることや不便に思うことはない」が多くなっている。

暮らしの満足度別（上位5項目＋「特にない」）

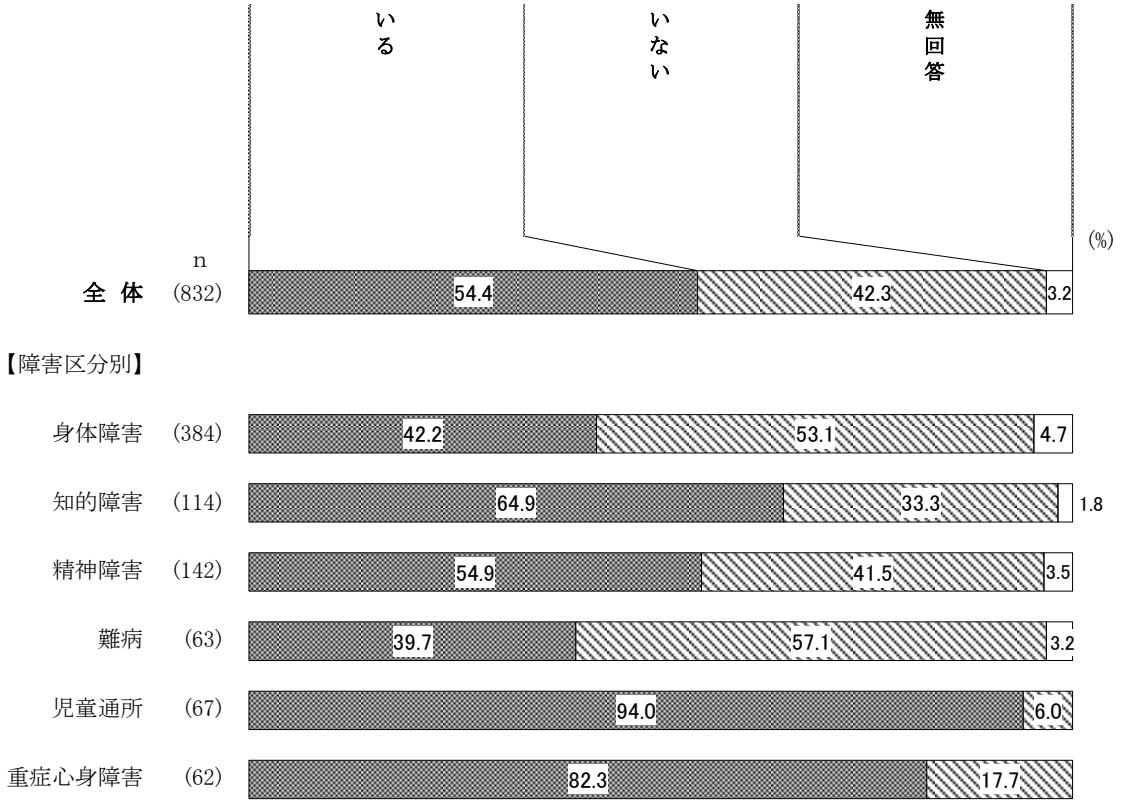


（2）相談相手（場所）の有無

問15　日常生活において困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕
（１つに○）

困っていることを相談する人が「いる」は54.4%、「いない」は42.3%となっている。

障害区分別にみると、「いる」は児童通所が94.0%、重症心身障害が82.3%と多くなっている。身体障害と難病は「いる」が４割前後と少なく、「いない」が半数以上となっている。

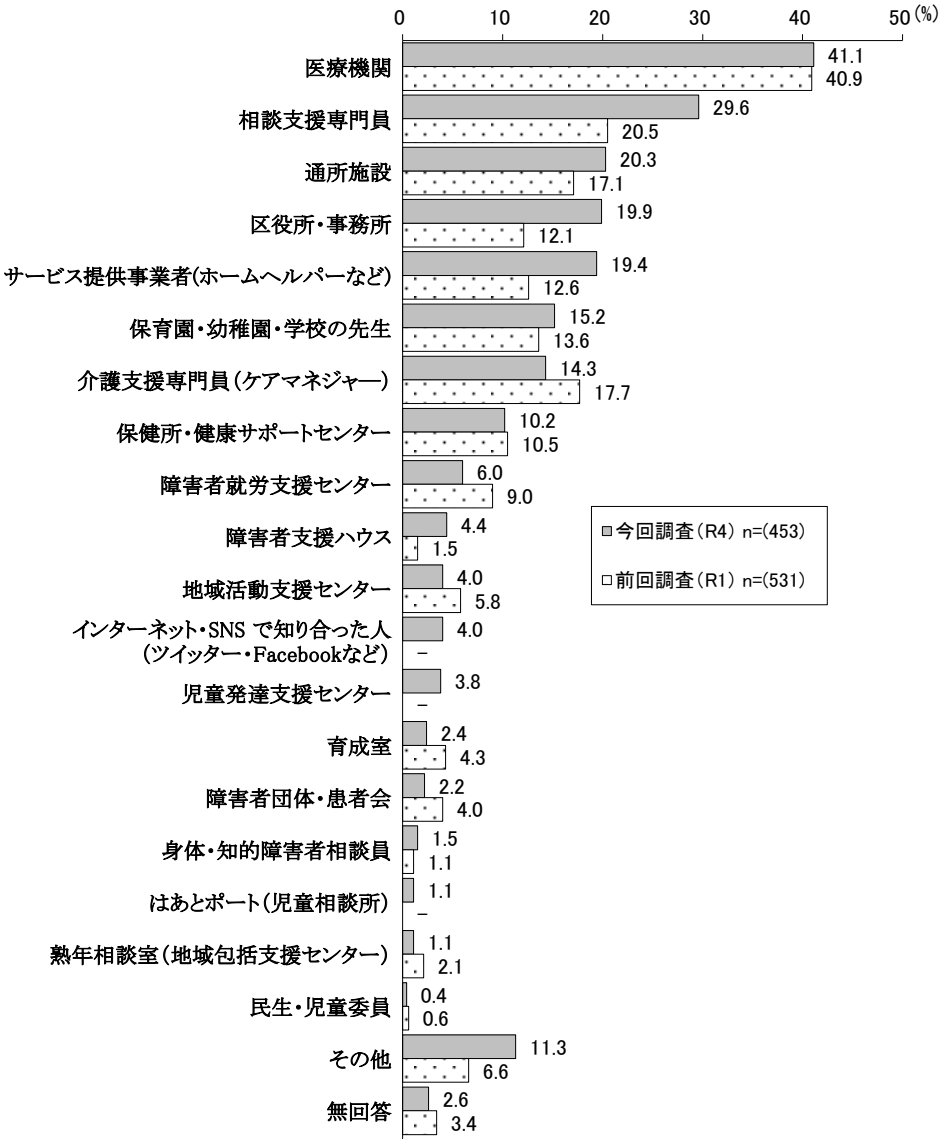


（３）相談相手（場所）

問15で「いる」と回答した方のみ
問15－１　相談相手（場所）は、次のうちどれにあたりますか。（あてはまるものすべてに○）

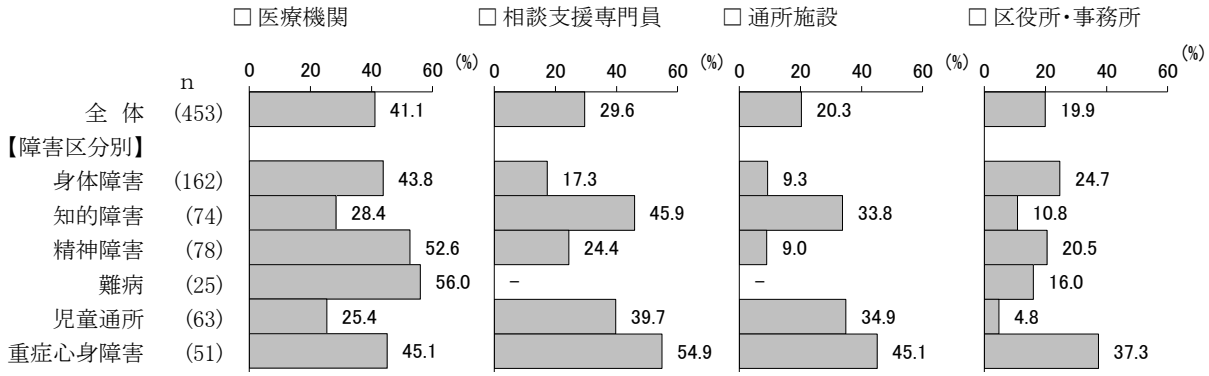
相談相手（場所）は、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」が41.1％と最も多く、以下、「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人）」（29.6％）、「通所施設」（20.3％）が２割台となっている。

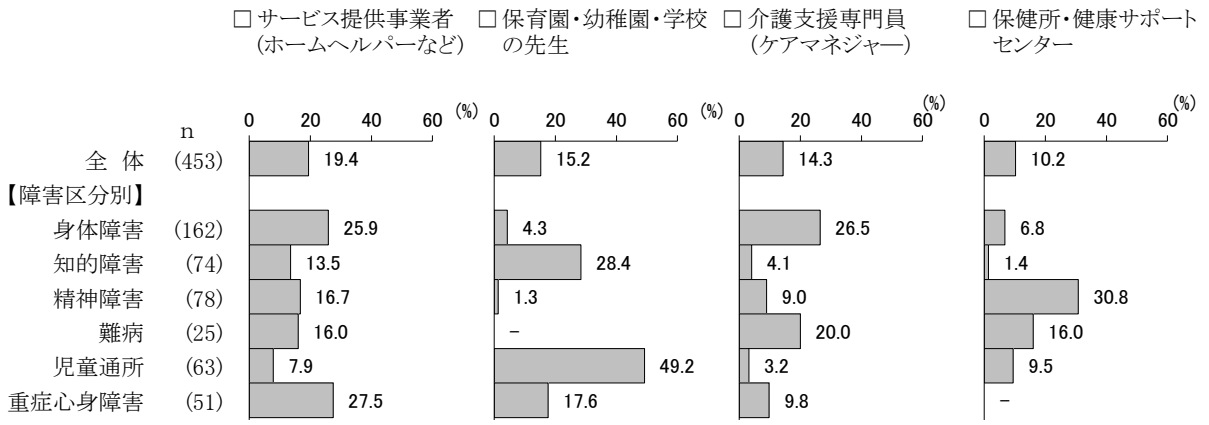
障害区分別にみると、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」は精神障害が52.6％、身体障害と重症心身障害でも４割台となっている。この他、身体障害では「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が26.5％、精神障害では「保健所・健康サポートセンター」が30.8％、児童通所では「保育園・幼稚園・学校の先生」が49.2％と他の障害区分より多くなっている。



※「インターネット・SNSで知り合った人（ツイッター・Facebookなど）」、「児童発達支援センター」「はあとポート（児童相談所）」は今回調査からの新規追加項目

障害区分別（上位8項目）


□ 医療機関
□ 相談支援専門員
□ 通所施設
□ 区役所・事務所
n
0 20 40 60 (%)
全 体 (453) 41.1 29.6 20.3 19.9
【障害区分別】
身体障害 (162) 43.8 17.3 9.3 24.7
知的障害 (74) 28.4 45.9 33.8 10.8
精神障害 (78) 52.6 24.4 9.0 20.5
難病 (25) 56.0 – – 16.0
児童通所 (63) 25.4 39.7 34.9 4.8
重症心身障害 (51) 45.1 54.9 45.1 37.3


□ サービス提供事業者（ホームヘルパーなど）
□ 保育園・幼稚園・学校の先生
□ 介護支援専門員（ケアマネジャー）
□ 保健所・健康サポートセンター
n
0 20 40 60 (%)
全 体 (453) 19.4 15.2 14.3 10.2
【障害区分別】
身体障害 (162) 25.9 4.3 26.5 6.8
知的障害 (74) 13.5 28.4 4.1 1.4
精神障害 (78) 16.7 1.3 9.0 30.8
難病 (25) 16.0 – 20.0 16.0
児童通所 (63) 7.9 49.2 3.2 9.5
重症心身障害 (51) 27.5 17.6 9.8 –

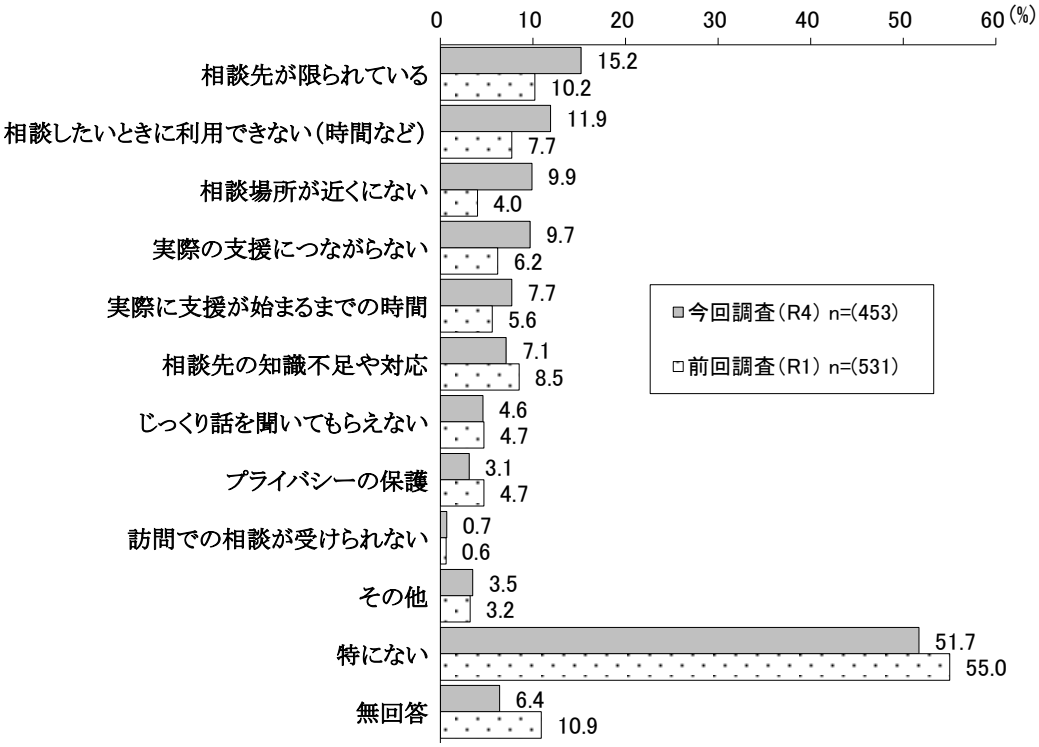
（4）相談する際に不便なこと

問15で「いる」と回答した方のみ
問15－２　悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。
（主にあてはまるもの３つまでに○）

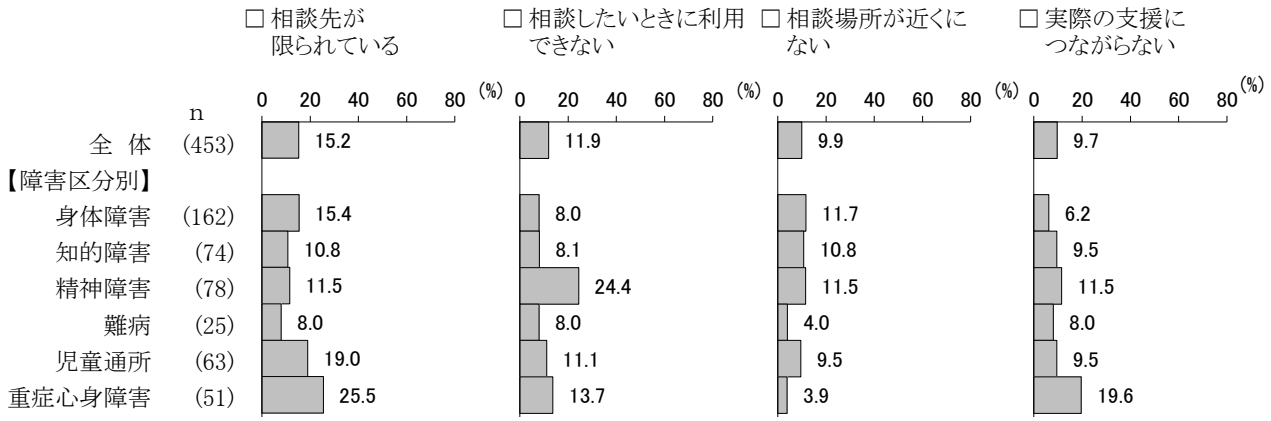
悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることは、「相談先が限られている」（15.2%）、「相談したいときに利用できない（時間など）」（11.9%）が１割台と続いている。

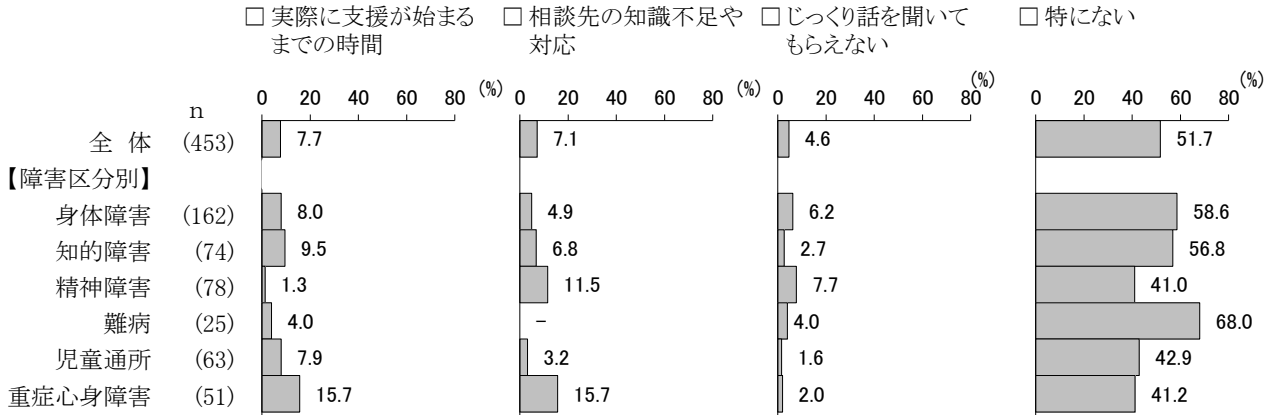
なお、「特に不便を感じることはない」が51.7%と多くなっている。

障害区分別にみると、「相談先が限られている」と「実際の支援につながらない」は重症心身障害が、「相談したいときに利用できない（時間など）」では精神障害が他の障害区分よりやや多くなっている。



障害区分別（上位7項目＋「特にない」）





（５）相談相手がいない理由

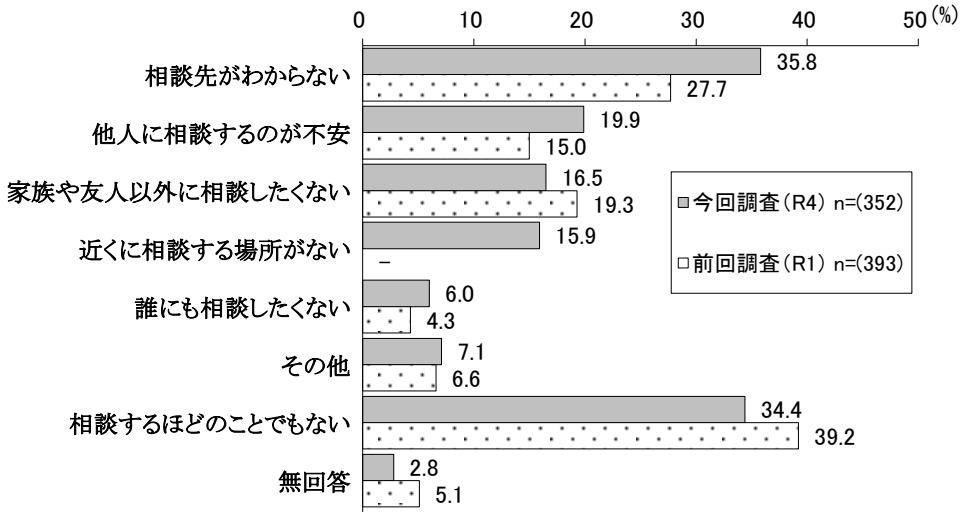
問15で「いない」と回答した方のみ
問15－３　相談相手がいない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

相談相手がいない理由は、「相談先がわからない」が35.8％と多く、「他人に相談するのが不安」（19.9％）、「家族や友人以外に相談したくない」（16.5％）、「近くに相談する場所がない」（15.9％）が１割台となっている。

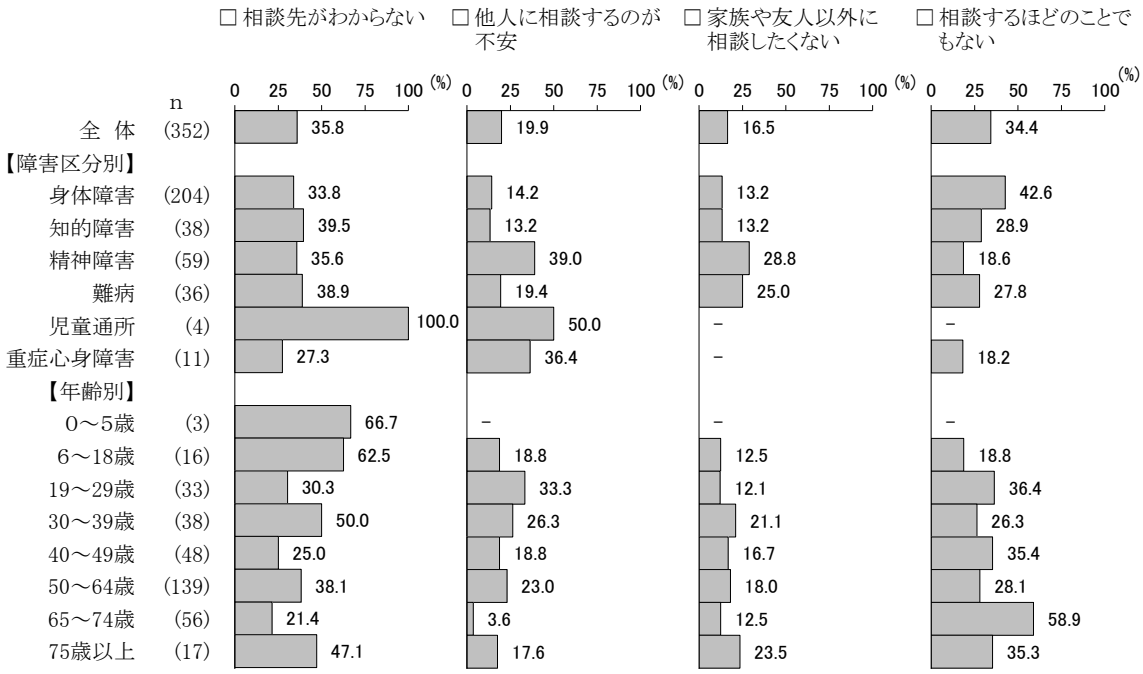
なお、「相談するほどのことでもない」は34.4％となっている。

障害区分別にみると、「他人に相談するのが不安」は精神障害が他の障害区分よりやや多くなっている。

年齢別にみると、「相談先がわからない」は０～18歳が６割台、「他人に相談するのが不安」は19～29歳で33.3％と多くなっている。



障害区分別（上位3項目＋「相談するほどのことでもない」）

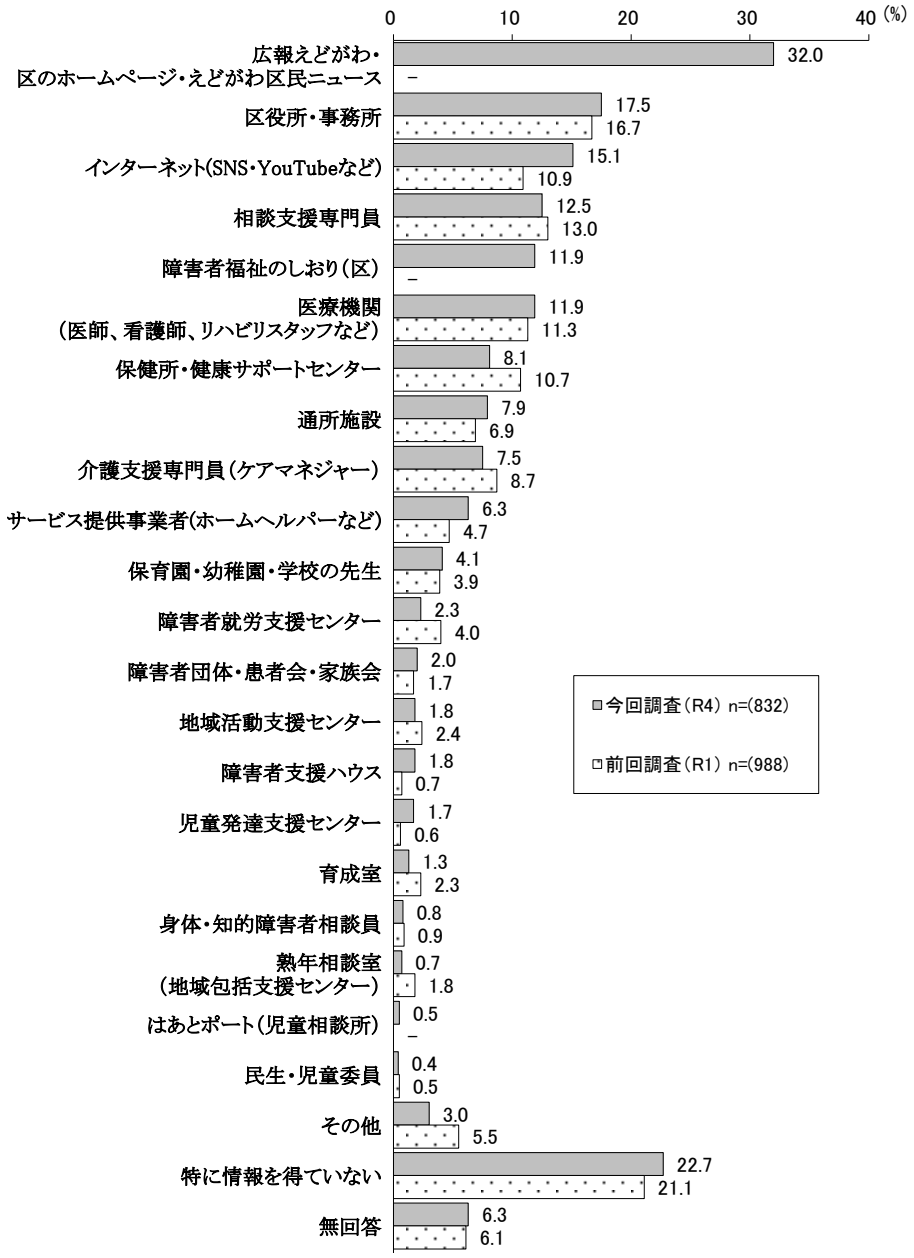


（６）生活支援に関するサービスの情報の入手源

問16　区の生活支援に関するサービスの情報は、どこから得ていますか。〔家族や友人を除く〕
（あてはまるものすべてに○）

区の生活支援に関するサービスの情報の入手先は、「広報えどがわ・区のホームページ・えどがわ区民ニュース」が32.0％と最も多く、「区役所・事務所」（17.5％）、「インターネット（ＳＮＳ・ＹouＴubeなど）」（15.1％）、「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人）」（12.5％）、「障害者福祉のしおり（区）」、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど）」（ともに11.9％）が１割台となっている。

なお、「特に情報を得ていない」は22.7％となっている。

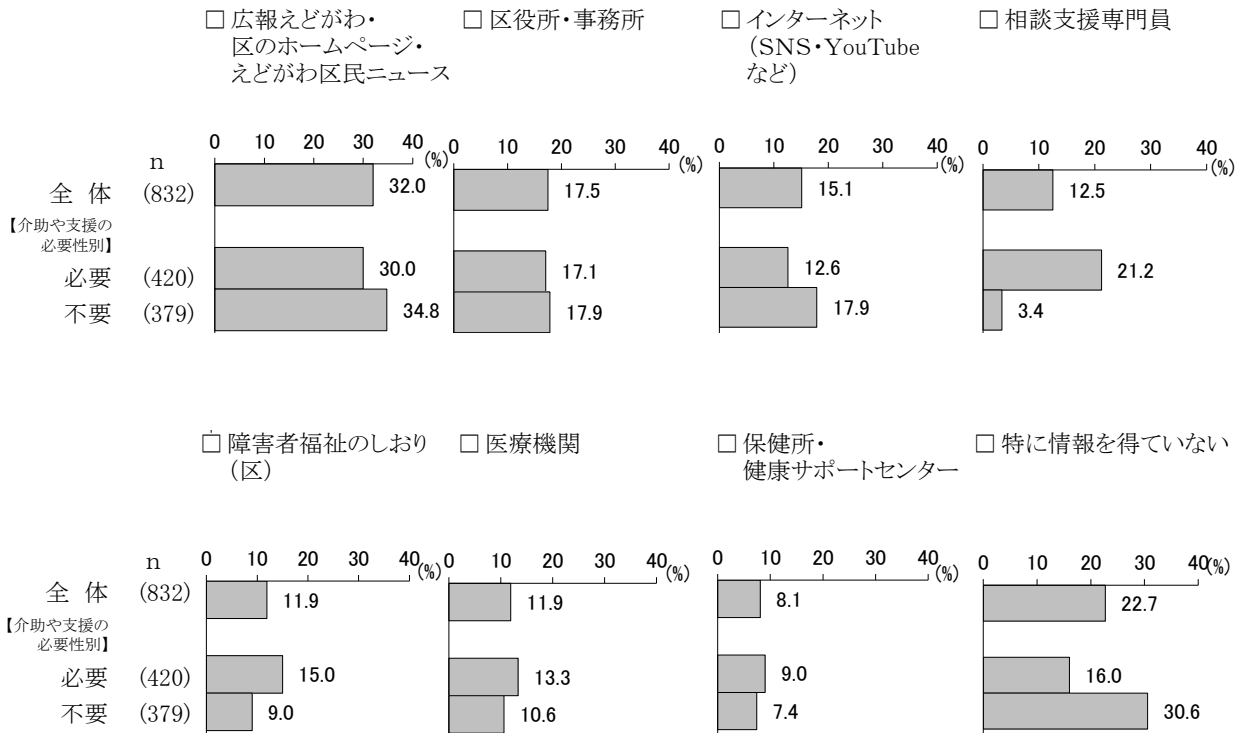


※「広報えどがわ・区のホームページ・えどがわ区民ニュース」「障害者福祉のしおり(区)」「はあとポート(児童相談所)」は今回調査からの新規項目（前回調査では「広報えどがわ・区のホームページ」と「えどがわ区民ニュース」は分割）

介助や支援の必要性別（問９）にみると、「広報えどがわ・区のホームページ・えどがわ区民ニュース」は日常の介助や支援を必要とする人（30.0%）、不要とする人（34.8%）の両者ともに３割以上と多くなっている。「相談支援専門員（事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)」、「障害者福祉のしおり（区)」、「医療機関（医師、看護師、リハビリスタッフなど)」、「保健所・健康サポートセンター」は、日常の介助や支援を不要とする人よりも必要とする人の方が多くなっている。

なお、日常の介助や支援を不要とする人で「特に情報を得ていない」は30.6%となっている。

介助や支援の必要性（上位7項目＋「特に情報を得ていない」）



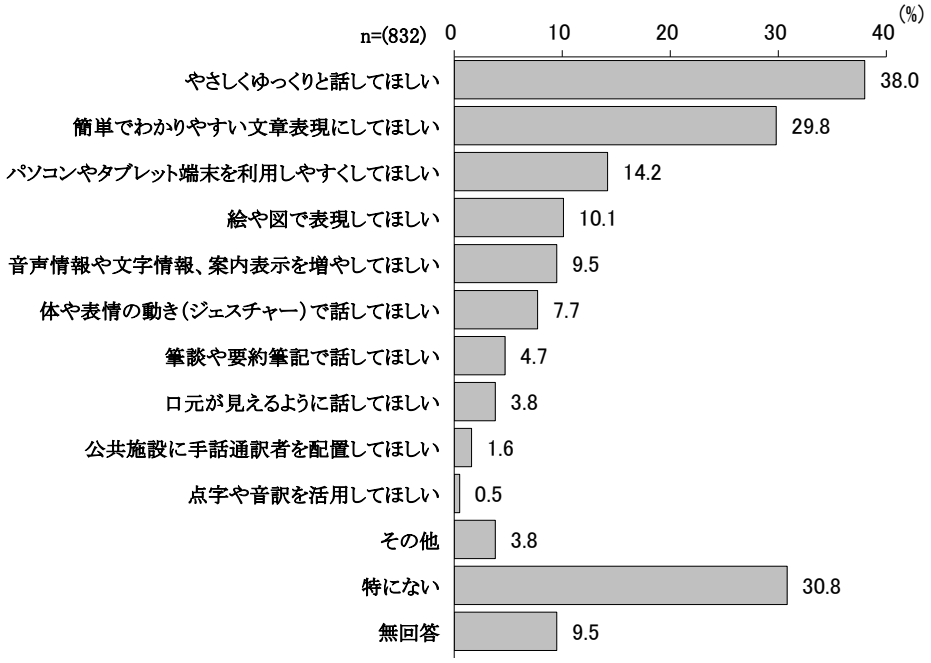
（7）情報取得やコミュニケーションの際に必要な配慮

問17　あなたが、情報や人とのコミュニケーションをとりやすくするためには、どのようなことに配慮してほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに〇）

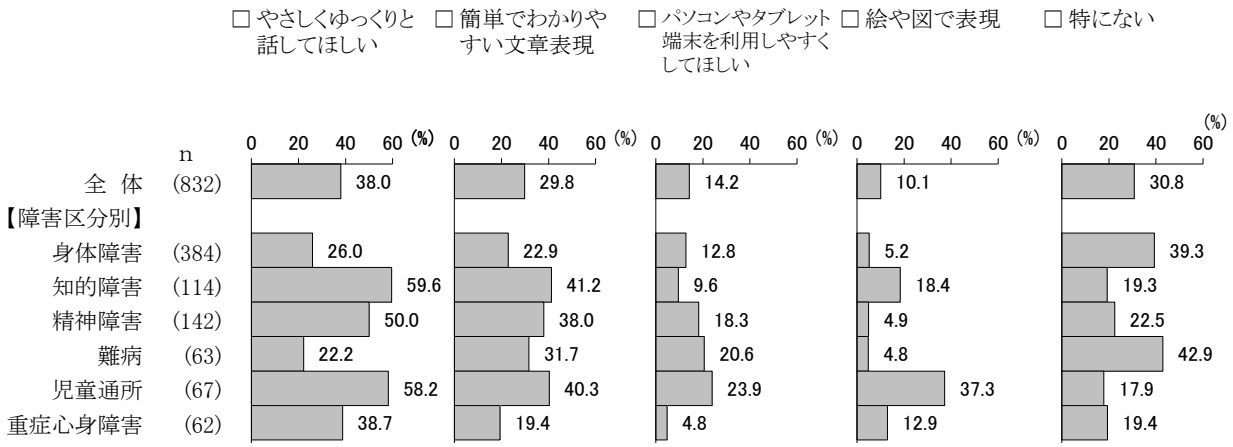
情報取得やコミュニケーションの際に必要な配慮は、「やさしくゆっくりと話してほしい」が38.0％と最も多く、「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」が29.8％、「パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい」（14.2％）、「絵や図で表現してほしい」（10.1％）が１割台となっている。

なお、「特にない」は30.8％となっている。

障害区分別にみると、「やさしくゆっくりと話してほしい」は知的障害（59.6％）、「児童通所」（58.2％）、「精神障害」（50.0％）が５割以上多くなっている。なお、「特にない」は難病が42.9％となっている。



障害区分別（上位4項目＋「特にない」）



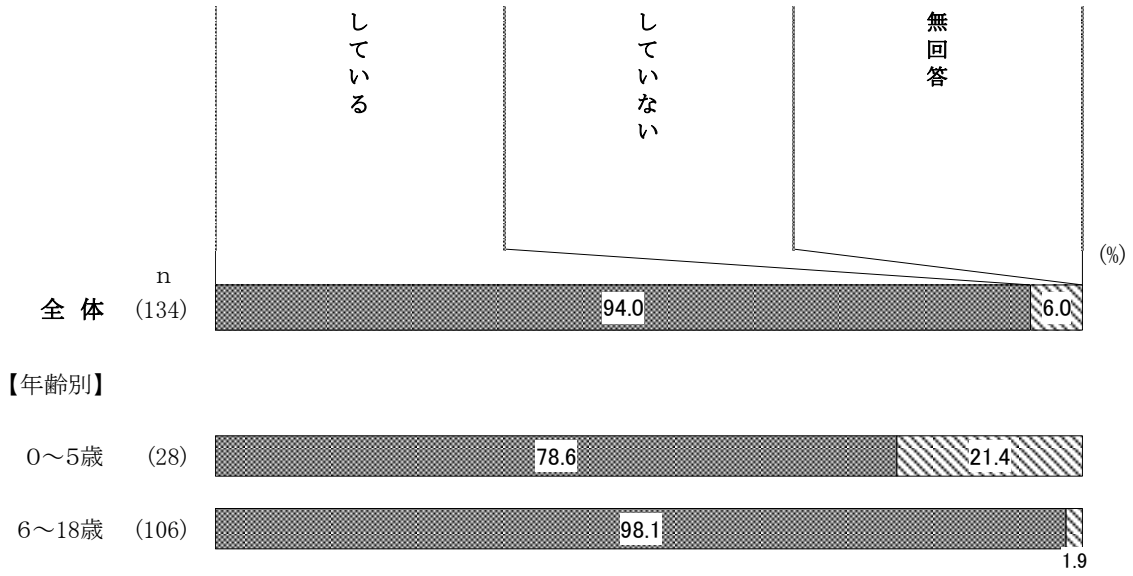
6 通園・通学について

（1）通園・通学状況

問18 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。（１つに○）

18歳以下の対象で、現在、保育園や幼稚園、学校への通園・通学状況は、「している」が94.0％を占めている。

年齢別にみると、「している」は６～18歳では98.1％を占め、０～５歳でも78.6％となっている。

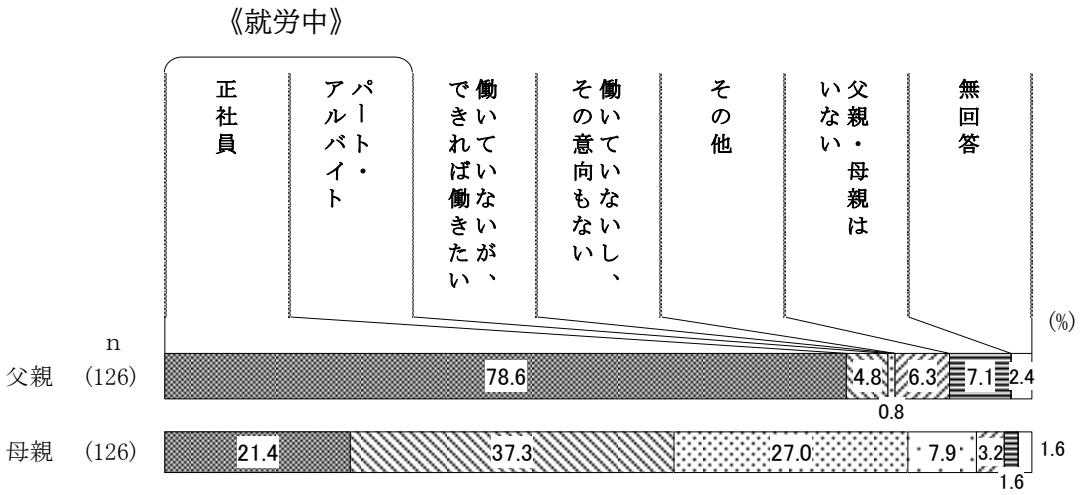


（２）父親、母親の就労状況

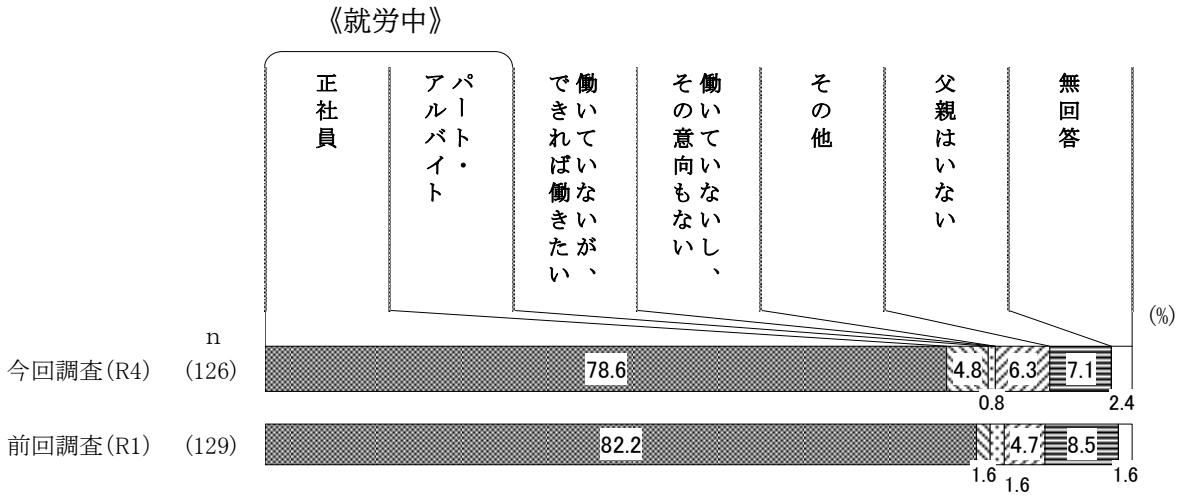
問18で「している」と回答した方のみ
問18－１　あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。（それぞれ１つに○）

父親の就労状況は「正社員」が78.6％を占め、「パート・アルバイト」（4.8％）をあわせた《就労中》は83.4％となっている。

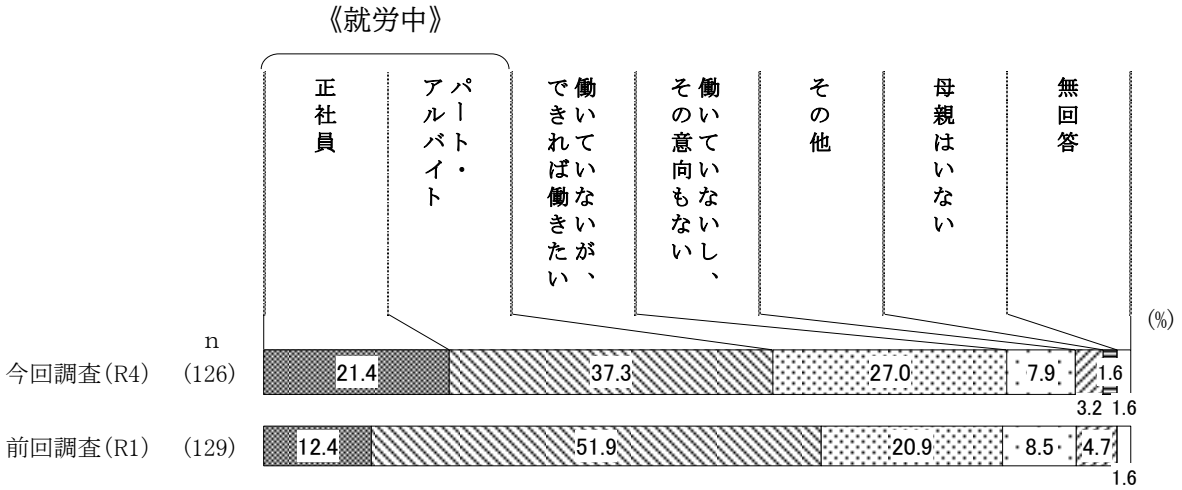
母親の就労状況は「正社員」が21.4％となっており、「パート・アルバイト」（37.3％）をあわせた《就労中》は58.7％となっている。また、「働いていないが、できれば働きたい」が27.0％となっている。



父親の就労状況



母親の就労状況

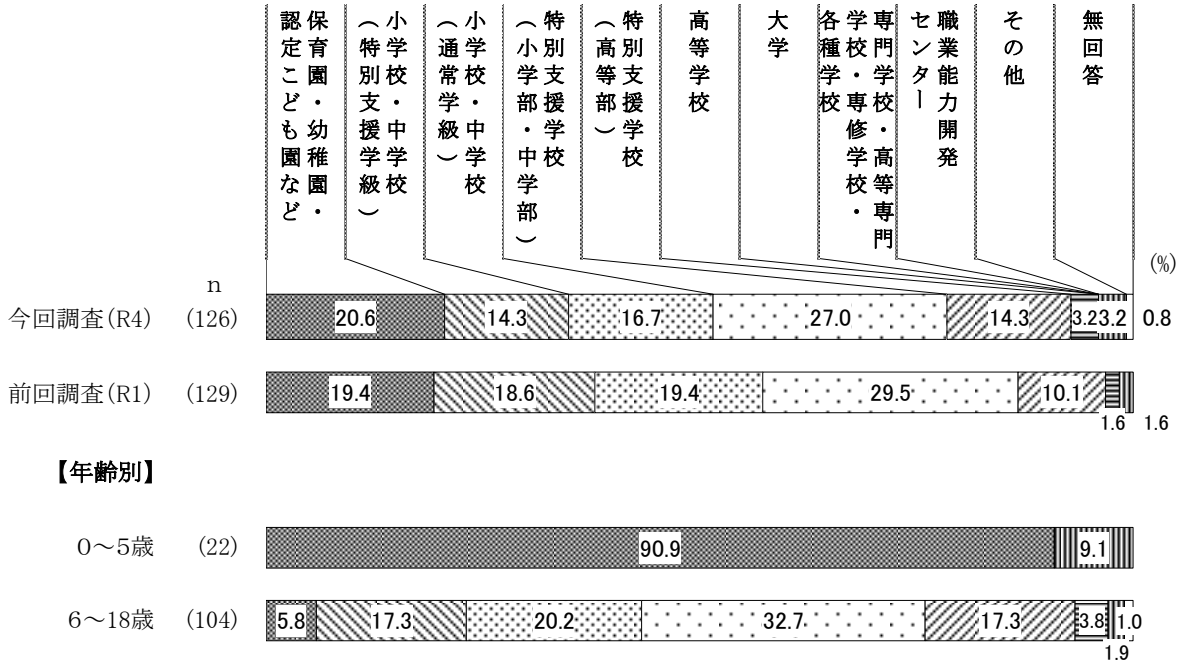


（3）通園・通学先

問19　通園・通学しているところはどこですか。（１つに○）

通園・通学先は「特別支援学校（小学部・中学部）」が27.0％と最も多く、「保育園・幼稚園・認定こども園など」が20.6％、「小学校・中学校（通常学級）」（16.7％）、「小学校・中学校（特別支援学級）」「特別支援学校（高等部）」（ともに14.3％）が１割台となっている。

年齢別にみると、０～５歳は「保育園・幼稚園・認定こども園など」（90.9％）が大半を占め、６～18歳は「特別支援学校（小学部・中学部）」が32.7％、「小学校・中学校（通常学級）」が20.2％、「小学校・中学校（特別支援学級）」「特別支援学校（高等部）」（ともに17.3％）が１割台となっている。

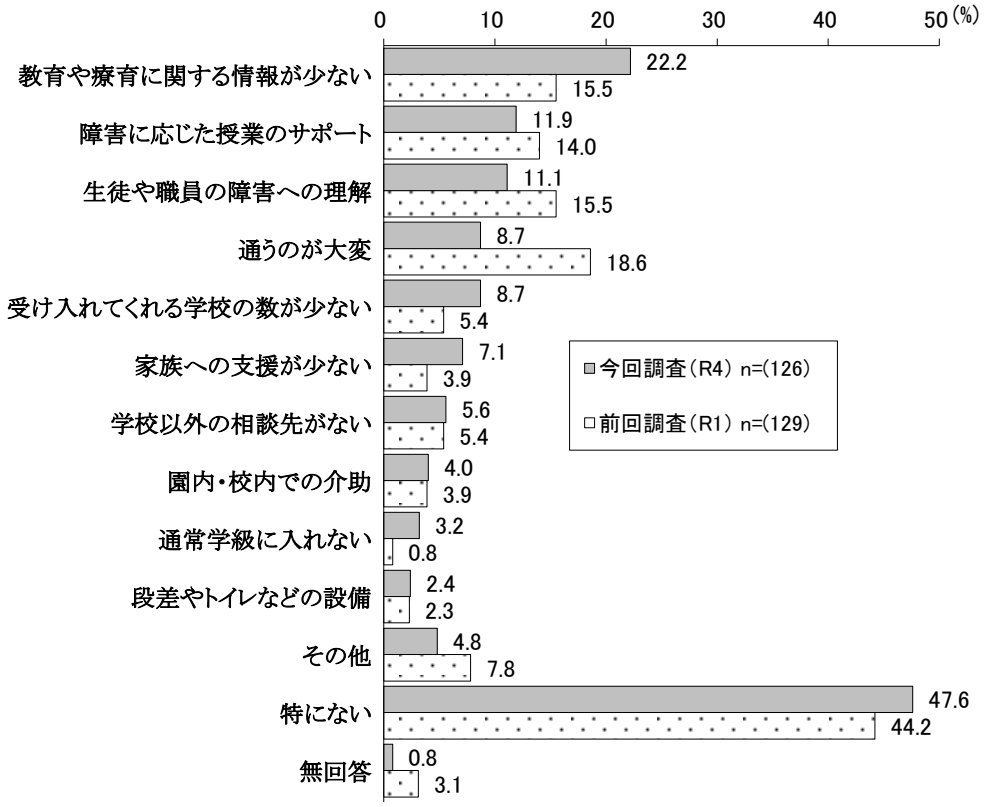


（4）通園・通学するうえで困っていること

問20　通園・通学するうえで困っていることはありますか。（主にあてはまるもの３つまでに○）

通園・通学するうえで困っていることは、「教育や療育に関する情報が少ない」が22.2%となっており、「障害に応じた授業のサポート」（11.9%）、「生徒や職員の障害への理解」（11.1%）が１割台となっている。

なお、「特に困っていることはない」が47.6%と多くなっている。

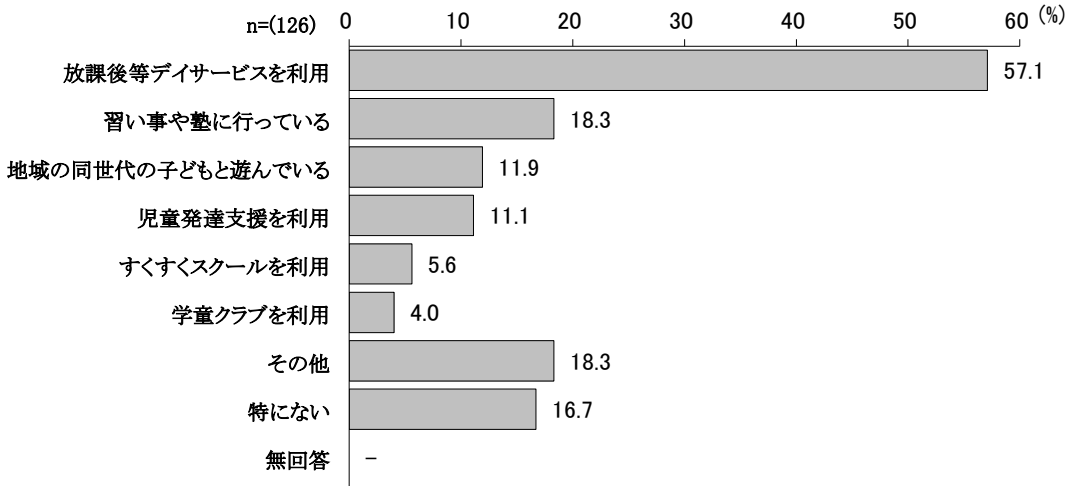


（5）放課後や休みの日などの過ごし方

問21　放課後や休みの日などの時間をどのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

放課後や休みの日などの過ごし方は、「放課後等デイサービスを利用している」が57.1％を占めている。

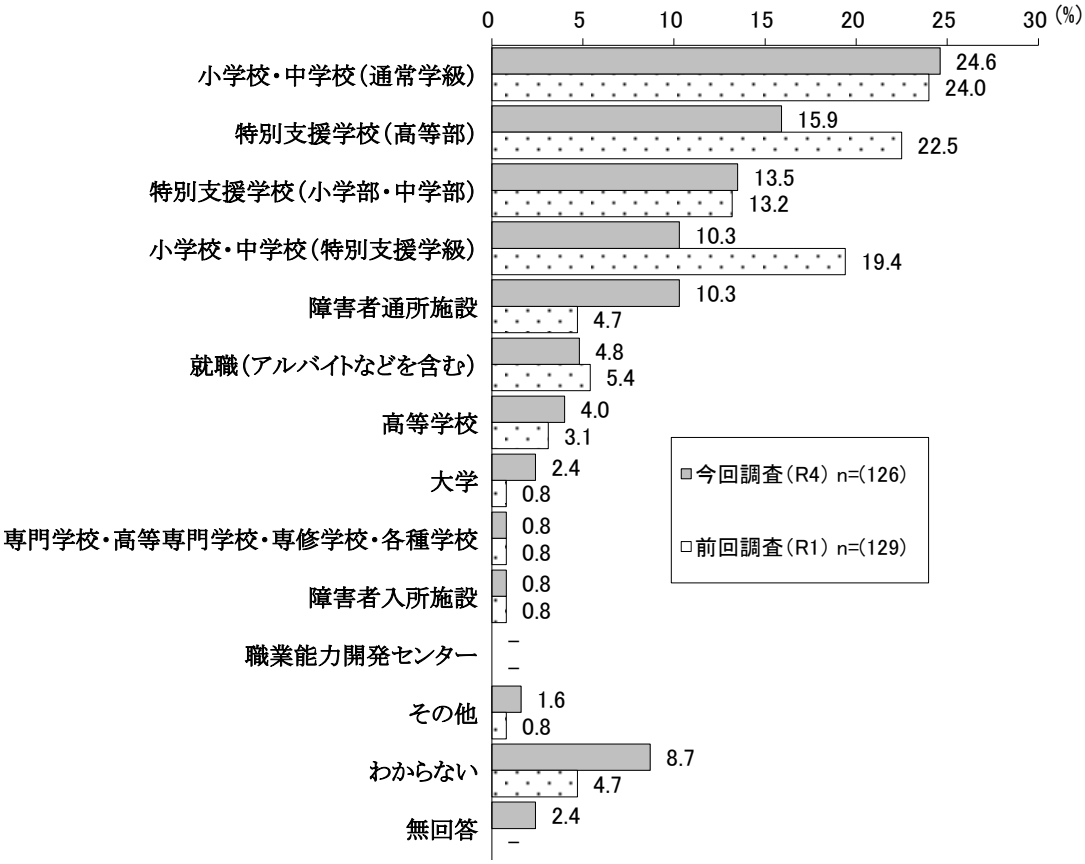
なお、「特にない」は16.7％となっている。



（6）卒業後の希望進路

問22　現在通っている学校などを卒業した後、どのような進路を希望しますか。（１つに○）

卒業後の希望進路先は、「小学校・中学校（通常学級）」が24.6％と多く、「特別支援学校（高等部）」（15.9％）、「特別支援学校（小学部・中学部）」（13.5％）、「小学校・中学校（特別支援学級）」「障害者通所施設」（ともに10.3％）が１割台となっている。



7　仕事の状況や今後の希望について

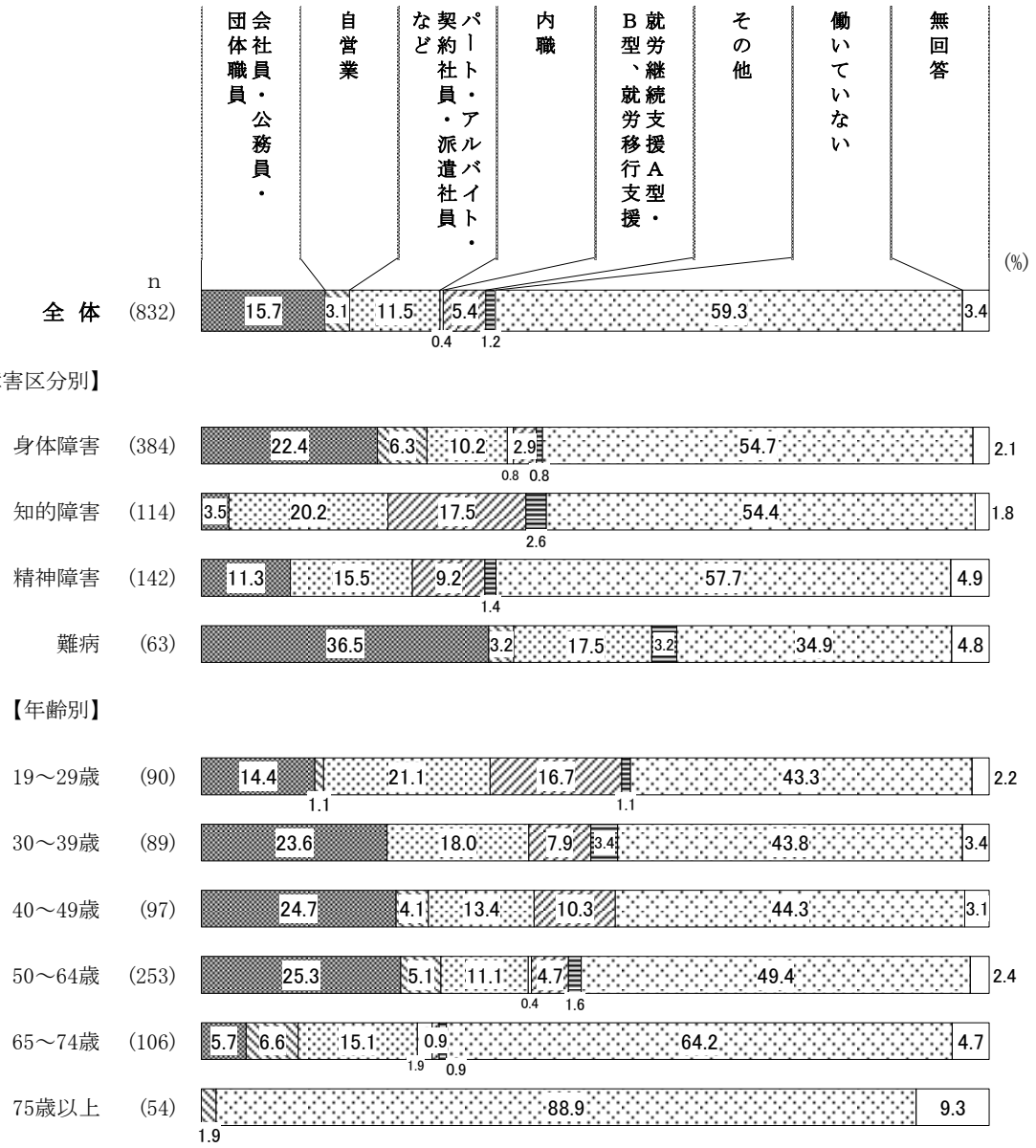
（1）就労状況

問23　あなたは、現在、どのように働いていますか。（１つに○）

現在の就労形態は、「会社員・公務員・団体職員」（15.7%）、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」（11.5%）が１割台となっている。また、「働いていない」は59.3%となっている。

障害区分別にみると、「会社員・公務員・団体職員」は難病が36.5%、身体が22.4%と多くなっている。「働いていない」は身体障害、知的障害、精神障害が５割台となっている。

年齢別にみると、19～64歳の年齢にかけては「会社員・公務員・団体職員」、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」、「就労継続支援Ａ型・Ｂ型、就労移行支援を利用」を中心に半数以上の方が就労しており、65歳以上は「働いていない」が多い。



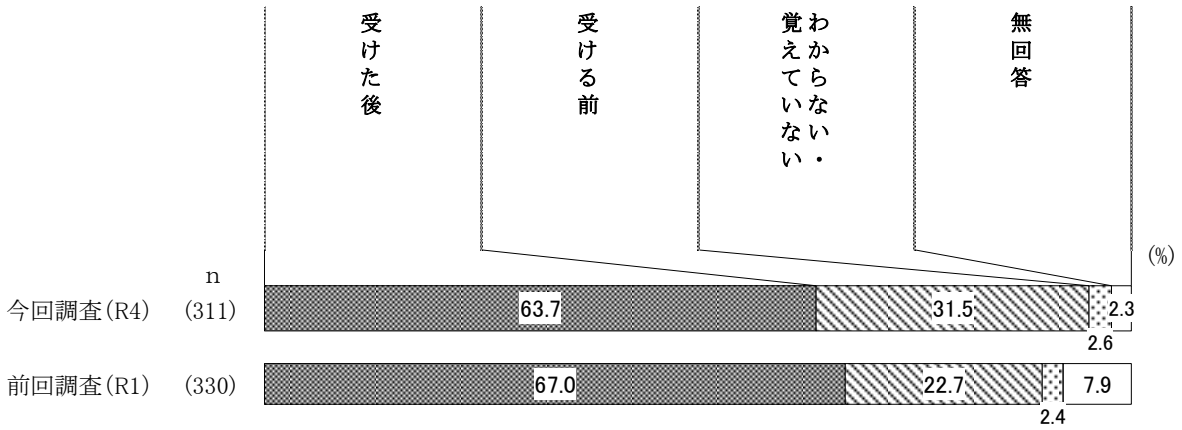
（２）現在の職場への就職時期

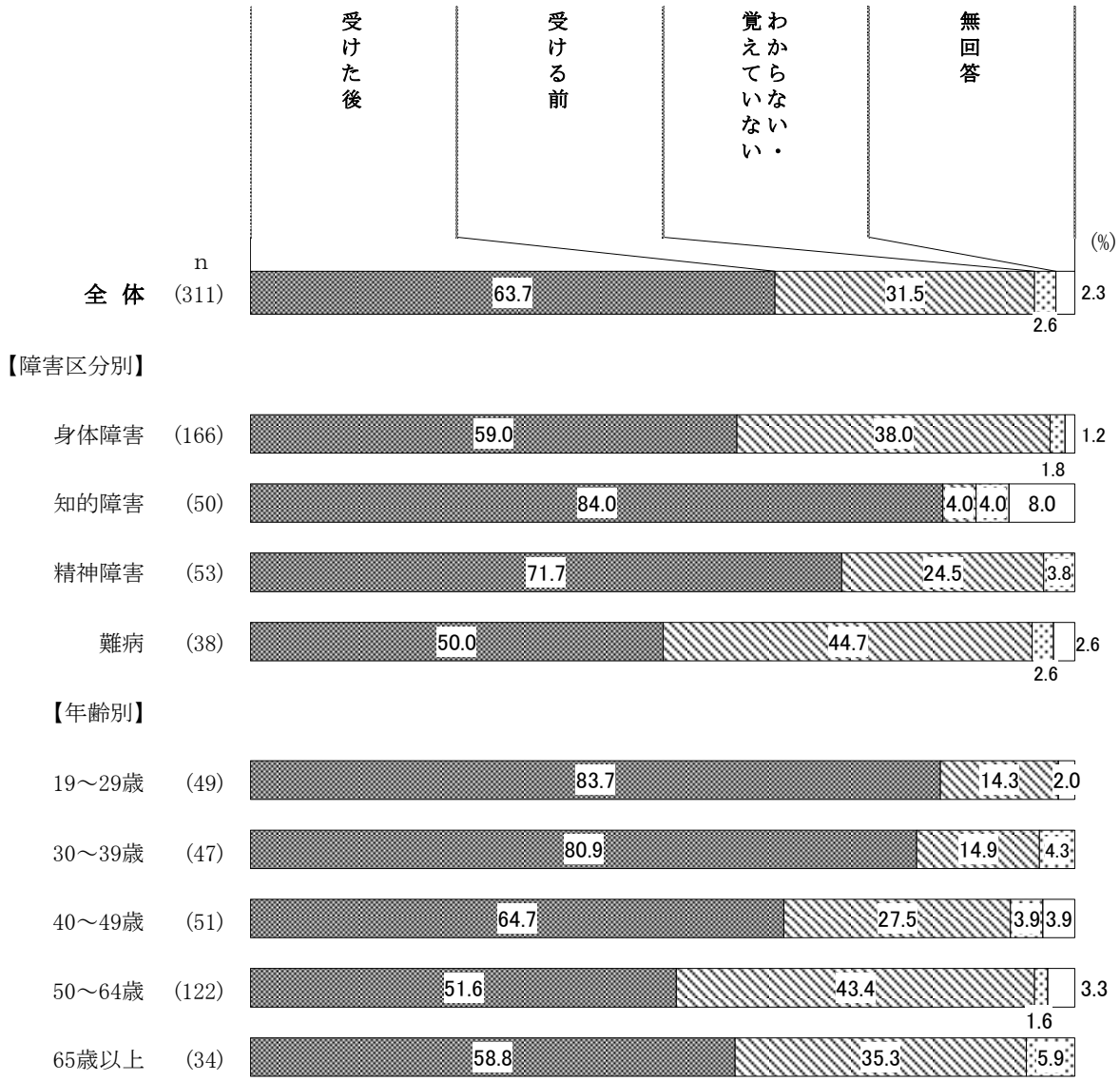
問23で「会社員・公務員・団体職員」、「自営業」、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」、「内職」、「就労継続支援Ａ型・Ｂ型、就労移行支援を利用」、「その他」と回答した方のみ
問23－１　現在の職場に就職したのは、疾患や障害の診断を受けた後でしたか。（１つに○）

現在の職場に就職したのは、疾患や障害の診断を「受けた後」が63.7%、「受ける前」が31.5%となっている。

障害区分別にみると、診断を「受けた後」は知的障害が84.0%、精神障害が71.7%となっている。一方、「受ける前」は難病が44.7%、身体障害が38.0%となっている。

年齢別にみると、診断を「受けた後」はすべての年齢層で５割以上となっており、19～29歳（83.7%）、30～39歳（80.9%）では８割台と高い。




受けた後
受ける前
わからない・覚えていない
無回答
(%)
n
全 体 (311) 63.7 31.5 2.6 2.3
【障害区分別】
身体障害 (166) 59.0 38.0 1.8 1.2
知的障害 (50) 84.0 4.0 4.0 8.0
精神障害 (53) 71.7 24.5 3.8
難病 (38) 50.0 44.7 2.6 2.6
【年齢別】
19～29歳 (49) 83.7 14.3 2.0
30～39歳 (47) 80.9 14.9 4.3
40～49歳 (51) 64.7 27.5 3.9 3.9
50～64歳 (122) 51.6 43.4 1.6 3.3
65歳以上 (34) 58.8 35.3 5.9

（３）就職の際に利用した機関

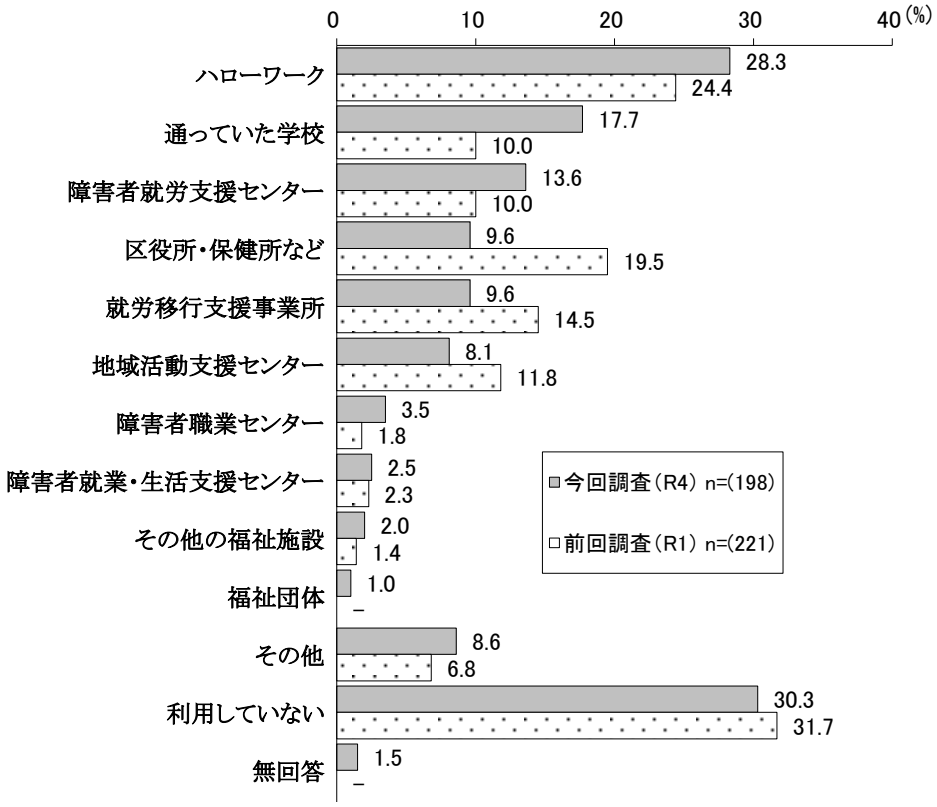
問23－１で「受けた後」と回答した方のみ
問23－２　就職する際に以下の機関を利用しましたか。（あてはまるものすべてに○）

就職する際に利用した機関は、「ハローワーク」が28.3％と多く、「通っていた学校」（17.7％）、「障害者就労支援センター」（13.6％）が１割台で続いている。

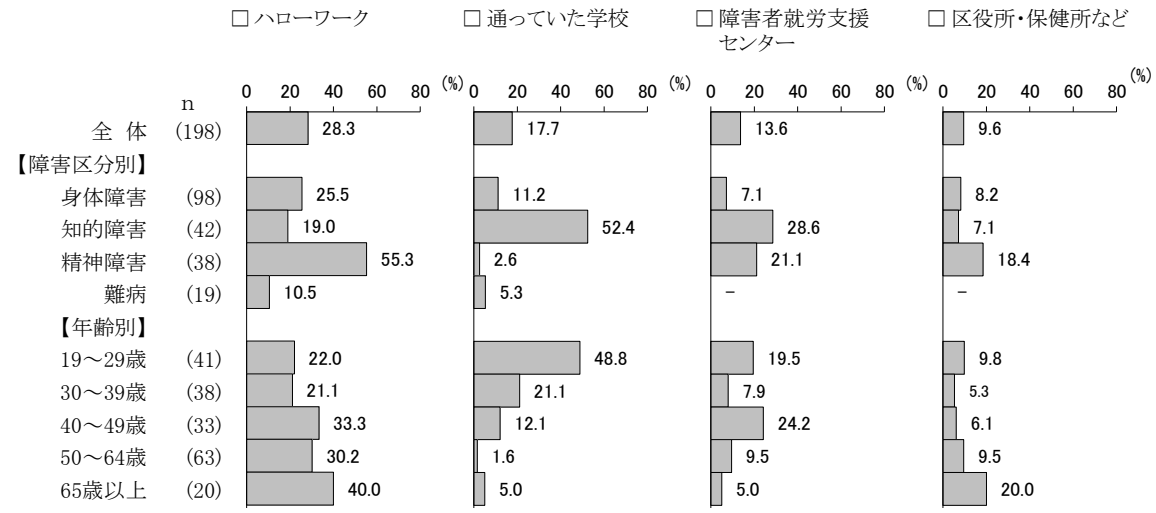
なお、「いずれも利用していない」が30.3％となっている。

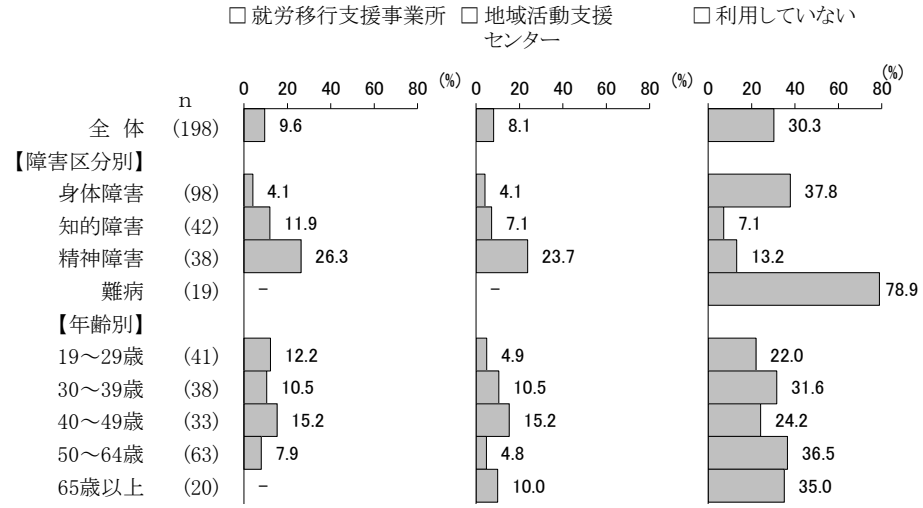
障害区分別にみると、知的障害では「通っていた学校」（52.4％）、「障害者就労支援センター」（28.6％）、精神障害では「ハローワーク」が55.3％と他の障害区分より多くなっている。

年齢別にみると、19～29歳では「通っていた学校」が48.8％、40～49歳では「障害者就労支援センター」が24.2％と他の年齢より多くなっている。



障害区分別、年齢別（上位6項目＋「利用していない」）



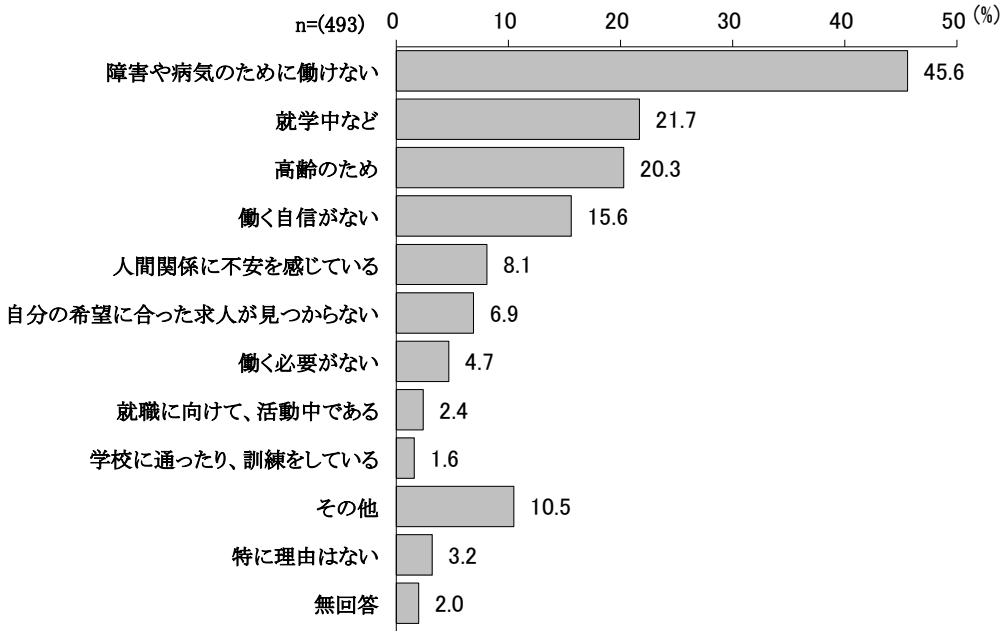


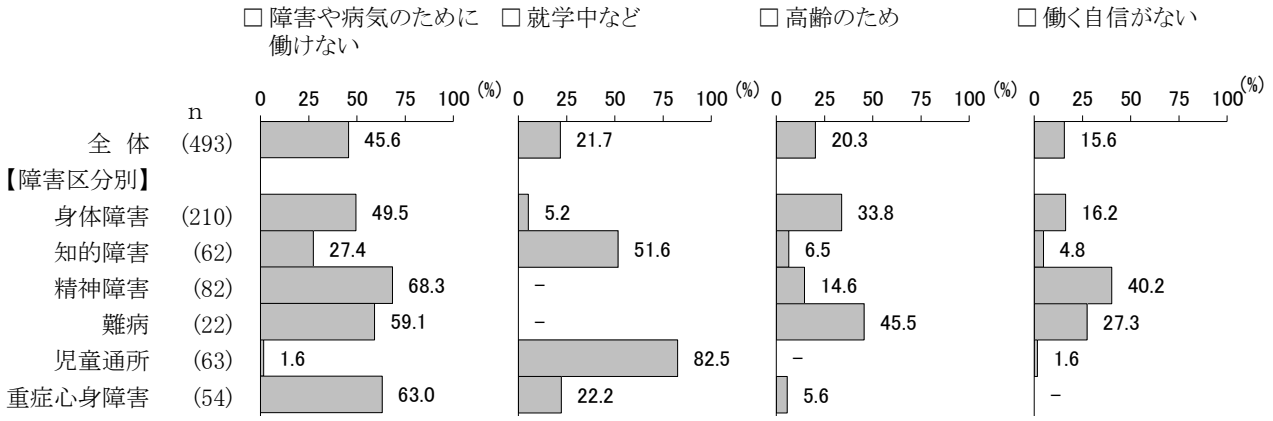
（4）仕事をしていない理由

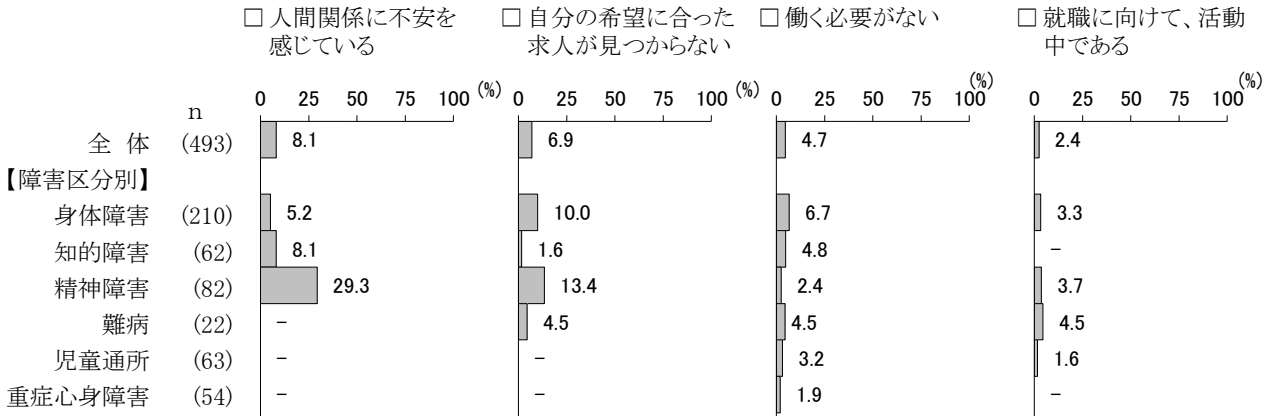
問23で「働いていない」と回答した方のみ
問23－３　仕事をしていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

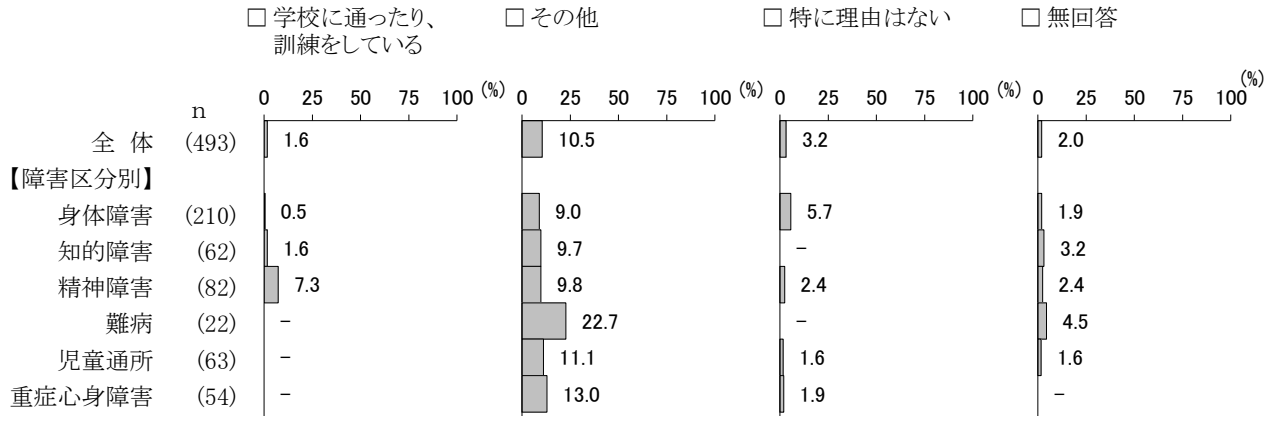
仕事をしていない理由は、「障害や病気のために働くことができる状態でない」が45.6％と最も多く、「就学中など」（21.7％）、「高齢のため」（20.3％）が２割台となっている。

障害区分別にみると、精神障害と重症心身障害では「障害や病気のために働くことができる状態でない」、知的障害と児童通所では「就学中など」、難病では「高齢のため」が他の障害より多くなっている。




□障害や病気のために働けない
□就学中など
□高齢のため
□働く自信がない
n
0 25 50 75 100 (%)
全 体 (493) 45.6 21.7 20.3 15.6
【障害区分別】
身体障害 (210) 49.5 5.2 33.8 16.2
知的障害 (62) 27.4 51.6 6.5 4.8
精神障害 (82) 68.3 – 14.6 40.2
難病 (22) 59.1 – 45.5 27.3
児童通所 (63) 1.6 82.5 – 1.6
重症心身障害 (54) 63.0 22.2 5.6 –


□人間関係に不安を感じている
□自分の希望に合った求人が見つからない
□働く必要がない
□就職に向けて、活動中である
n
0 25 50 75 100 (%)
全 体 (493) 8.1 6.9 4.7 2.4
【障害区分別】
身体障害 (210) 5.2 10.0 6.7 3.3
知的障害 (62) 8.1 1.6 4.8 –
精神障害 (82) 29.3 13.4 2.4 3.7
難病 (22) – 4.5 4.5 4.5
児童通所 (63) – – 3.2 1.6
重症心身障害 (54) – – 1.9 –

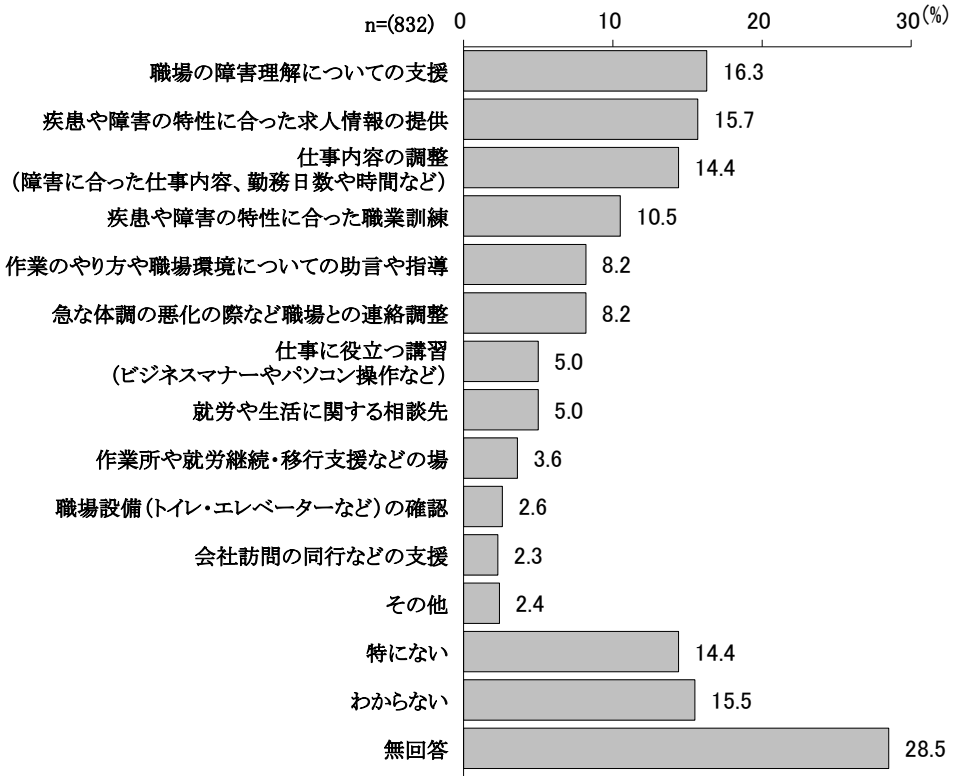

□学校に通ったり、訓練をしている
□その他
□特に理由はない
□無回答
n
0 25 50 75 100 (%)
全 体 (493) 1.6 10.5 3.2 2.0
【障害区分別】
身体障害 (210) 0.5 9.0 5.7 1.9
知的障害 (62) 1.6 9.7 – 3.2
精神障害 (82) 7.3 9.8 2.4 2.4
難病 (22) – 22.7 – 4.5
児童通所 (63) – 11.1 1.6 1.6
重症心身障害 (54) – 13.0 1.9 –

（５）必要な就労支援

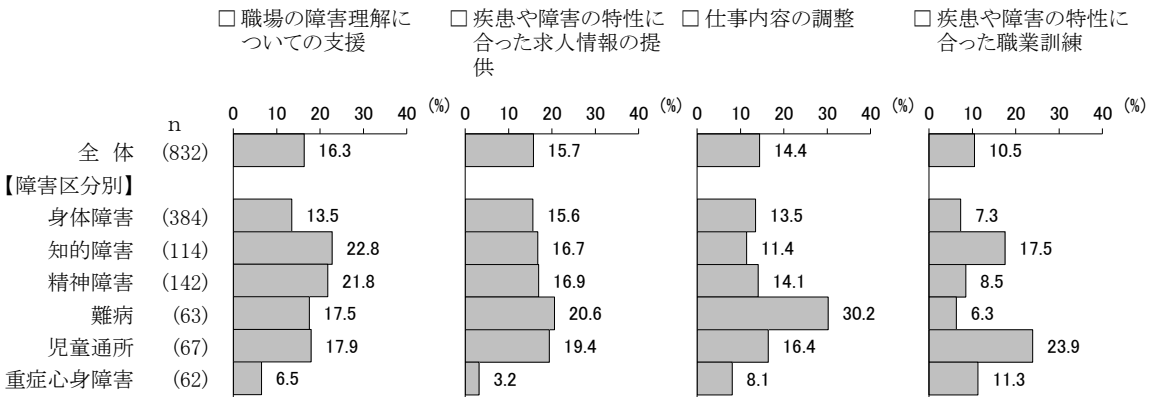
問24　特にどのような支援があったら働きやすいと思いますか。
（主にあてはまるもの３つまでに○）

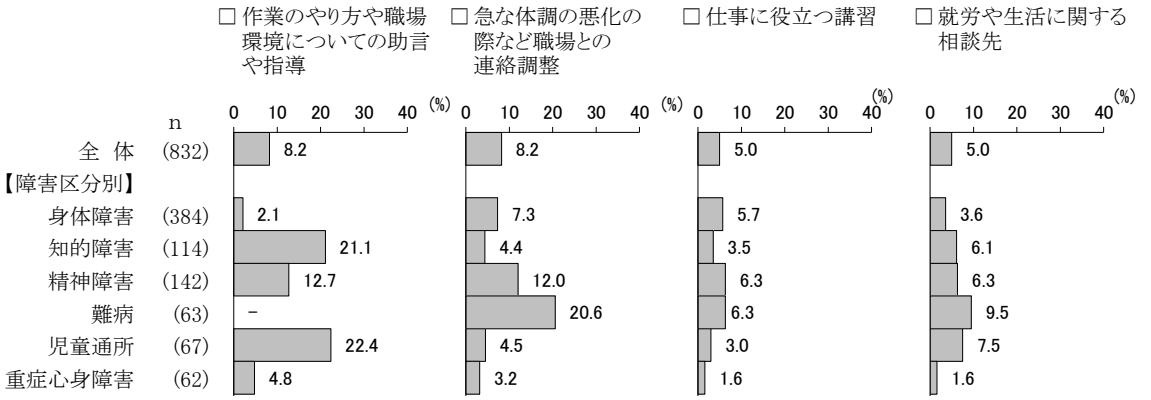
就労がしやすくなるための支援は、「職場の障害理解についての支援」（16.3％）、「疾患や障害の特性に合った求人情報の提供」（15.7％）、「仕事内容の調整（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」（14.4％）、「疾患や障害の特性に合った職業訓練」（10.5％）が１割台となっている。

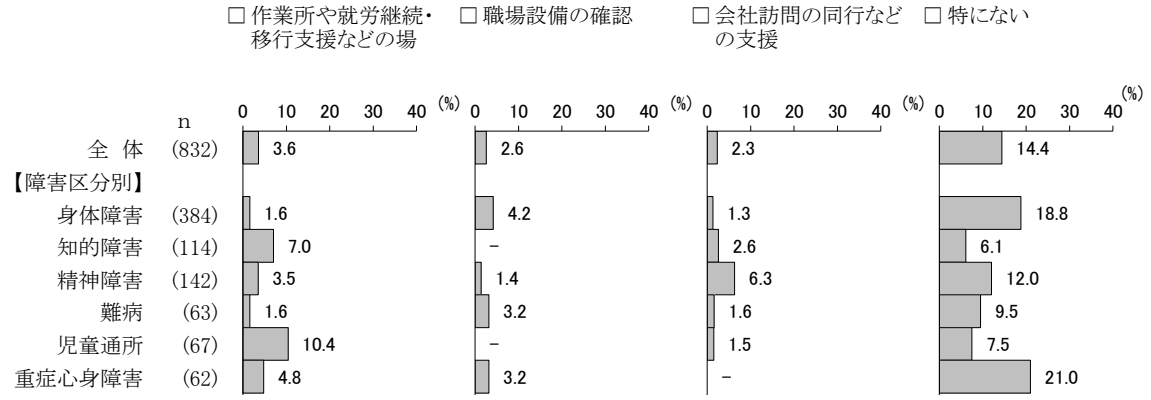
障害区分別にみると、「職場の障害理解についての支援」は知的障害（22.8％）、精神障害（21.8％）が２割台となっている。この他、難病は「仕事内容の調整（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）」と「急な体調の悪化の際など職場との連絡調整」、知的障害と児童通所では「作業のやり方や職場環境についての助言や指導」が他の障害区分より多くなっている。



障害区分別(上位11項目+「特にない」)







8　趣味の活動や地域の活動について

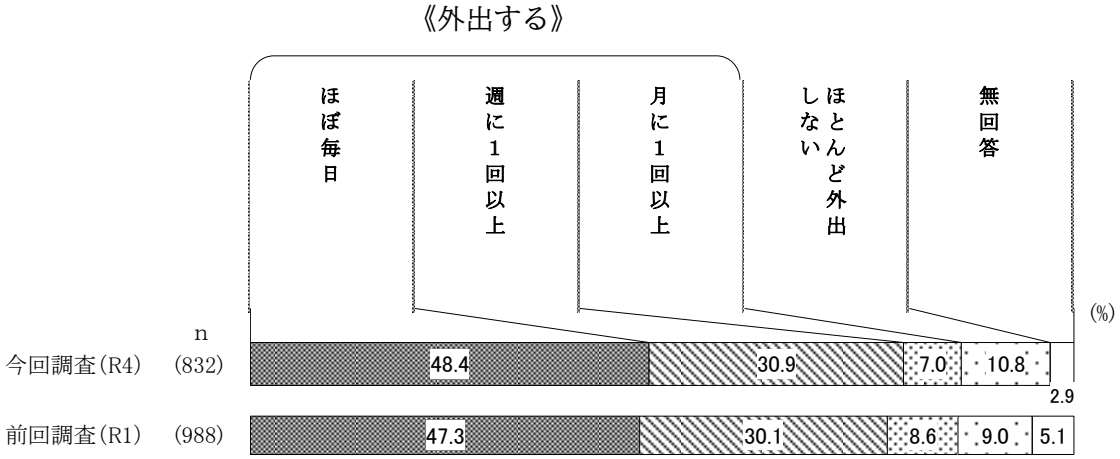
（1）外出頻度

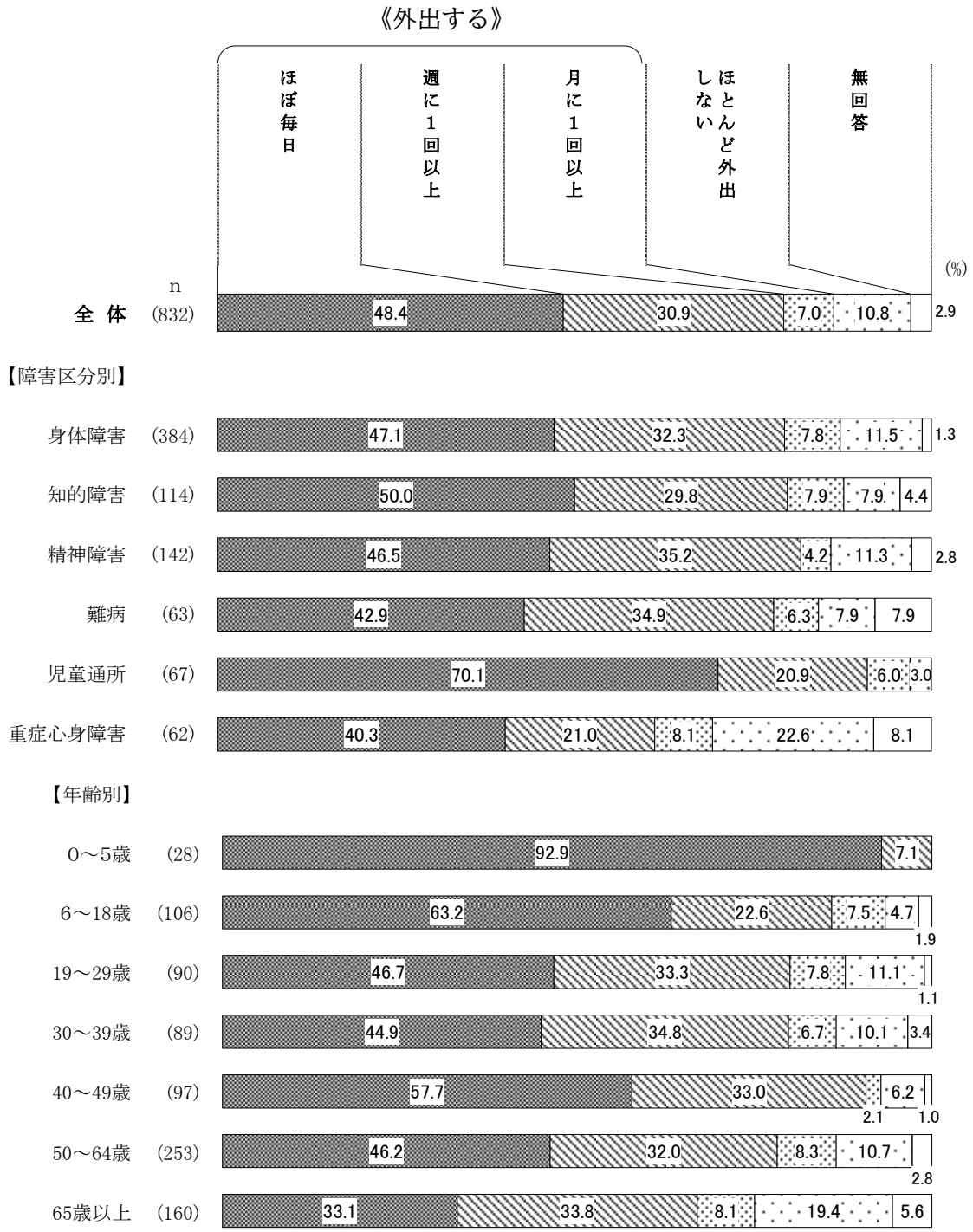
問25　あなたは、普段、どのくらい外出していますか。（１つに○）

普段の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」が48.4%、「週に１回以上」が30.9%、「月に１回以上」が7.0%となっており、少なくとも月１回以上《外出する》は86.3%となっている。

障害区分別にみると、「ほぼ毎日」は児童通所が70.1%、知的障害が50.0%となっている。《外出する》でみると、重症心身障害を除いたすべての障害区分で８割以上と多くなっている。

年齢別にみると、「ほぼ毎日」は６～18歳までが63.2%、40～49歳は57.7%となっている。少なくとも月１回以上《外出する》でみると、０歳～64歳までの年齢では８割以上、65歳以上は75.0%となっている。

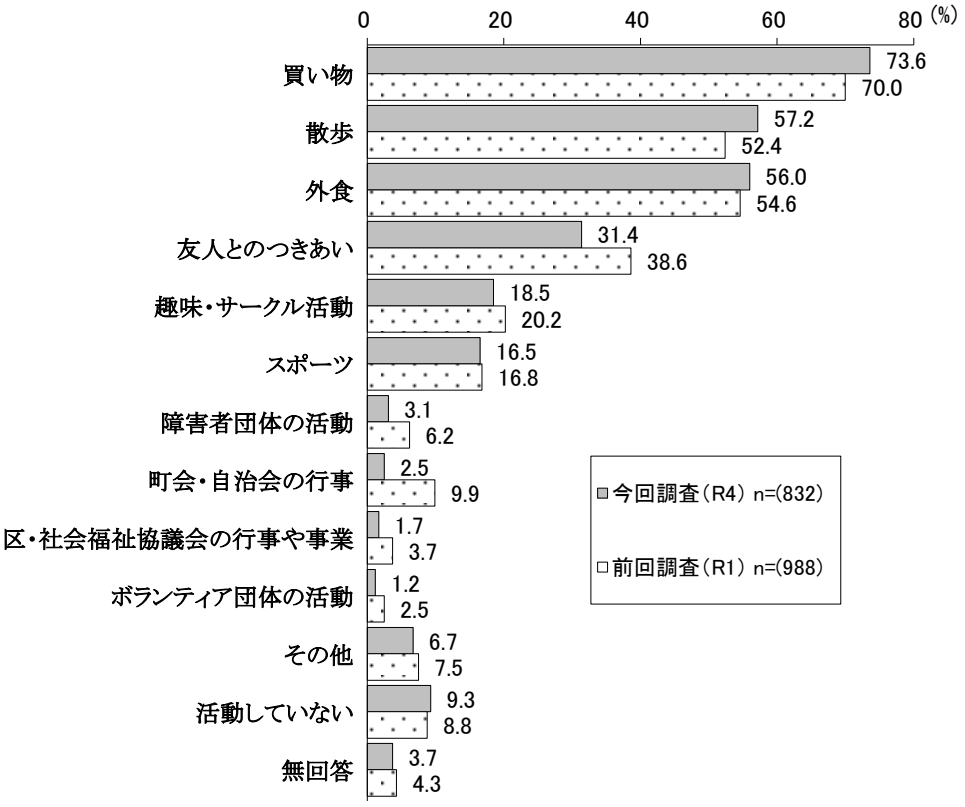



《外出する》
ほぼ毎日
週に1回以上
月に1回以上
ほとんど外出しない
無回答
(%)
n
全 体 (832) 48.4 30.9 7.0 10.8 2.9
【障害区分別】
身体障害 (384) 47.1 32.3 7.8 11.5 1.3
知的障害 (114) 50.0 29.8 7.9 7.9 4.4
精神障害 (142) 46.5 35.2 4.2 11.3 2.8
難病 (63) 42.9 34.9 6.3 7.9 7.9
児童通所 (67) 70.1 20.9 6.0 3.0
重症心身障害 (62) 40.3 21.0 8.1 22.6 8.1
【年齢別】
0～5歳 (28) 92.9 7.1
6～18歳 (106) 63.2 22.6 7.5 4.7 1.9
19～29歳 (90) 46.7 33.3 7.8 11.1 1.1
30～39歳 (89) 44.9 34.8 6.7 10.1 3.4
40～49歳 (97) 57.7 33.0 2.1 6.2 1.0
50～64歳 (253) 46.2 32.0 8.3 10.7 2.8
65歳以上 (160) 33.1 33.8 8.1 19.4 5.6

（2）最近１年間に参加した活動

問26　最近１年間に、どのような活動をしましたか。（あてはまるものすべてに○）

最近１年間に行った活動は、「買い物」が73.6％と最も多く、以下、「散歩」（57.2％）、「外食」（56.0％）が５割台、「友人とのつきあい」が31.4％と続いている。



（3）取り組んでみたい活動

問27　あなたが取り組んでみたい活動（現在取り組んでいる活動も含む）はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

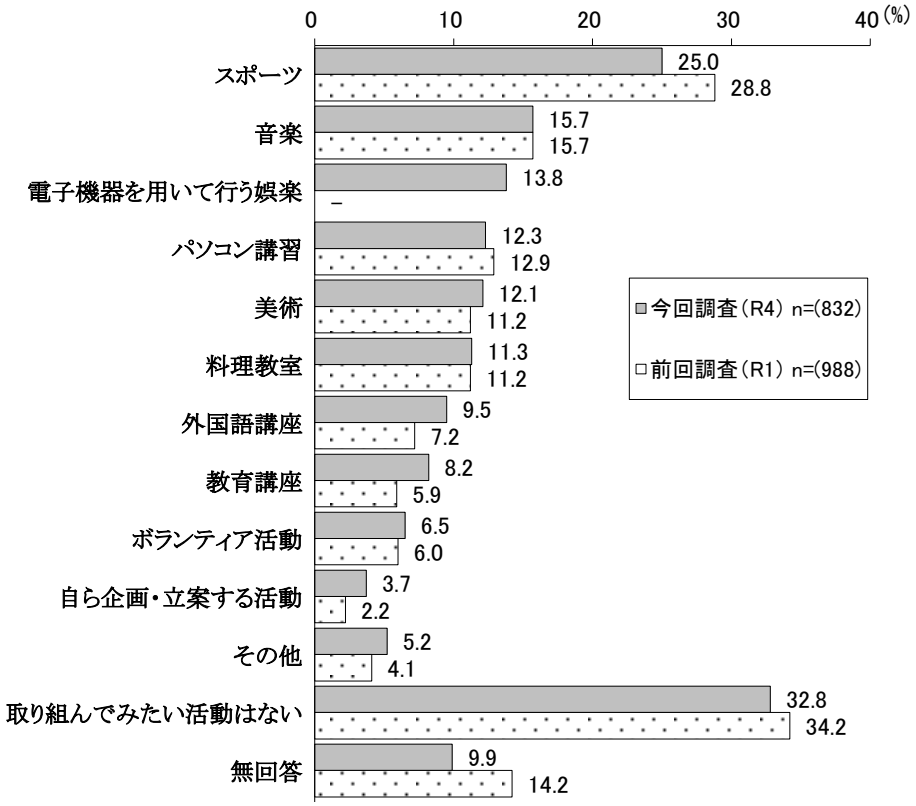
取り組んでみたい活動は、「スポーツ」が25.0％と最も多く、これに「音楽（合唱・楽器演奏など)」(15.7％)、「電子機器を用いて行う娯楽（ｅスポーツ・電子ゲーム・スマホゲームなど)」(13.8％)、「パソコン講習」(12.3％)、「美術（絵画・陶芸・染物など)」(12.1％)、「料理教室」(11.3％）が１割台と続いている。

なお、「取り組んでみたい活動はない」は32.8％と多くなっている。

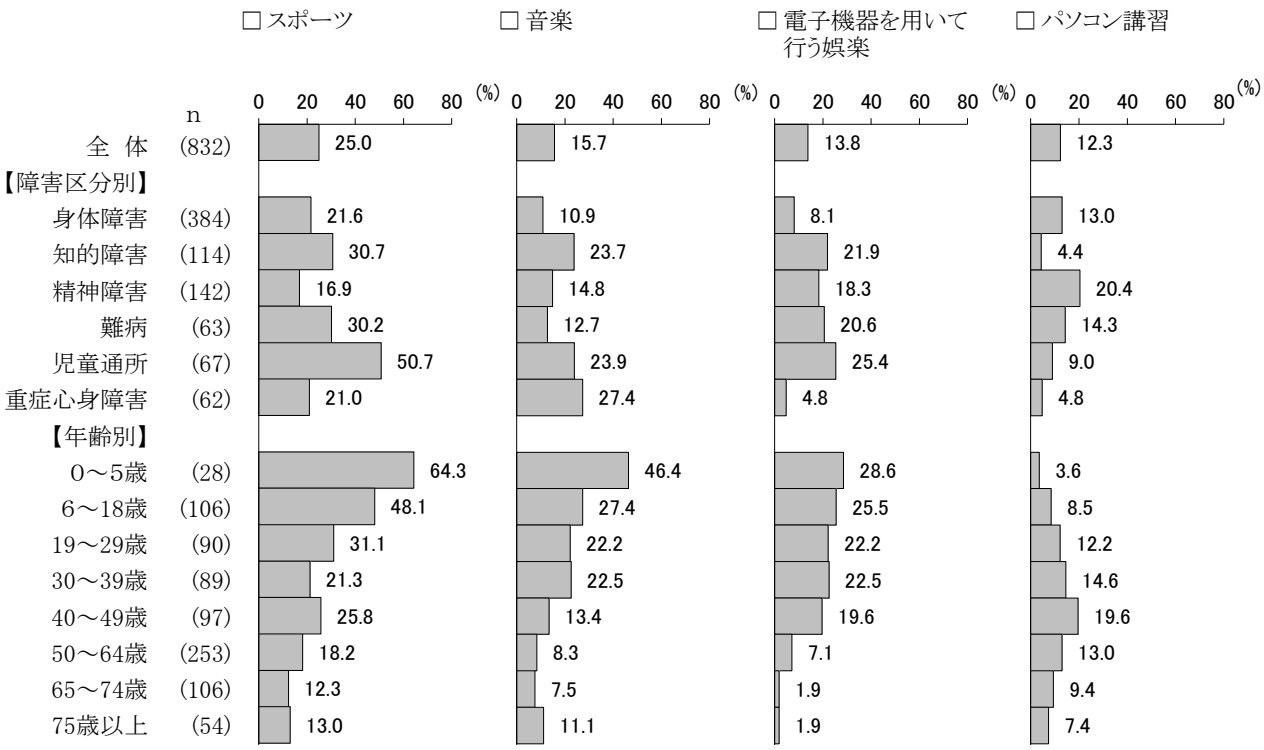
障害区分別にみると、児童通所では「スポーツ」が50.7％と多くなっている。

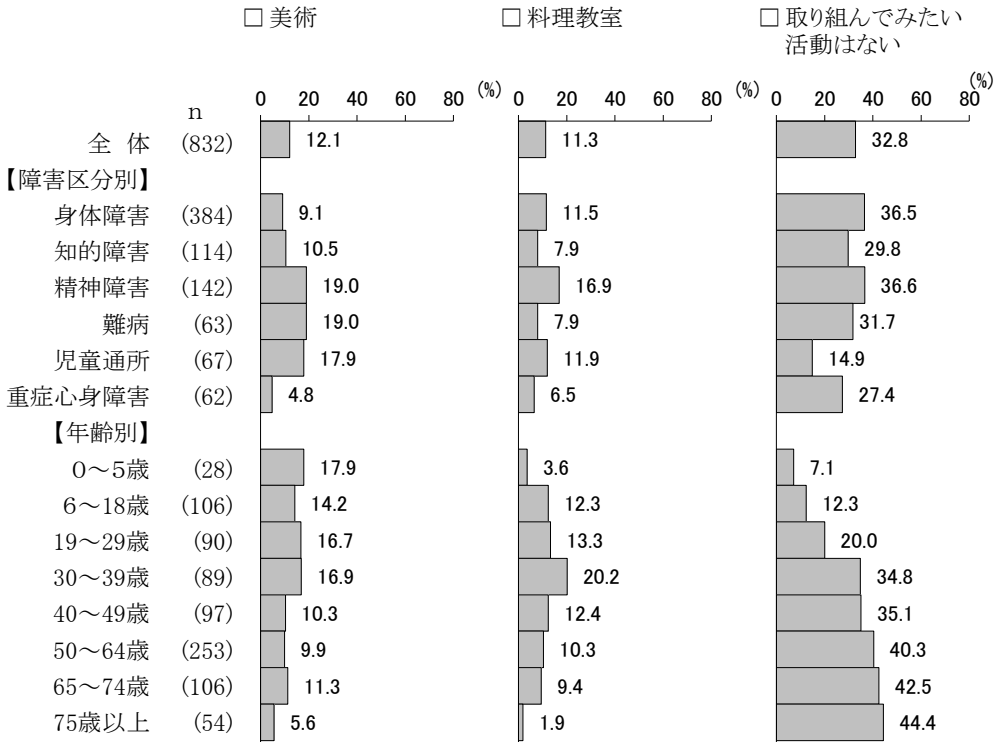
年齢別にみると、「スポーツ」、「音楽（合唱・楽器演奏など)」、「電子機器を用いて行う娯楽（ｅスポーツ・電子ゲーム・スマホゲームなど)」は概ね年齢が高くなるほど減少する。

なお、「取り組んでみたい活動はない」は年齢が高くなるほど増加している。



障害区分別、年齢別
（上位6項目＋「取り組んでみたい活動はない」）





（４）スポーツ（運動）実施状況

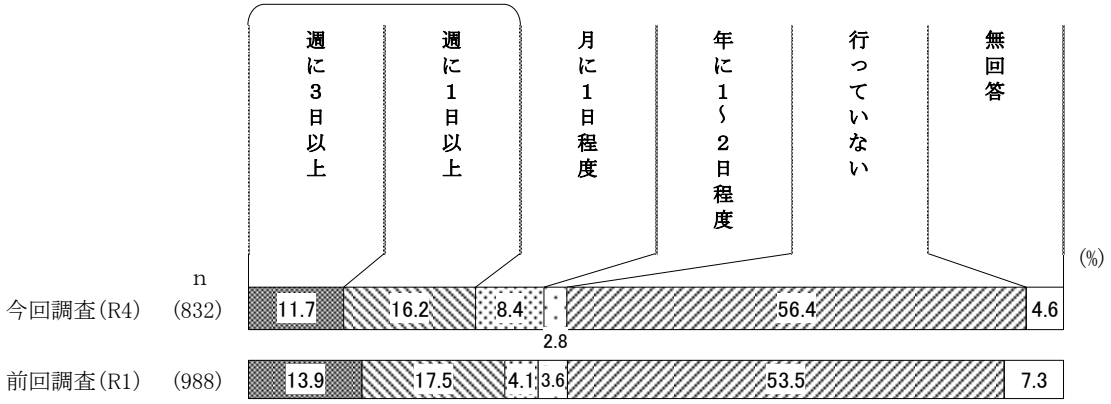
問28　あなたは過去１年間、どの程度スポーツ（運動）を行っていますか。（１つに○）

過去１年間のスポーツ（運動）の実施頻度は、「週に３日以上」が11.7％、「週に１日以上」が16.2％となっており、少なくとも週に１日以上《スポーツ（運動）をする》は27.9％となっている。一方、「行っていない」は56.4％となっている。

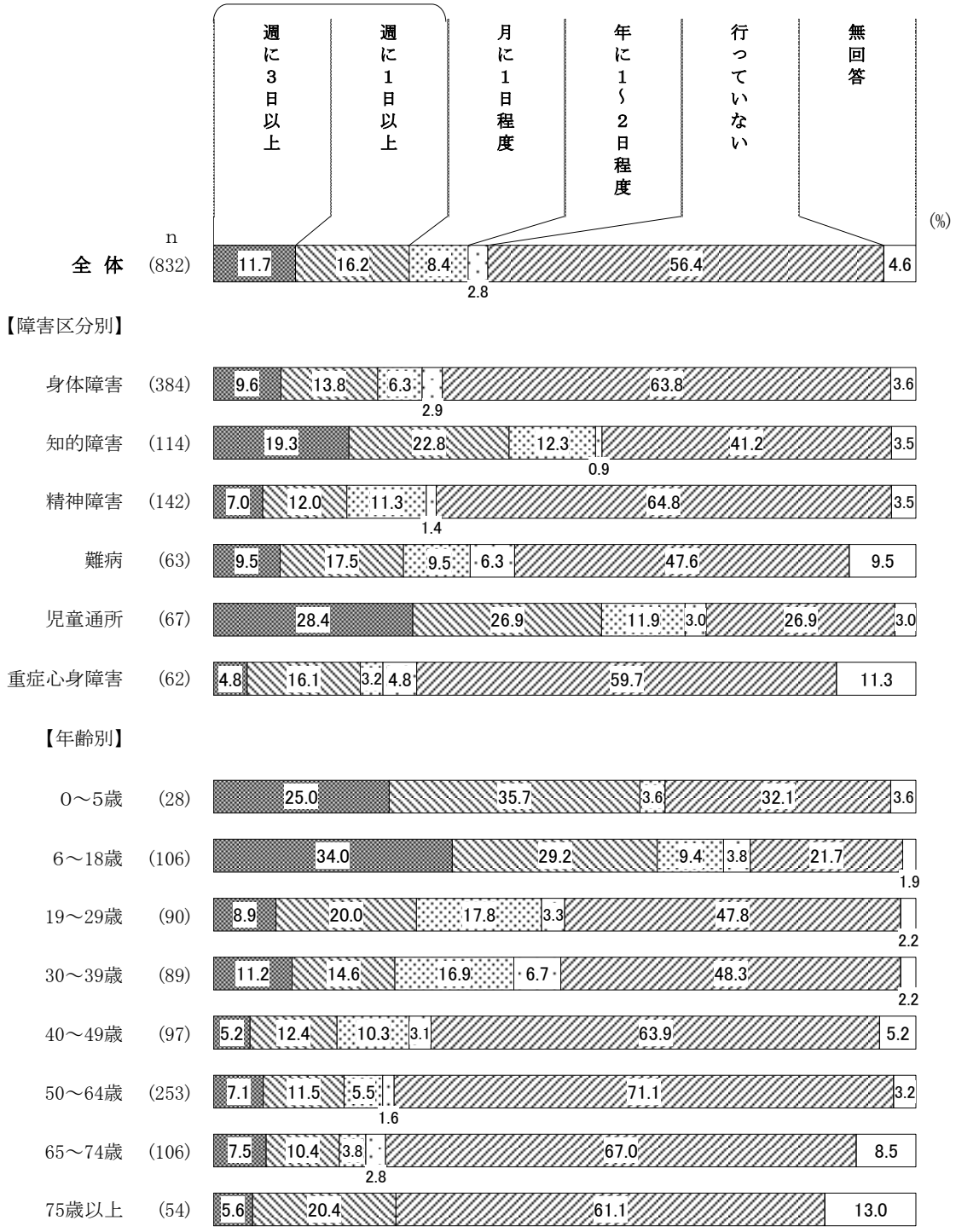
障害区分別にみると、「週に３日以上」は児童通所が28.4％、知的障害が19.3％と多くなっている。児童通所では「週に１日以上」も26.9％と多く、《スポーツ（運動）をする》は55.3％となっている。一方、「行っていない」は精神障害（64.8％）、身体障害（63.8％）が６割台と多くなっている。

年齢別にみると、「週に３日以上」は０歳～18歳までの年齢で３割前後となっており、《スポーツ（運動）をする》では０～18歳は６割台、19～39歳と75歳以上は２割台、40～74歳は１割台となっている。

《スポーツ（運動）をする》



《スポーツ（運動）をする》


週に3日以上
週に1日以上
月に1日程度
年に1～2日程度
行っていない
無回答
(%)
n
全 体 (832) 11.7 16.2 8.4 2.8 56.4 4.6
【障害区分別】
身体障害 (384) 9.6 13.8 6.3 2.9 63.8 3.6
知的障害 (114) 19.3 22.8 12.3 0.9 41.2 3.5
精神障害 (142) 7.0 12.0 11.3 1.4 64.8 3.5
難病 (63) 9.5 17.5 9.5 6.3 47.6 9.5
児童通所 (67) 28.4 26.9 11.9 3.0 26.9 3.0
重症心身障害 (62) 4.8 16.1 3.2 4.8 59.7 11.3
【年齢別】
0～5歳 (28) 25.0 35.7 3.6 32.1 3.6
6～18歳 (106) 34.0 29.2 9.4 3.8 21.7 1.9
19～29歳 (90) 8.9 20.0 17.8 3.3 47.8 2.2
30～39歳 (89) 11.2 14.6 16.9 6.7 48.3 2.2
40～49歳 (97) 5.2 12.4 10.3 3.1 63.9 5.2
50～64歳 (253) 7.1 11.5 5.5 1.6 71.1 3.2
65～74歳 (106) 7.5 10.4 3.8 2.8 67.0 8.5
75歳以上 (54) 5.6 20.4 61.1 13.0

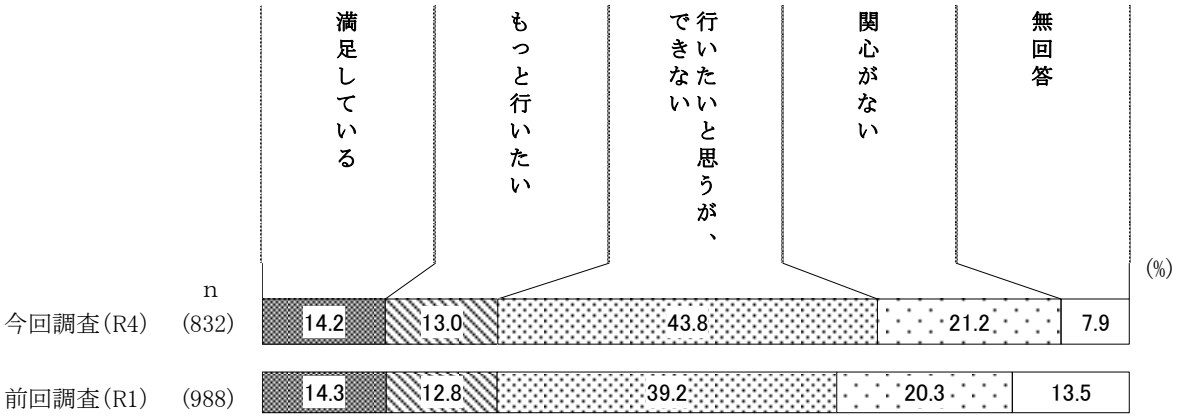
（５）スポーツ（運動）に対する意識

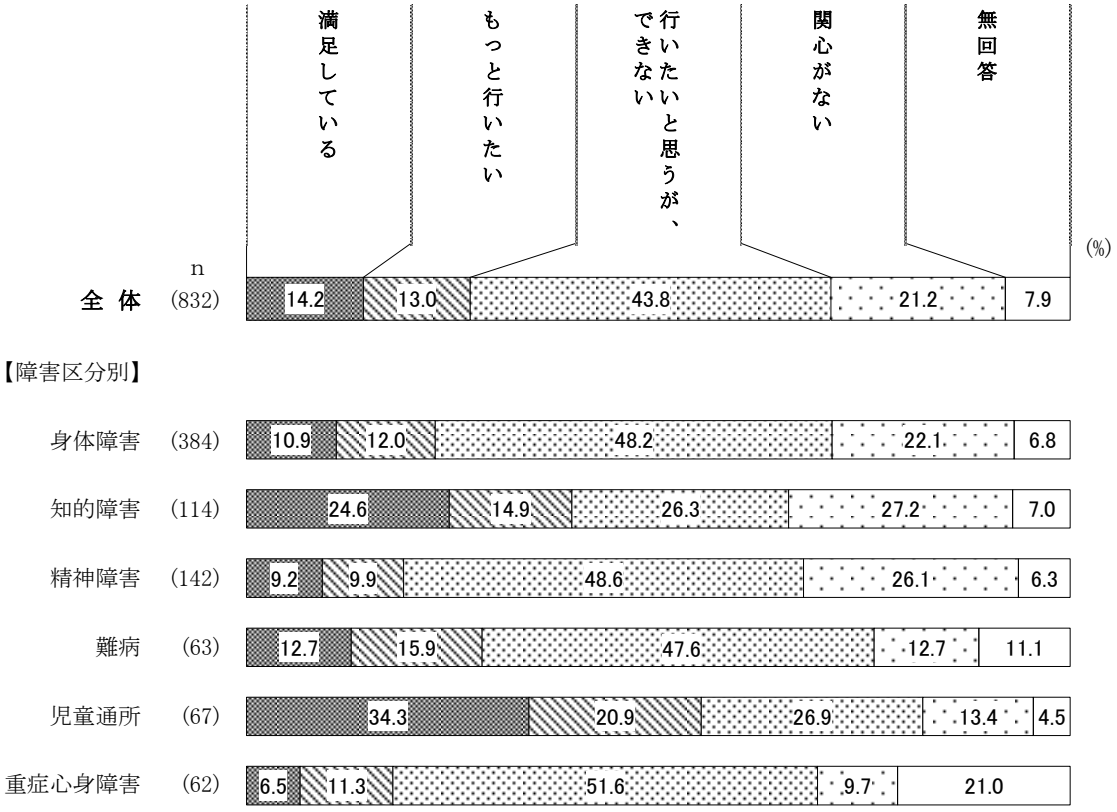
問29　あなたのスポーツ（運動）に対する意識について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（１つに○）

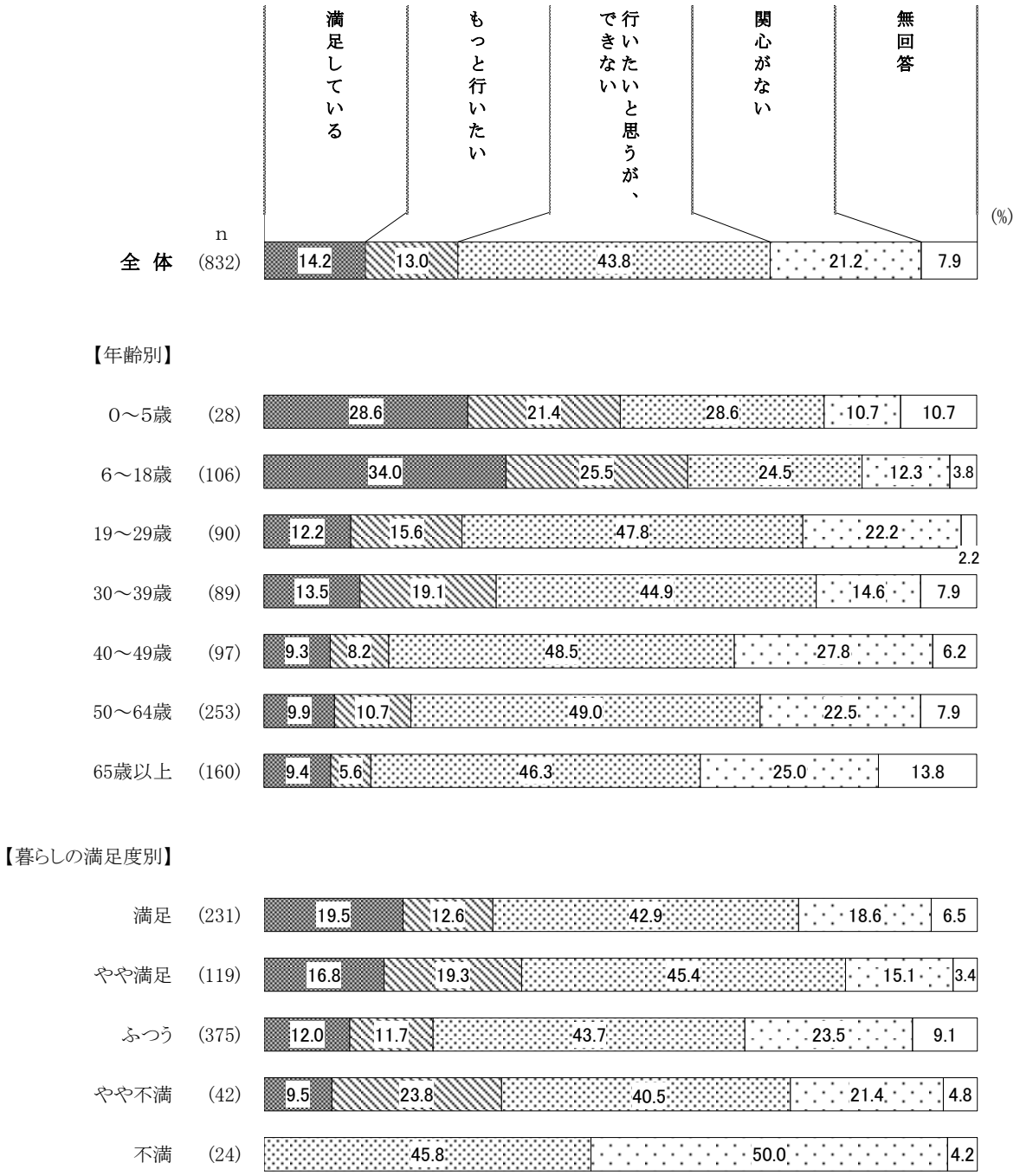
スポーツ（運動）に対する考えは、「スポーツ（運動）を行っており、満足している」は14.2%、「スポーツ（運動）を行っているが、もっと行いたい」は13.0%となっている。また、「スポーツ（運動）を行いたいと思うが、できない」が43.8%と多くなっている。

障害区分別にみると、児童通所は「スポーツ（運動）を行っており、満足している」が34.3%、「スポーツ（運動）を行っているが、もっと行いたい」が20.9%と多くなっている。「スポーツ（運動）を行いたいと思うが、できない」は身体障害、精神障害、難病が５割弱となっている。

年齢別にみると、「スポーツ（運動）を行っており、満足している」は０歳～18歳が３割前後と多く、「スポーツ（運動）を行っているが、もっと行いたい」は６～18歳が25.5%と多くなっている。一方、「スポーツ（運動）を行いたいと思うが、できない」は19歳以上の年齢層で４割台となっている。




満足している
もっと行いたい
行いたいと思うが、できない
関心がない
無回答
(%)
n
全 体 (832) 14.2 13.0 43.8 21.2 7.9
【障害区分別】
身体障害 (384) 10.9 12.0 48.2 22.1 6.8
知的障害 (114) 24.6 14.9 26.3 27.2 7.0
精神障害 (142) 9.2 9.9 48.6 26.1 6.3
難病 (63) 12.7 15.9 47.6 12.7 11.1
児童通所 (67) 34.3 20.9 26.9 13.4 4.5
重症心身障害 (62) 6.5 11.3 51.6 9.7 21.0


満足している
もっと行いたい
行いたいと思うが、できない
関心がない
無回答
(%)
n
全 体 (832) 14.2 13.0 43.8 21.2 7.9
【年齢別】
0～5歳 (28) 28.6 21.4 28.6 10.7 10.7
6～18歳 (106) 34.0 25.5 24.5 12.3 3.8
19～29歳 (90) 12.2 15.6 47.8 22.2 2.2
30～39歳 (89) 13.5 19.1 44.9 14.6 7.9
40～49歳 (97) 9.3 8.2 48.5 27.8 6.2
50～64歳 (253) 9.9 10.7 49.0 22.5 7.9
65歳以上 (160) 9.4 5.6 46.3 25.0 13.8
【暮らしの満足度別】
満足 (231) 19.5 12.6 42.9 18.6 6.5
やや満足 (119) 16.8 19.3 45.4 15.1 3.4
ふつう (375) 12.0 11.7 43.7 23.5 9.1
やや不満 (42) 9.5 23.8 40.5 21.4 4.8
不満 (24) 45.8 50.0 4.2

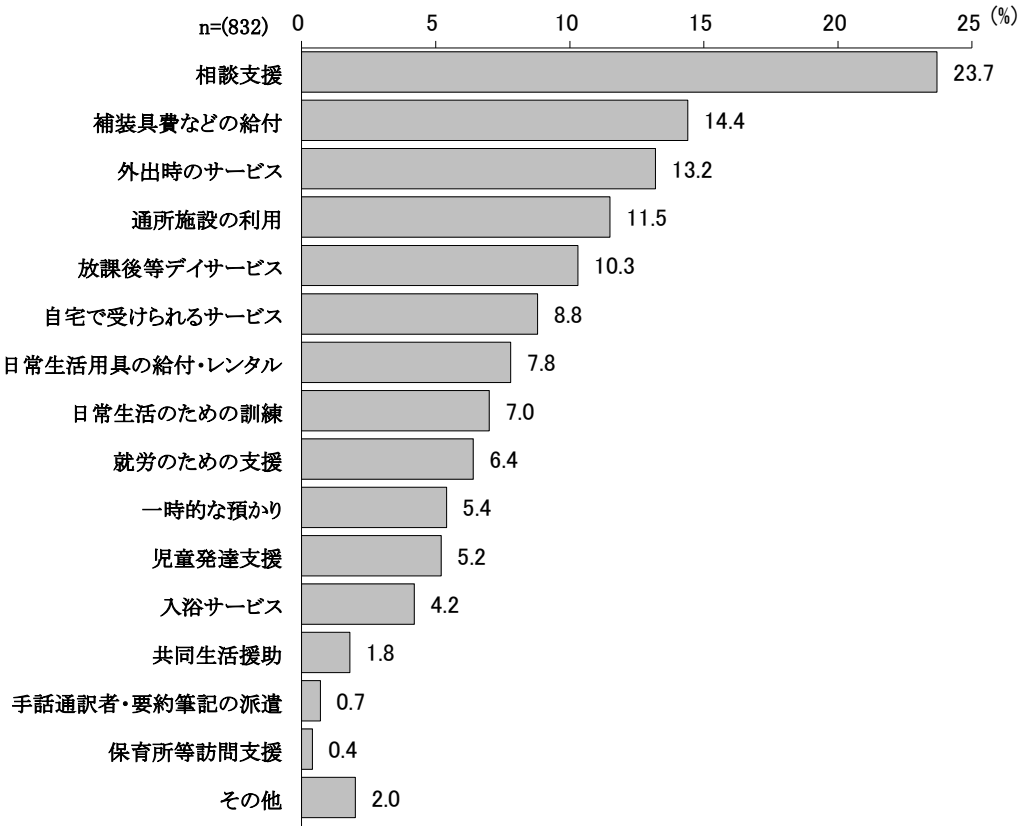
9 サービスの利用等について

（1）障害福祉サービスの利用状況

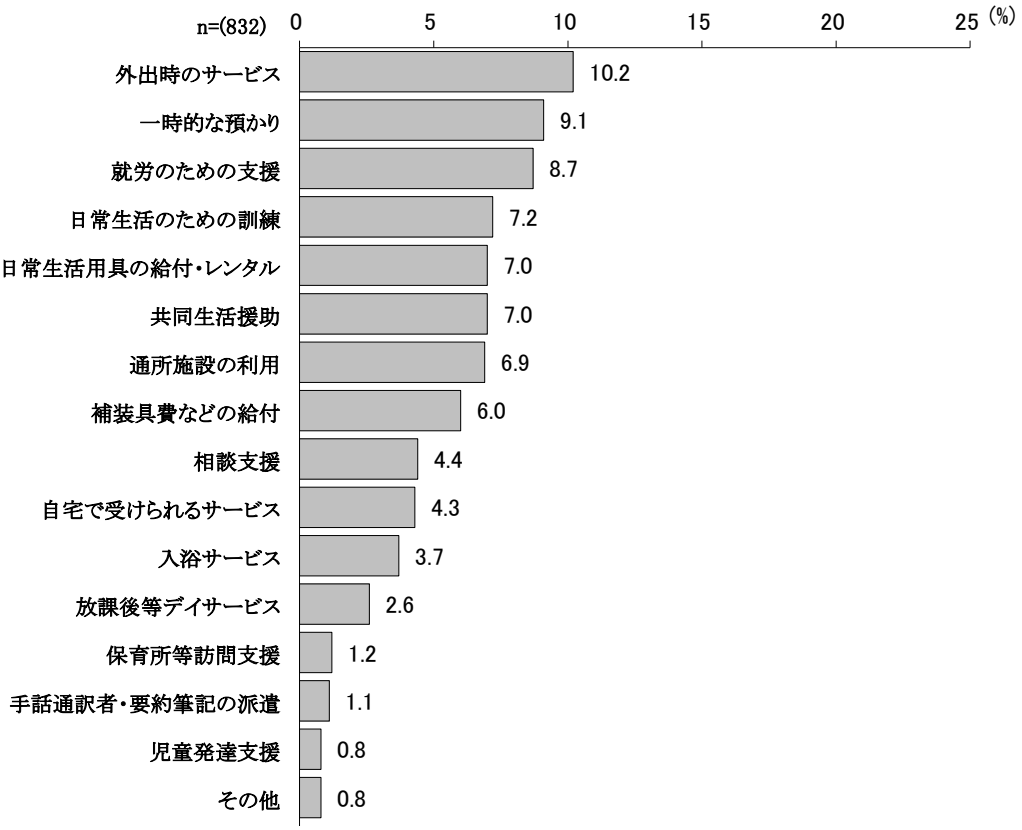
問30 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。①現在、利用しているもの、②利用していないもの、③今後、利用したいものをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

障害福祉サービスの利用状況をみると、「現在、利用しているもの」では〈相談支援〉が23.7％と最も多く、〈補装具費などの給付〉（14.4％）、〈外出時のサービス〉（13.2％）、〈通所施設の利用〉（11.5％）、〈放課後等デイサービス〉（10.3％）が１割台とやや多い。「今後、利用したいもの」では〈外出時のサービス〉が10.2％と多くなっている。

現在利用しているサービス



今後、利用したいサービス



（2）障害福祉サービスを利用する際の不便

問31　障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思ったりすることはありますか。（あてはまるものすべてに〇）

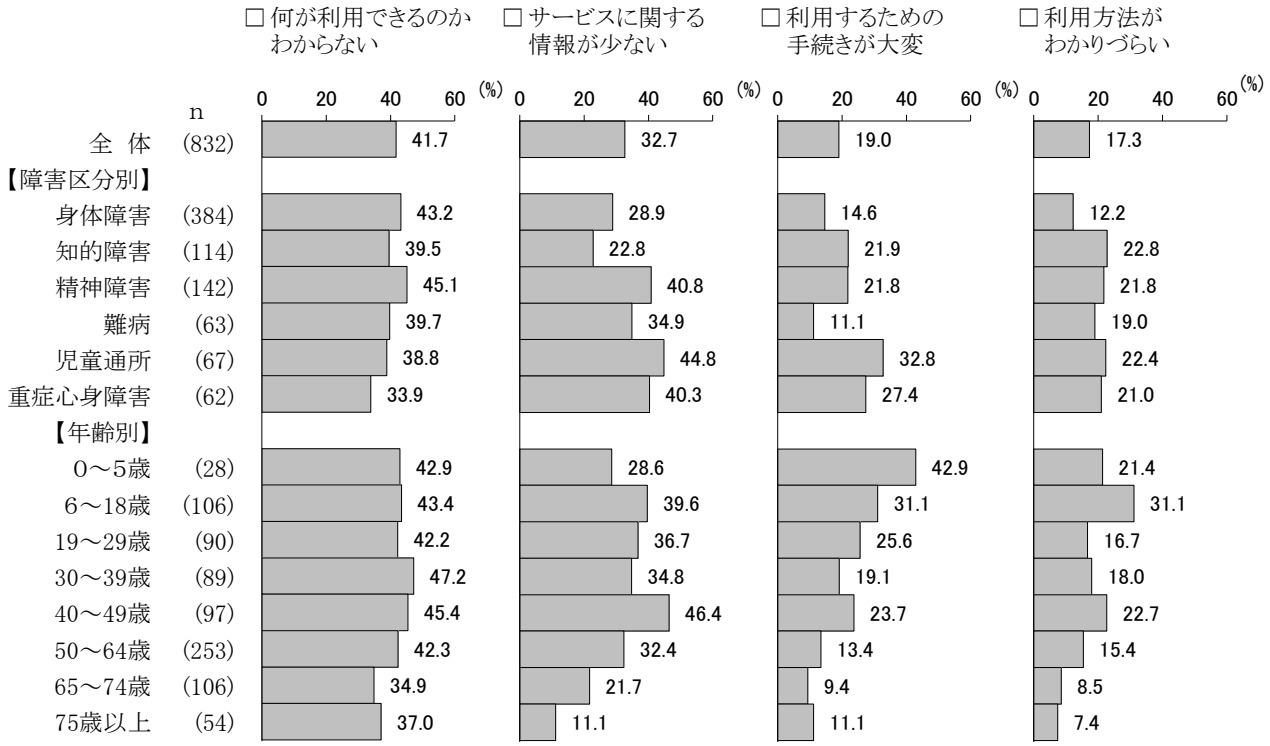
障害福祉サービス利用時等の困り事や不便は、「何が利用できるのかわからない」が41.7%と多く、これに「サービスに関する情報が少ない」が32.7%と続いている。

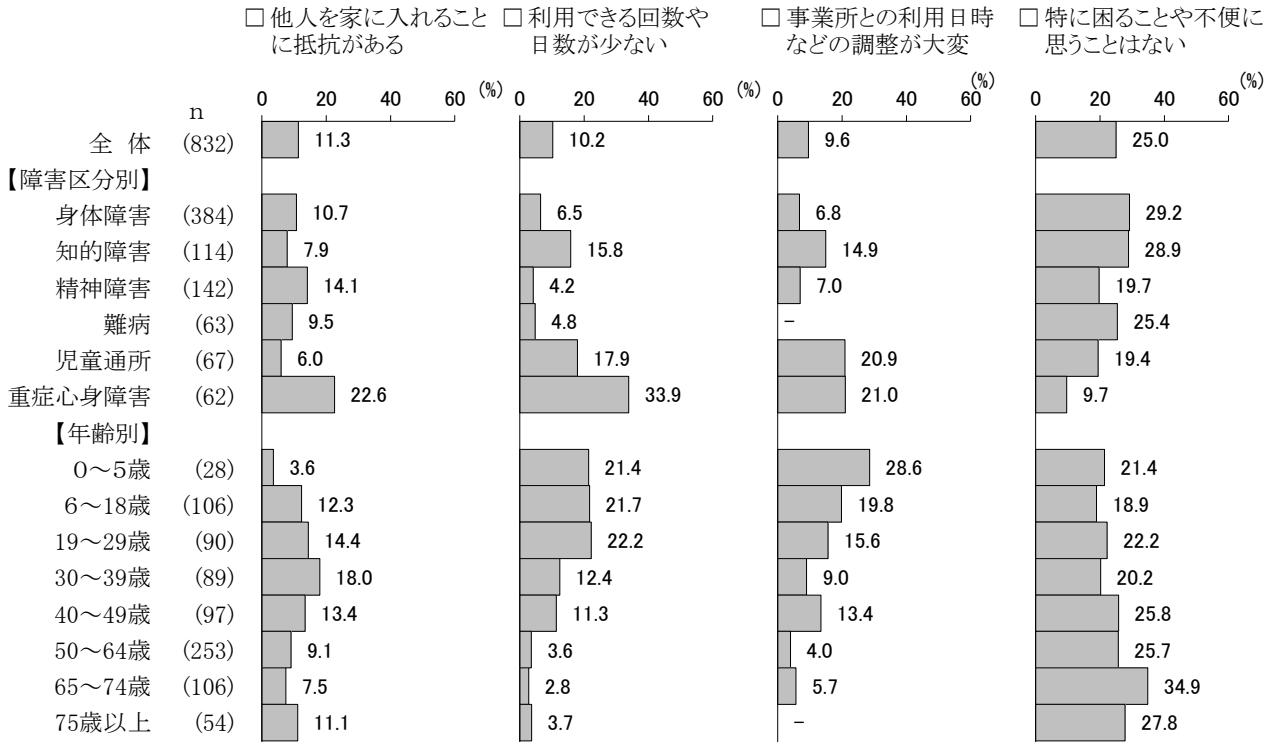
なお、「特に困ることや不便に思うことはない」は25.0%となっている。

障害区分別にみると、いずれの障害区分でも「何が利用できるのかわからない」と「サービスに関する情報が少ない」が多い。精神障害では「何が利用できるのかわからない」、児童通所では「サービスに関する情報が少ない」、重症心身障害では「他人を家に入れることに抵抗がある」、「利用できる回数や日数が少ない」が他の障害区分より多い。

年齢別にみると、いずれの年齢でも「何が利用できるのかわからない」、「サービスに関する情報が少ない」が多くなっている。

障害区分別、年齢別
（上位7項目＋「特に困ることや不便に思うことはない」）





10 災害時の対応について

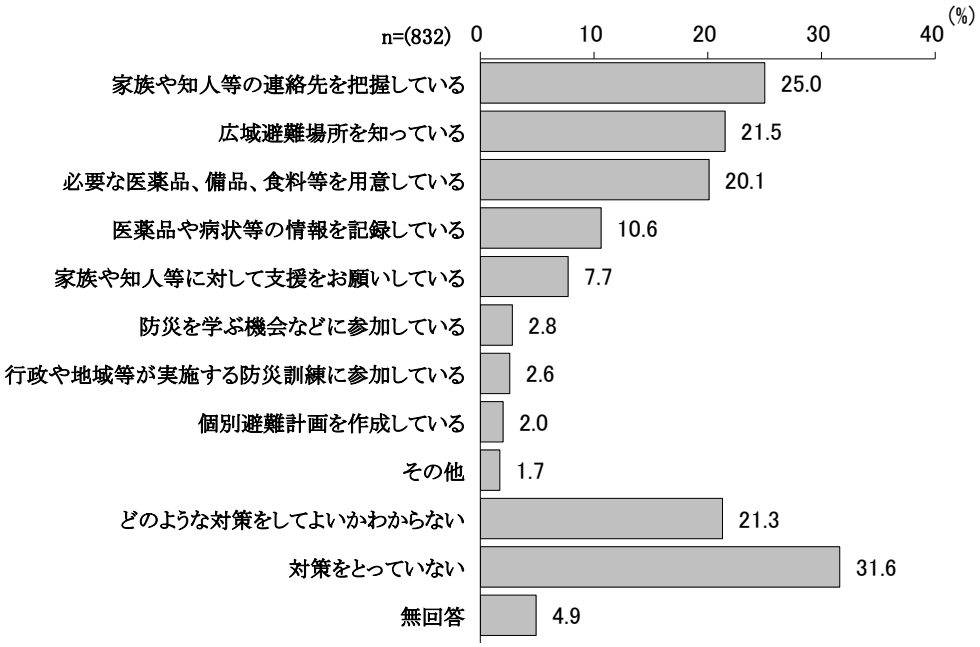
（１）災害に備えた特別な対策

問32 あなたは、災害に備えて、難病や障害の状況に応じた特別な対策をとっていますか。
（あてはまるものすべてに○）

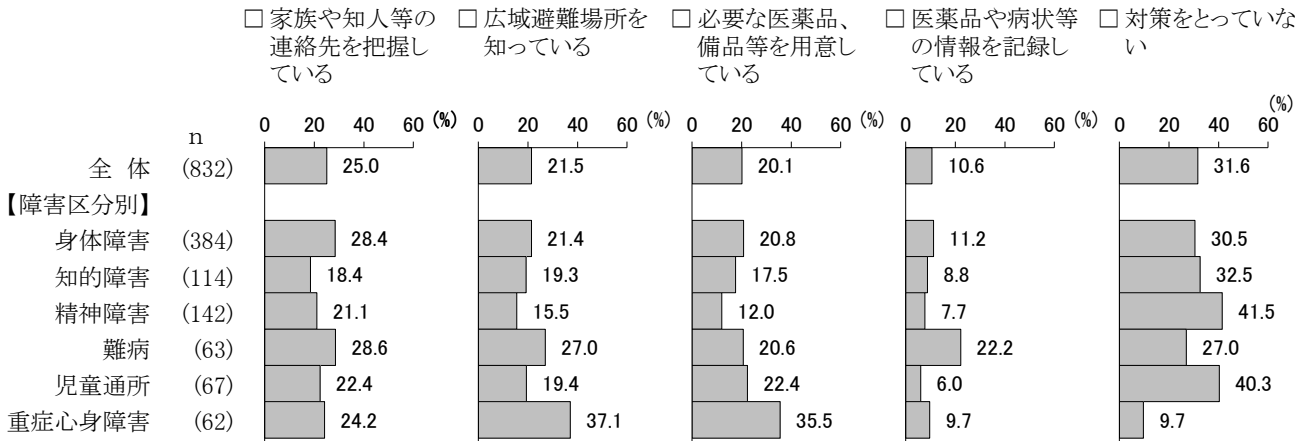
災害に備えた特別な対策は、「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」(25.0%)、「災害時に避難する広域避難場所を知っている」(21.5%)、「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、難病や障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」(20.1%) が２割台となっている。

なお、「どのような対策をしてよいかわからない」は21.3%、「特に対策をとっていない」は31.6%となっている。

障害区分別にみると、重症心身障害では「災害時に避難する広域避難場所を知っている」と「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、難病や障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」、難病では「避難所等において医療が受けられるよう、医薬品や病状等の情報を記録している」が他の障害より多くなっている。

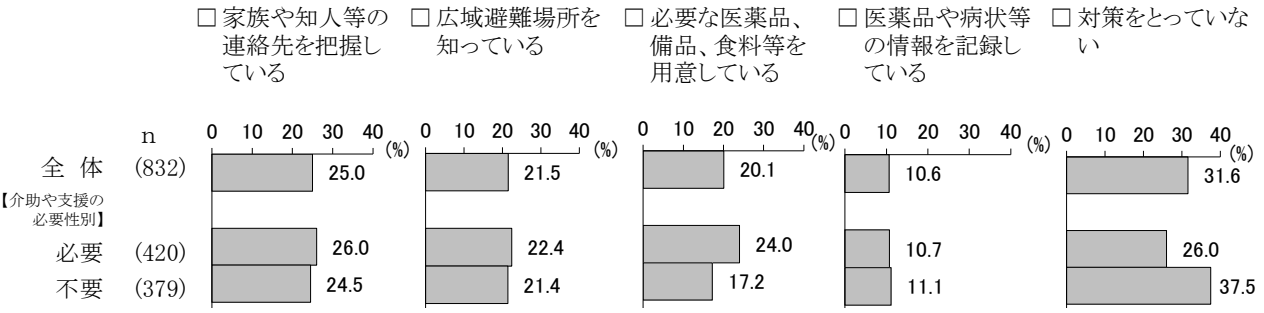


障害区分別（上位4項目+「対策をとっていない」）



介助や支援の必要性別（問９）にみると、「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、難病や障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」は日常の介助や支援を不要とする人よりも必要とする人の方が多く、他の項目より差がみられる。

介助や支援の必要性別（上位4項目+「対策をとっていない」）



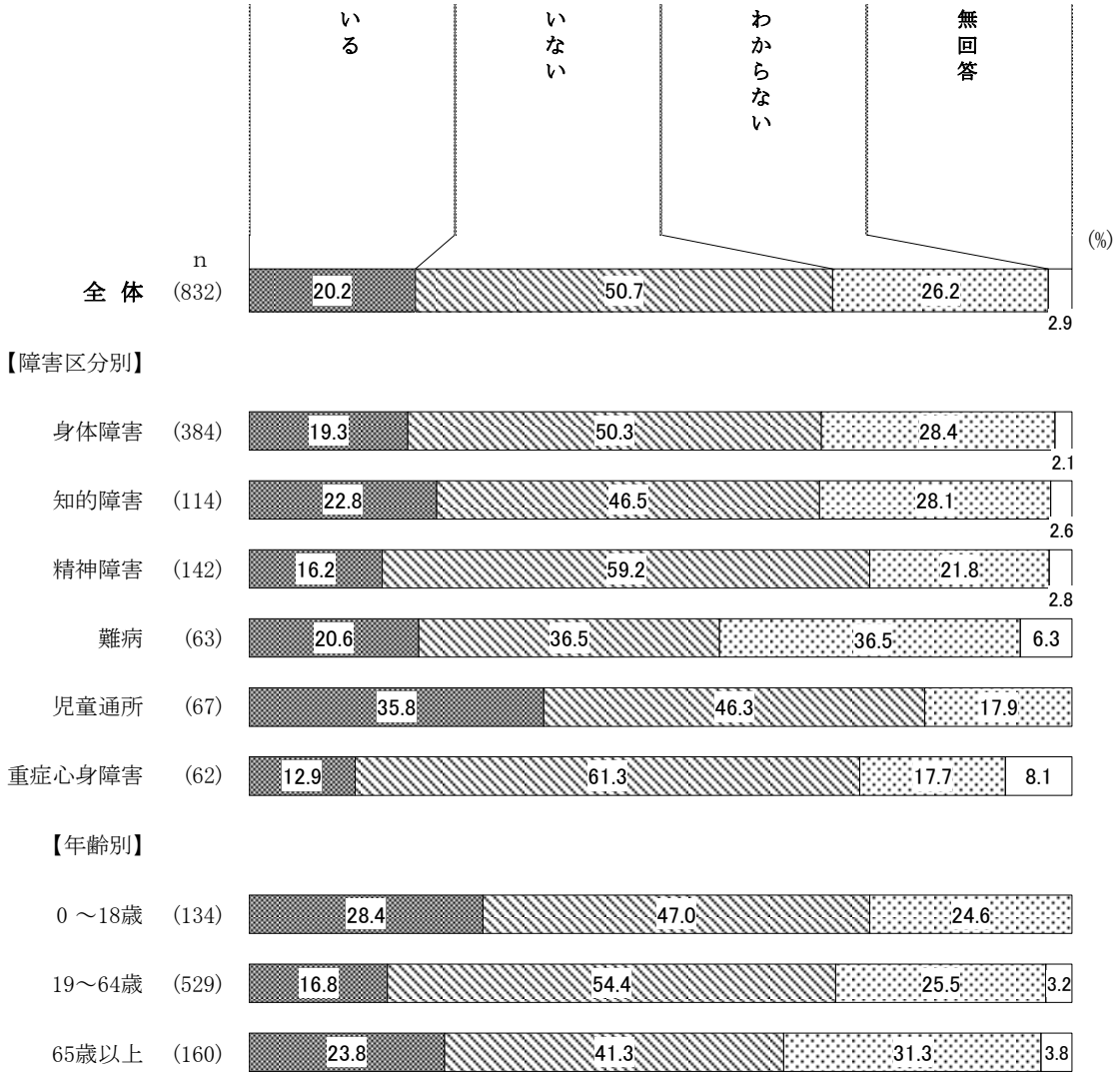
（2）近所に助けてくれる人の有無

問33　あなたは、火事や地震などの災害時に家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。（１つに○）

近所に助けてくれる人「いる」は20.2%、「いない」は50.7%、「わからない」は26.2%となっている。

障害区分別にみると、「いる」は児童通所が35.8%と多く、「いない」は重症心身障害と精神障害が６割前後と多くなっている。

年齢別にみると、「いない」は19～64歳の年齢層で５割を超えている。



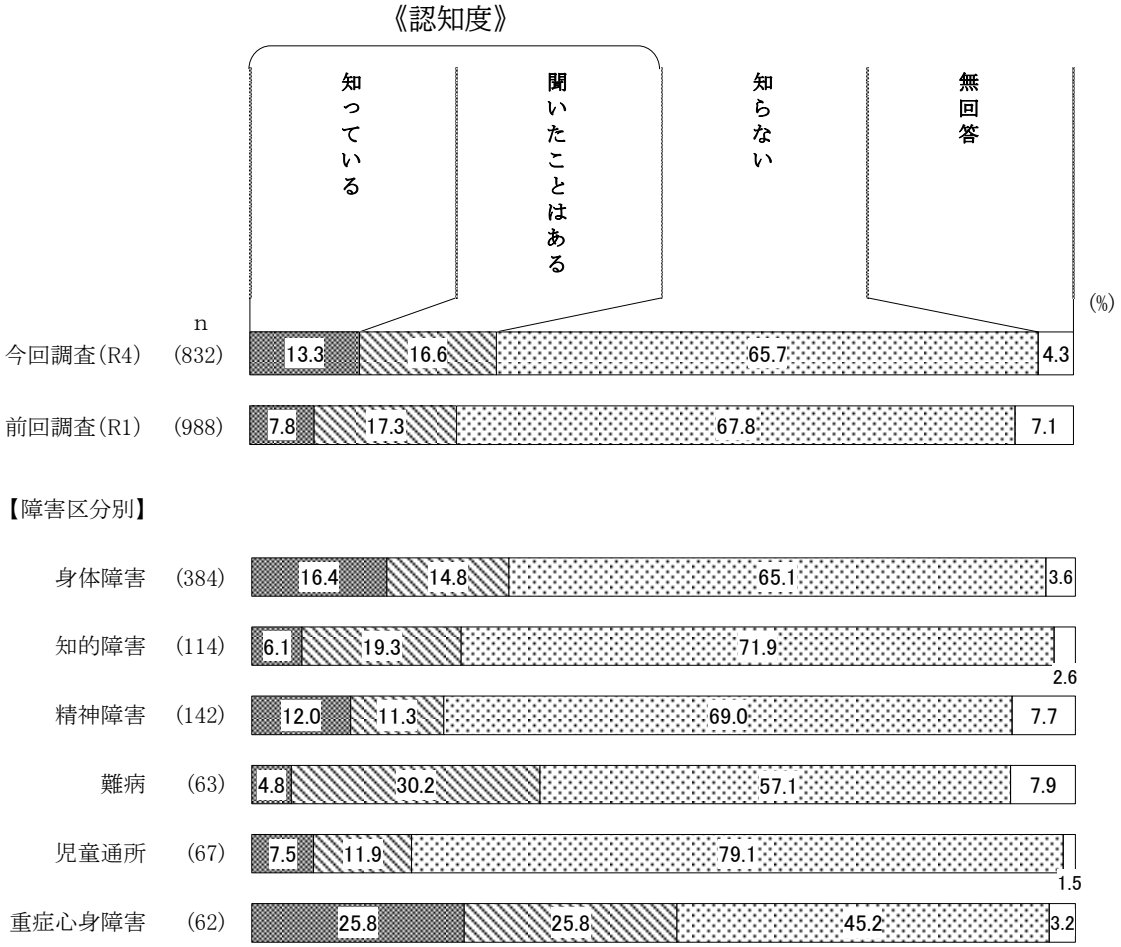
11 障害者差別について

（1）障害者差別解消法の理解

問34 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。（１つに〇）

障害者差別解消法を「知っている」は13.3％、「聞いたことはある」は16.6％、両者をあわせた《認知度》は29.9％となっている。

障害区分別にみると、「知っている」は重症心身障害が25.8％と多く、《認知度》でも51.6％と他の障害区分より多くなっている。



（2）障害者差別を感じる場面

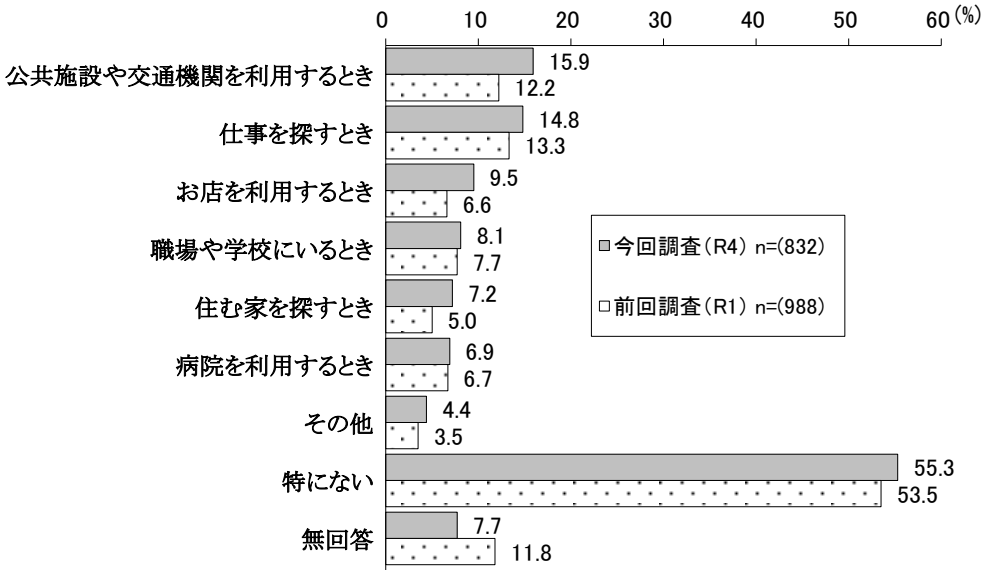
問35　あなたは、どのようなときに、障害を理由に差別されていると感じることがありますか。（あてはまるものすべてに〇）

障害を理由に差別されていると感じる場面では、「公共施設や交通機関を利用するとき」（15.9%）、「仕事を探すとき」（14.8%）が1割台となっている。

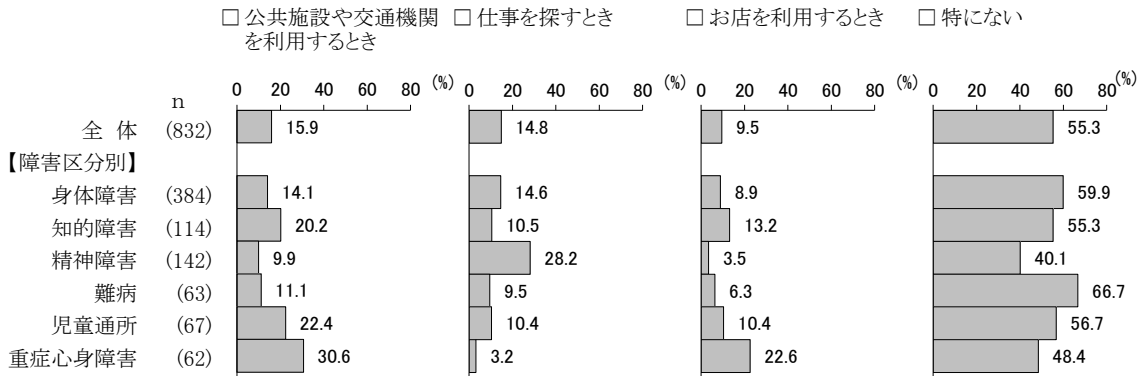
なお、「特にない」が55.3%と最も多くなっている。

障害区分別にみると、「公共施設や交通機関を利用するとき」と「お店を利用するとき」は重症心身障害が、「仕事を探すとき」は精神障害が最も多い。

なお、「特にない」は難病で66.7%と最も多くなっている。



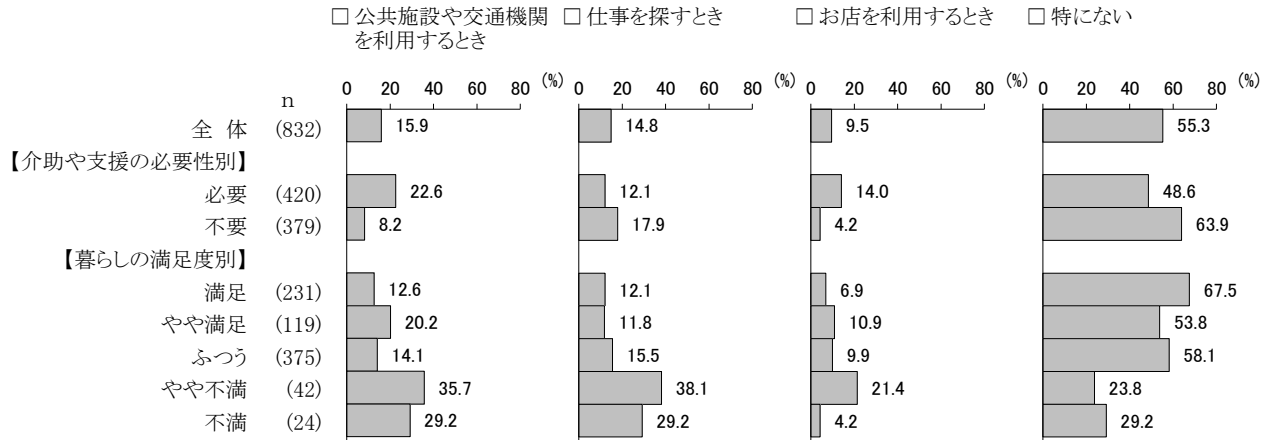
障害区分別(上位3項目＋「特にない」)



介助や支援の必要性別（問９）にみると、「仕事を探すとき」では必要性に関わらず１割台となっている。「公共施設や交通機関を利用するとき」は「必要」が22.6％と「不要」を大きく上回っている。

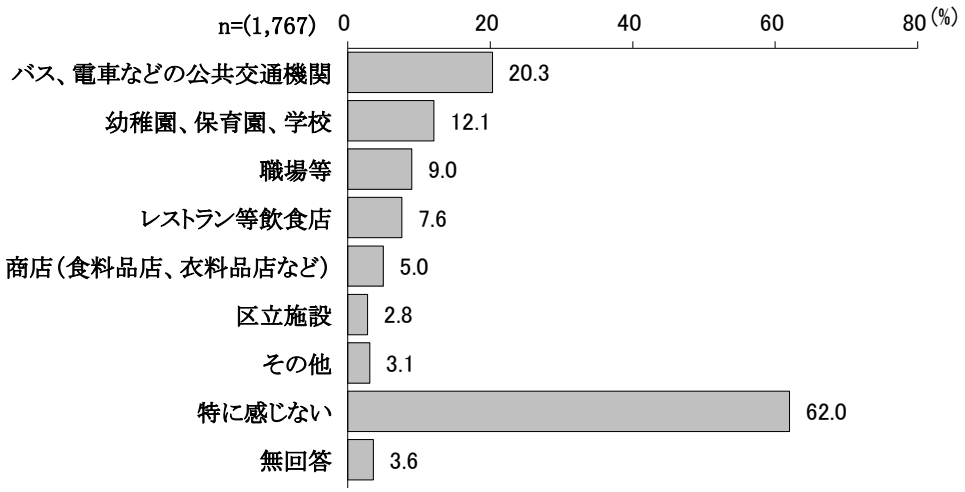
江戸川区での暮らしの満足度別（問36）にみると、上位２項目は満足度が低いほど差別を感じる割合は高くなっている。一方、満足度が高い層では、「特にない」が多くなっている。

介助や支援の必要性別、暮らしの満足度別
（上位3項目＋「特にない」）



＜第35回江戸川区民世論調査結果（参考）＞

問24　地域社会の中に障害のある人への差別・偏見があると思いますか。ある場合はどのような場面で感じましたか。（あてはまるものすべてに○）



※区立施設…図書館、文化・スポーツ施設、宿泊施設等

今回調査、区民世論調査ともに、障害を理由に差別されていると感じる場面では、公共交通機関を利用するときが多くなっている。

なお、「特に感じない」が62.0％と最も多くなっている。

出典：第 35 回江戸川区民世論調査（令和４年度）

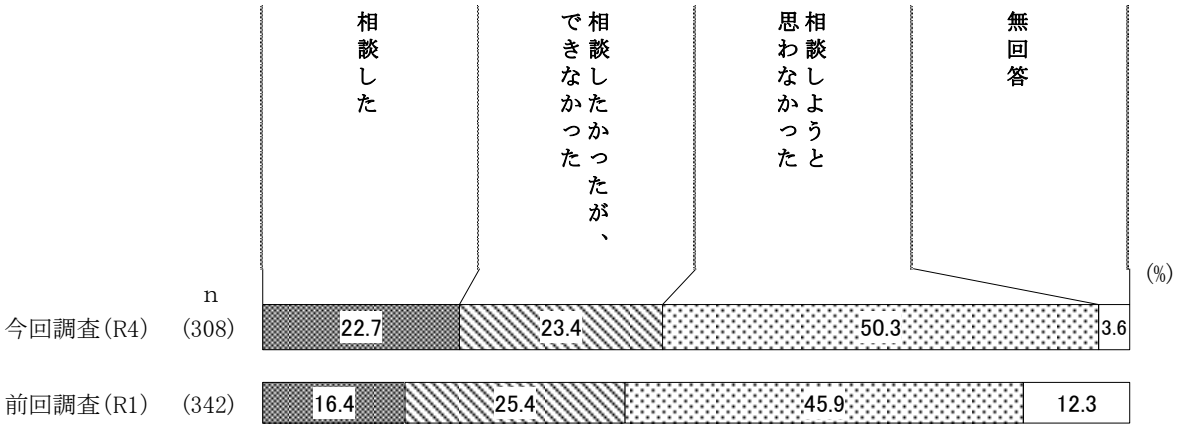
（３）差別を受けた際の相談先

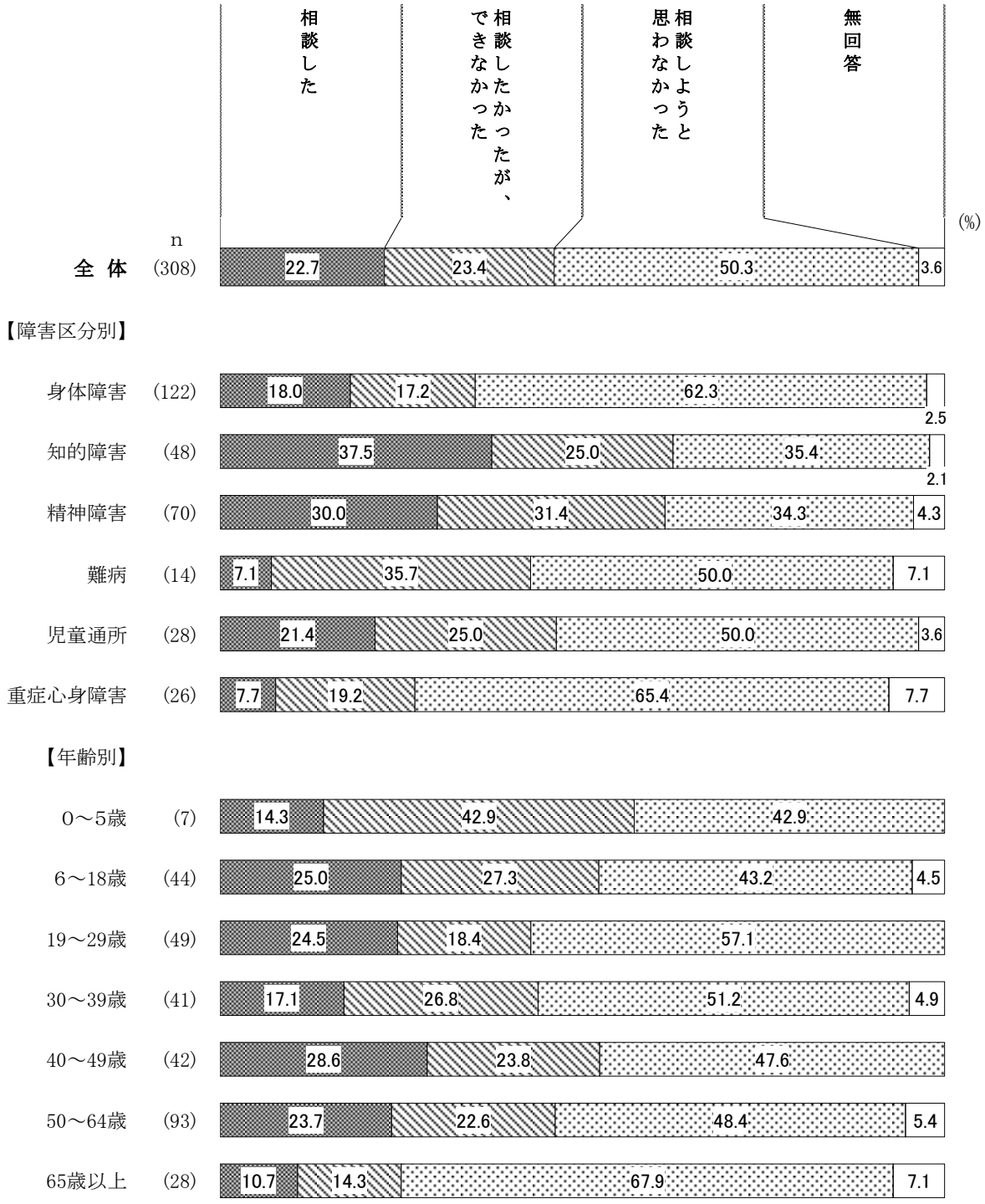
問35で「差別されていると感じることがある」と回答した方のみ
問35－１　差別されていると感じたとき、どこかに相談をしましたか。（家族や友人を除く）
（１つに○）

差別を受けたと感じたときに、「相談した」は22.7％となっている。「相談したかったが、できなかった」は23.4％、「相談しようと思わなかった」は50.3％となっている。

障害区分別にみると、「相談した」は知的障害（37.5％）、精神障害（30.0％）が３割台、「相談したかったが、できなかった」は難病（35.7％）、精神障害（31.4％）が３割台となっている。「相談しようと思わなかった」は身体障害が62.3％と多くなっている。

年齢別にみると、「相談しようと思わなかった」は19～39歳の年齢層で５割以上と多い。




相談した
相談したかったが、できなかった
相談しようと思わなかった
無回答
(%)
n
全 体 (308) 22.7 23.4 50.3 3.6
【障害区分別】
身体障害 (122) 18.0 17.2 62.3 2.5
知的障害 (48) 37.5 25.0 35.4 2.1
精神障害 (70) 30.0 31.4 34.3 4.3
難病 (14) 7.1 35.7 50.0 7.1
児童通所 (28) 21.4 25.0 50.0 3.6
重症心身障害 (26) 7.7 19.2 65.4 7.7
【年齢別】
0～5歳 (7) 14.3 42.9 42.9
6～18歳 (44) 25.0 27.3 43.2 4.5
19～29歳 (49) 24.5 18.4 57.1
30～39歳 (41) 17.1 26.8 51.2 4.9
40～49歳 (42) 28.6 23.8 47.6
50～64歳 (93) 23.7 22.6 48.4 5.4
65歳以上 (28) 10.7 14.3 67.9 7.1

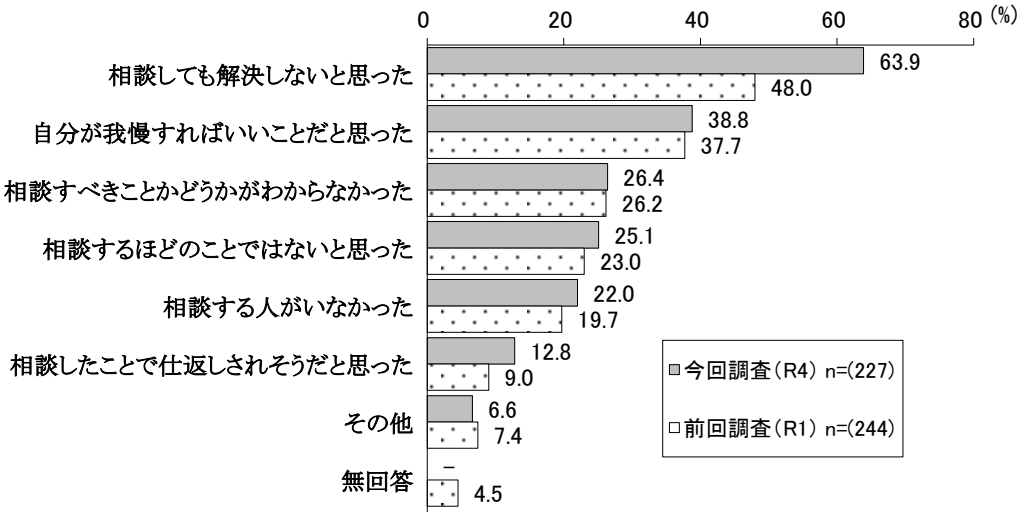
（４）相談しなかった（できなかった）理由

問35－１で「相談したかったが、できなかった」または「相談しようと思わなかった」と回答した方のみ
問35－２　どこにも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。
（あてはまるものすべてに○）

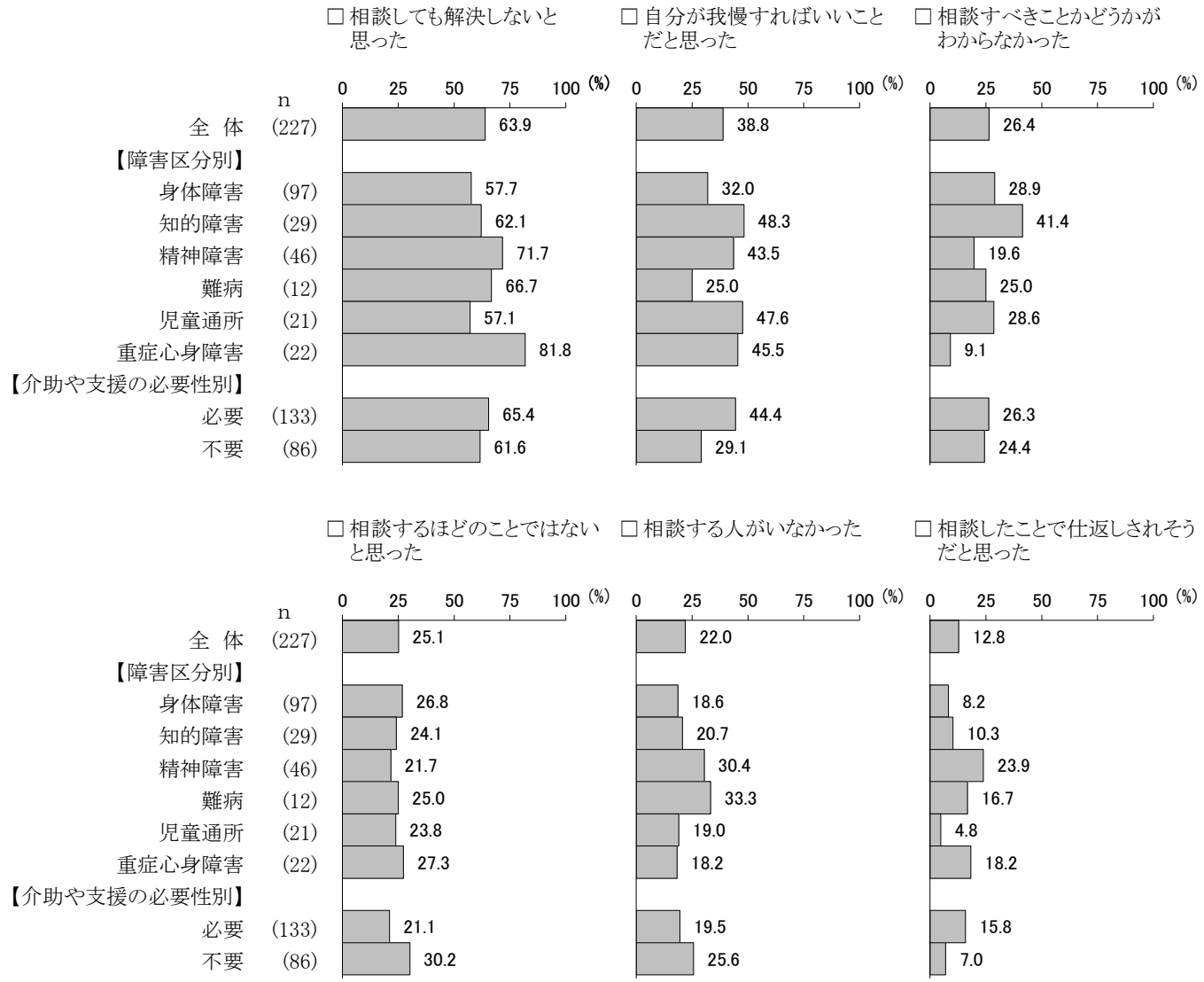
差別を感じたときに、どこにも相談しなかった（できなかった）理由は、「相談しても解決しないと思った」が63.9%と最も多く、以下、「自分が我慢すればいいことだと思った」が38.8%、「相談すべきことかどうかがわからなかった」（26.4%）、「相談するほどのことではないと思った」（25.1%）、「相談する人がいなかった」（22.0%）が２割台と続いている。

障害区分別にみると、「相談しても解決しないと思った」はいずれの障害区分も５割以上と多くなっている。

介助や支援の必要性別（問９）にみると、「相談しても解決しないと思った」（65.4%）、「自分が我慢すればいいことだと思った」（44.4%）は「必要」が多くなっている。一方、「相談するほどのことではないと思った」（30.2%）、「相談する人がいなかった」（25.6%）は「不要」が多くなっている。



障害区分別、介助や支援の必要性別



12 現在の暮らしと今後のことについて

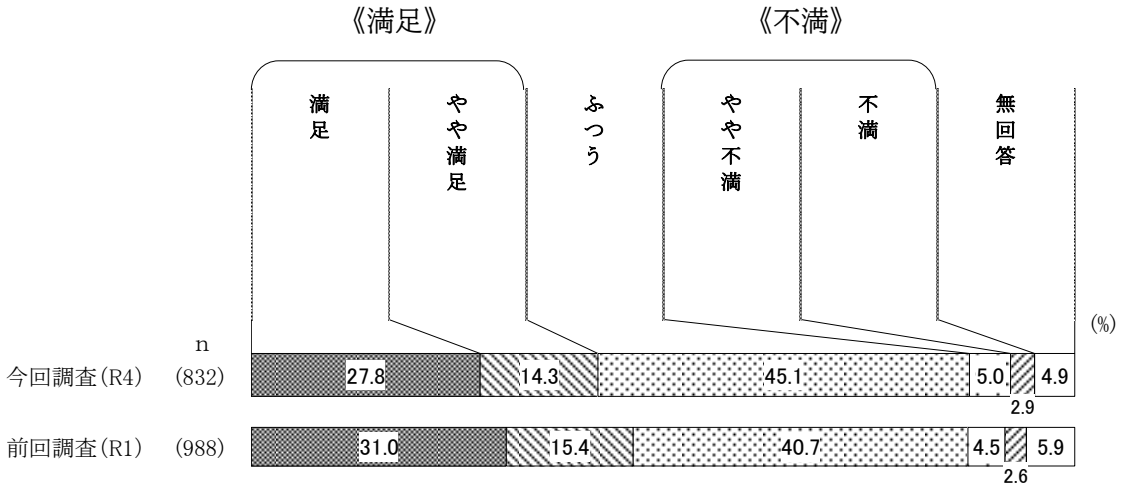
（1）江戸川区での暮らしの満足度

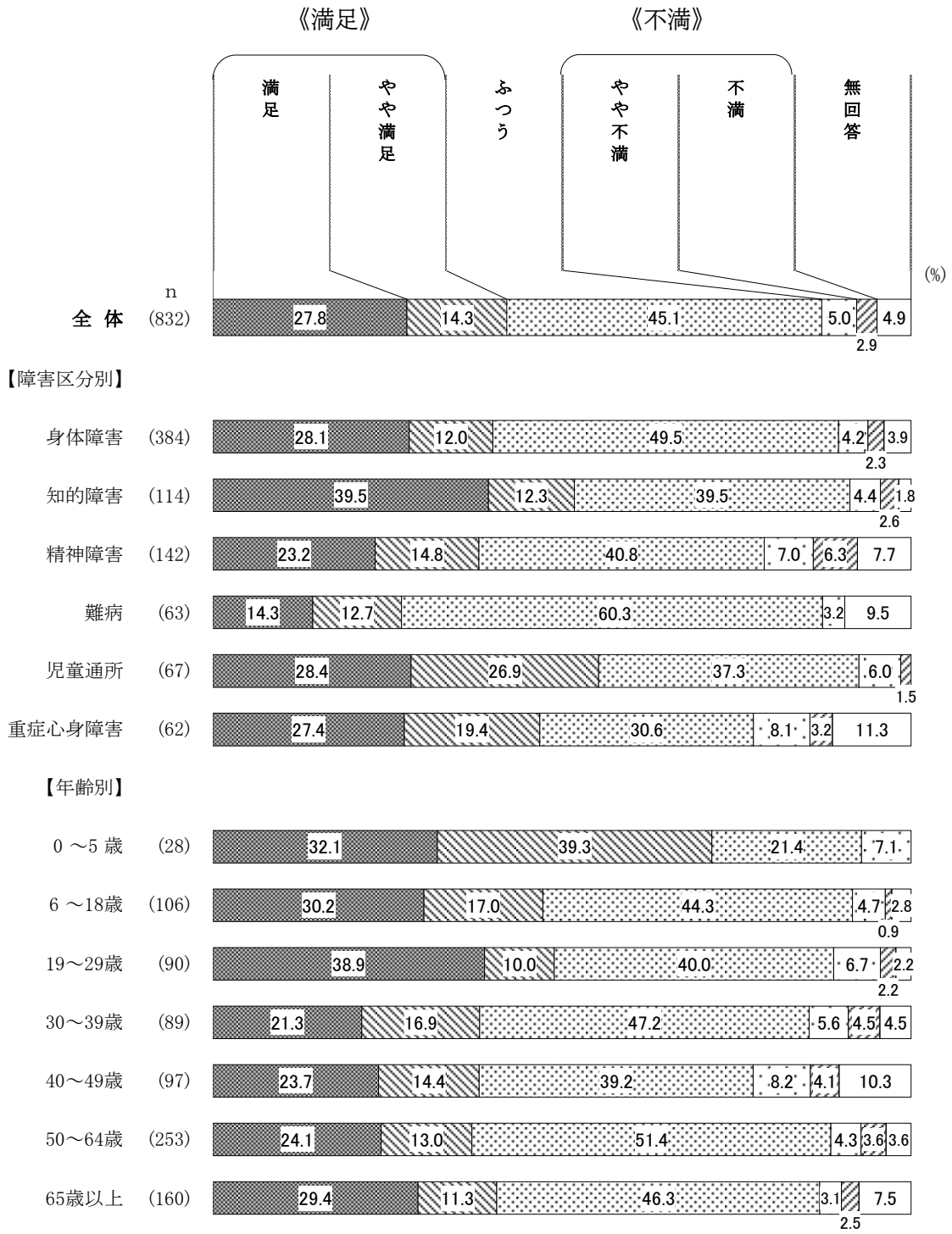
問36 あなたは、江戸川区での暮らしに満足していますか。（１つに○）

江戸川区での暮らしの満足度は、「満足」は27.8%、「やや満足」は14.3%、両者をあわせた《満足》は42.1%となっている。「不満」は2.9%、「やや不満」は5.0%、両者をあわせた《不満》は7.9%と少なく、「ふつう」が45.1%と多くなっている。

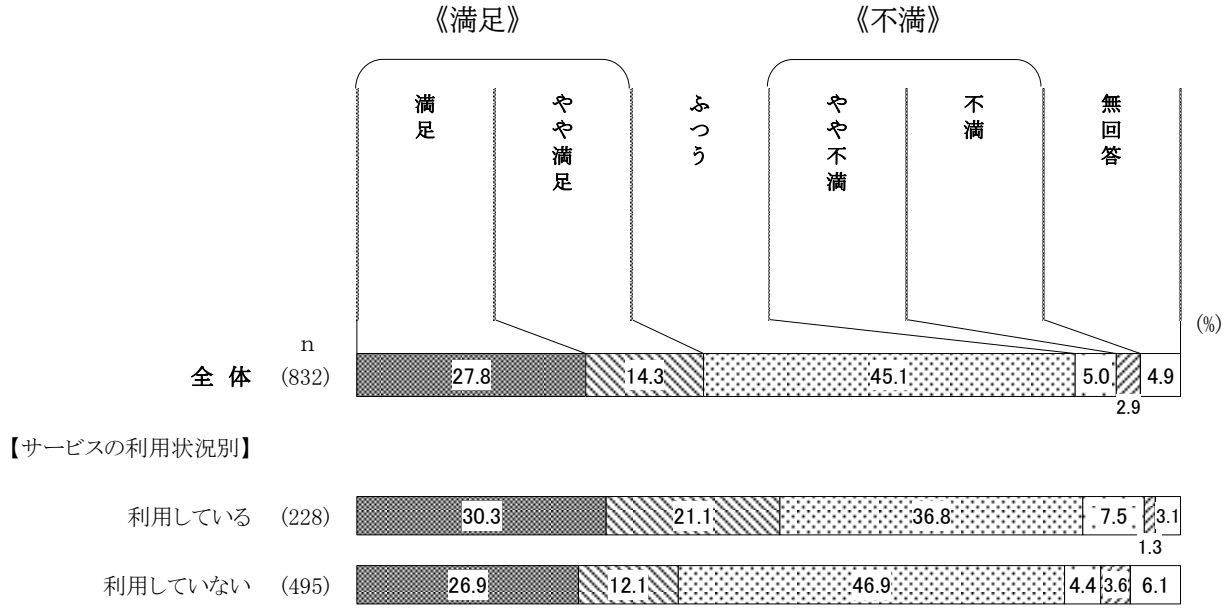
障害区分別にみると、《満足》は児童通所（55.3%）、知的障害（51.8%）が５割台、重症心身障害（46.8%）、身体障害（40.1%）が４割台となっている。《不満》は精神障害と重症心身障害が１割台と他の障害区分よりやや多くなっている。

年齢別にみると、満足・やや満足をあわせた《満足》は、６～29歳の年齢層と65歳以上が４割台となっている。なお、不満・やや不満をあわせた《不満》は30～49歳が１割台と他の年齢よりやや多くなっている。




《満足》
《不満》
満足
やや満足
ふつう
やや不満
不満
無回答
(%)
n
全 体 (832) 27.8 14.3 45.1 5.0 2.9 4.9
【障害区分別】
身体障害 (384) 28.1 12.0 49.5 4.2 2.3 3.9
知的障害 (114) 39.5 12.3 39.5 4.4 2.6 1.8
精神障害 (142) 23.2 14.8 40.8 7.0 6.3 7.7
難病 (63) 14.3 12.7 60.3 3.2 9.5
児童通所 (67) 28.4 26.9 37.3 6.0 1.5
重症心身障害 (62) 27.4 19.4 30.6 8.1 3.2 11.3
【年齢別】
0 ～5 歳 (28) 32.1 39.3 21.4 7.1
6 ～18歳 (106) 30.2 17.0 44.3 4.7 0.9 2.8
19～29歳 (90) 38.9 10.0 40.0 6.7 2.2 2.2
30～39歳 (89) 21.3 16.9 47.2 5.6 4.5 4.5
40～49歳 (97) 23.7 14.4 39.2 8.2 4.1 10.3
50～64歳 (253) 24.1 13.0 51.4 4.3 3.6 3.6
65歳以上 (160) 29.4 11.3 46.3 3.1 2.5 7.5

障害福祉サービスの利用状況別（問30）にみると、満足・やや満足をあわせた《満足》は、「利用している」人が51.4%となっている。一方、「利用していない」人は《満足》が39.0%と少ない。



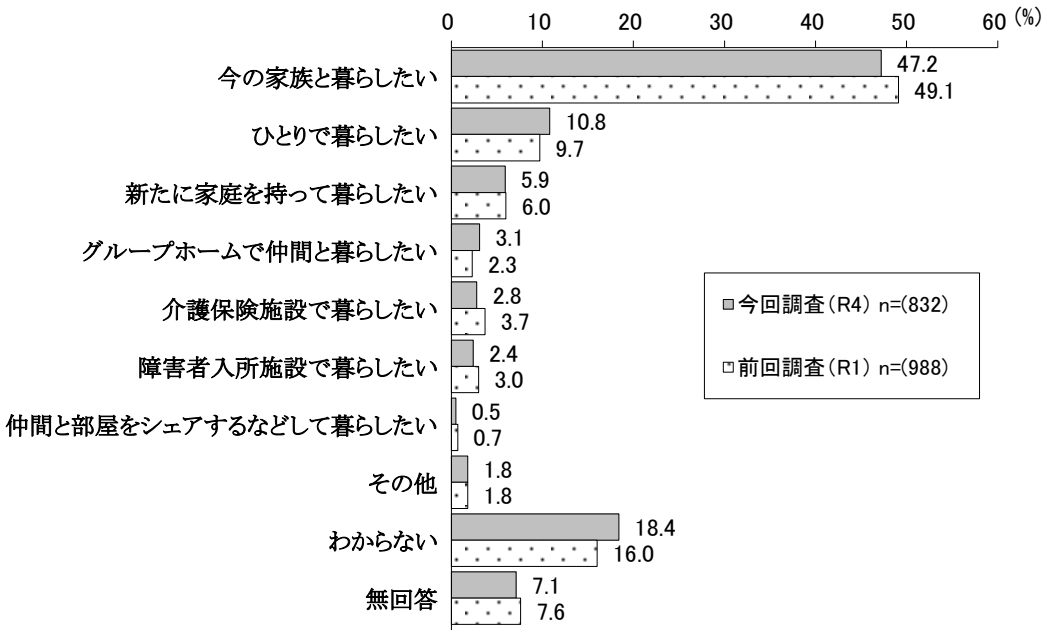
（2）希望する将来の暮らし

問37　あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。（１つに○）

将来の暮らしの希望は、「今の家族と暮らしたい」が47.2％と最も多く、「ひとりで暮らしたい」が10.8％となっている。また、「わからない」も18.4％と多くなっている。

障害区分別にみると「今の家族と暮らしたい」は身体障害（53.6％）、重症心身障害（51.6％）、難病（50.8％）が５割台となっている。精神障害では「ひとりで暮らしたい」が17.6％と他の障害区分より多くなっている。

年齢別にみると、65歳以上では「今の家族と暮らしたい」が52.5％と多くなっている。



(%)

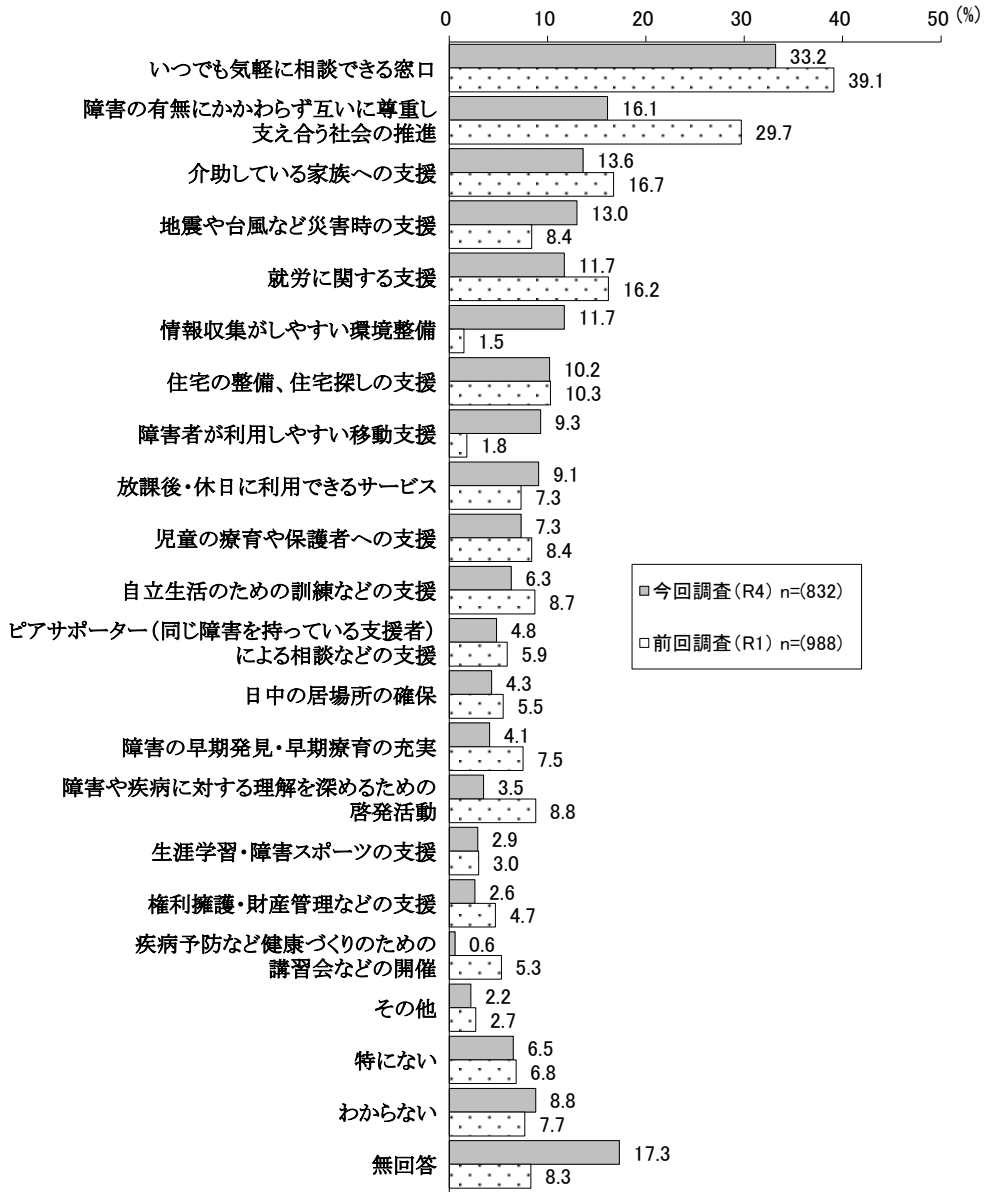
		全体	今の家族と暮らしたい	ひとりで暮らしたい	新たに家庭を持って暮らしたい	グループホームで仲間と暮らしたい	介護保険施設で暮らしたい	障害者入所施設で暮らしたい	仲間と部屋をシェアするなどして暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体		832	393	90	49	26	23	20	4	15	153	59
		100.0	47.2	10.8	5.9	3.1	2.8	2.4	0.5	1.8	18.4	7.1
障害区分別	身体障害	384	206	45	13	7	16	4	3	5	65	20
		100.0	53.6	11.7	3.4	1.8	4.2	1.0	0.8	1.3	16.9	5.2
	知的障害	114	45	11	9	10	1	6	−	3	24	5
		100.0	39.5	9.6	7.9	8.8	0.9	5.3	−	2.6	21.1	4.4
	精神障害	142	48	25	12	−	4	−	−	4	32	17
		100.0	33.8	17.6	8.5	−	2.8	−	−	2.8	22.5	12.0
	難病	63	32	5	11	1	1	1	−	−	4	8
		100.0	50.8	7.9	17.5	1.6	1.6	1.6	−	−	6.3	12.7
	児童通所	67	30	4	4	2	1	−	1	1	22	2
		100.0	44.8	6.0	6.0	3.0	1.5	−	1.5	1.5	32.8	3.0
	重症心身障害	62	32	−	−	6	−	9	−	2	6	7
		100.0	51.6	−	−	9.7	−	14.5	−	3.2	9.7	11.3
年齢別	0～5歳	28	8	−	6	−	−	1	−	1	11	1
		100.0	28.6	−	21.4	−	−	3.6	−	3.6	39.3	3.6
	6～18歳	106	48	7	7	6	1	4	1	1	27	4
		100.0	45.3	6.6	6.6	5.7	0.9	3.8	0.9	0.9	25.5	3.8
	19～29歳	90	41	12	14	8	−	1	−	3	9	2
		100.0	45.6	13.3	15.6	8.9	−	1.1	−	3.3	10.0	2.2
	30～39歳	89	40	5	12	4	1	6	1	2	13	5
		100.0	44.9	5.6	13.5	4.5	1.1	6.7	1.1	2.2	14.6	5.6
	40～49歳	97	45	10	4	2	1	3	2	1	19	10
		100.0	46.4	10.3	4.1	2.1	1.0	3.1	2.1	1.0	19.6	10.3
	50～64歳	253	124	30	6	3	5	3	−	6	53	23
		100.0	49.0	11.9	2.4	1.2	2.0	1.2	−	2.4	20.9	9.1
	65歳以上	160	84	24	−	2	14	2	−	1	20	13
		100.0	52.5	15.0	−	1.3	8.8	1.3	−	0.6	12.5	8.1

（3）充実すべき障害者福祉施策

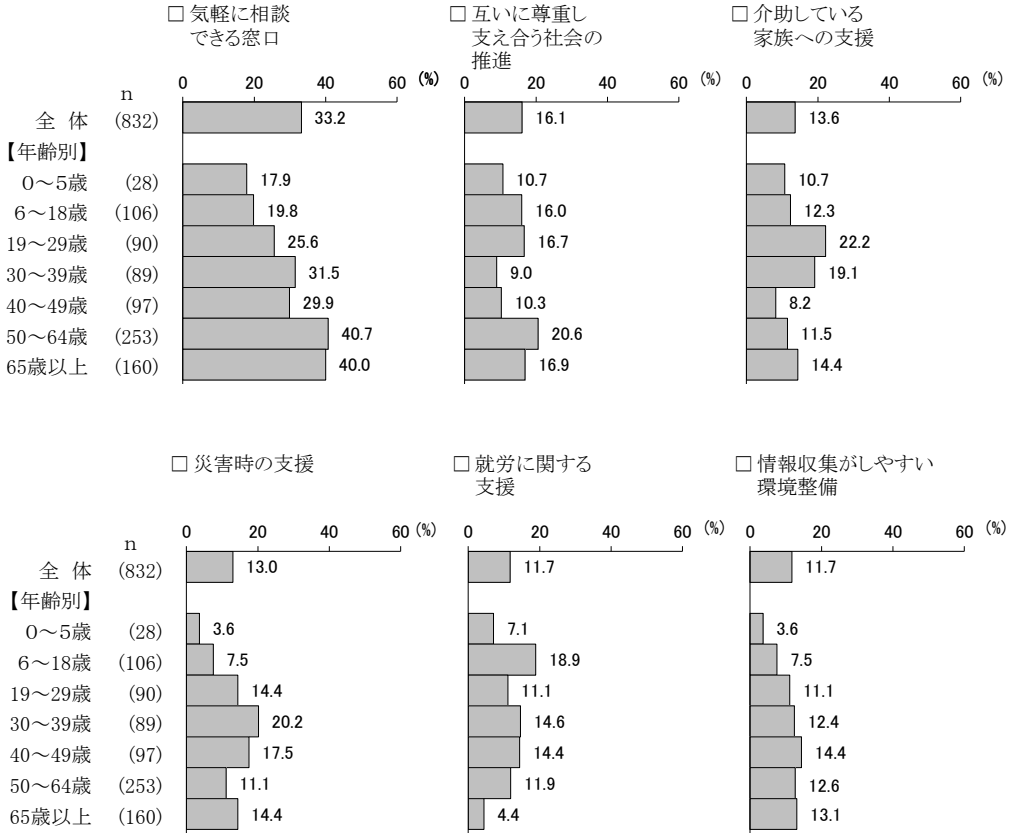
問38　今後、区の障害者（児）福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。（主にあてはまるもの３つまでに○）

今後の区の障害者（児）福祉で充実すべきことは「いつでも気軽に相談できる窓口」が33.2%と最も多く、「障害の有無にかかわらず互いに尊重し支え合う社会の推進」（16.1%）、「介助している家族への支援（緊急時の対応など）」（13.6%）、「地震や台風など災害時の支援」（13.0%）、「就労に関する支援」「情報収集がしやすい環境整備」（ともに11.7%）、「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」（10.2%）が１割台で続いている。

障害区分別に上位５位表をみると、「いつでも気軽に相談できる窓口」はすべての障害区分であげられ、児童通所、重症心身障害以外では１位となっている。「障害の有無にかかわらず互いに尊重し支え合う社会の推進」は重症心身障害を除く各区分で、「介助している家族への支援（緊急時の対応など）」は精神障害、児童通所を除く各区分で上位にあげられている。



年齢別（上位6項目）



全体、障害区分別（上位5位表）

（%）

	第１位	第２位	第３位	第４位	第５位
全　体 n=832	気軽に相談できる窓口 33.2	支え合う社会の推進 16.1	家族への支援 13.6	災害時の支援 13.0	就労支援 情報収集 11.7
身体障害 n=384	気軽に相談できる窓口 39.3	支え合う社会の推進 16.7	情報収集 14.6	災害時の支援 14.1	家族への支援 12.8
知的障害 n=114	気軽に相談できる窓口 28.9	就労支援 19.3	支え合う社会の推進 18.4	放課後・休日サービス 18.4	家族への支援 15.8
精神障害 n=142	気軽に相談できる窓口 30.3	支え合う社会の推進 16.2	就労支援 14.8	住宅支援 14.1	情報収集 12.0
難病 n=63	気軽に相談できる窓口 38.1	家族への支援 17.5	情報収集 17.5	支え合う社会の推進 14.3	災害時の支援 9.5
児童通所 n=67	児童療育・保護者支援 47.8	放課後・休日のサービス 28.4	気軽に相談できる窓口 20.9	早期発見・早期療育 16.4	支え合う社会の推進 14.9
重症心身障害 n=62	家族への支援 48.4	災害時の支援 32.3	放課後・休日のサービス 29.0	移動支援 19.4	気軽に相談できる窓口 17.7

13 意見・要望

問39 区の障害者（児）福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

区の障害者（児）福祉への意見・要望を自由に記述してもらったところ、273件の貴重な意見をいただいた。１人で２つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となっている。

なお、主なものをテーマ別に分類、要約して掲載している。

◆制度、助成、援助（40件）

・日常生活用具の耐用年数をもう少し短くしてほしい。

・自動車改造費用の助成において、手動運転装置の補助はあるが、乗降や車椅子を積む装置にもある程度の補助があるとよい。

・福祉機器について、地域によって補助される物が違う場合があるので是正を望みたい。

・障害者の手当について、物価の上昇に伴い増額してほしい。

・通院で使用するためタクシー券が少なくなり困っている。必要な人には前回の金額同様のタクシー券が申請できるようにしていただきたい。

・手当や障害福祉サービスにおける利用の所得制限は不公平である。所得制限を無くしてほしい。

・障害者支援をうけているが、今後、介護保険への移行が必要なのか、このまま障害者支援を受けられるのか不安がある。介護保険サービスが優先になるが、不都合なことも生じるため、障害福祉サービスの方でも支援してほしい。

・ショートステイの予約人数を増やしてほしい。

・居宅介護を見守りでも利用可能にしてほしい。

・入浴サービスは人手不足なのか時間、曜日が変わる事が多々あるため、今後、改善される事を望む。

◆施設・環境整備（36件）

・知的障害者、肢体不自由者、医療的ケアが必要な人が同じ施設に通所することは無理があるので、別々の通所施設をつくってほしい。

・家族と離れず住み慣れた地域で暮らせるよう選択の幅を広げてほしい。親とともに入居できる施設があれば、親の老後、介護しながらの生活の負担が減る。

・親の介護負担は年々深刻化している。住み慣れた江戸川区で暮らせるために重症心身障害者も入居可能なグループホーム、入所施設、短期入所や日中一時支援などの施設の増設、設置を検討してほしい。

・他区では、作業所に通えなくなった人が自立できるよう、買物や家事などを教えてくれる場所があるようなので、江戸川区にもそうした場所があるとよい。

・緊急時に障害者支援ハウスを利用したいが、空きがなく困っている。

・レスパイト入院ができる施設の開設が難しいのであれば、病院や老人ホーム内での利用を考えてほしい。
・重層的支援体制整備事業を利用して、医療、介護、福祉の壁をなくした、重度障害者も安心して暮らせる施設をつくってほしい。
・学校卒業後の預け先が少なく、とても不便。必要なときに予約が取れず、重度知的障害者を受け入れてもらえない。もう少し預け先があることを希望する。
・学校卒業後の通所施設が毎年すぐ満員になるため、とても不安。増設してほしい。
・学校卒業後も安全な場所で過ごせて、親も安心して働きに出られるような仕組みを整えてもらいたい。
・施設の一つとして空き教室なども活用してほしい。

◆情報提供・相談等（28件）

・サービスや手続きの情報がどこを見たらよいのかわかりづらい。誰にとってもわかりやすくシンプルな障害福祉サービス内容の一覧や、申請方法や手順を図表を用いるなどしてマニュアル化してほしい。
・必要な手続きやそのタイミングなどの情報がわかりにくい。更新が必要な時などは、区からの知らせが届くとよい。
・新しくできる区役所では手続等をする場所を一括してほしい。
・聴覚障害向けなど障害種別ごとの特集ページがあると嬉しい。
・情報発信にＳＮＳを活用してほしい。

◆感謝、満足（24件）

・窓口対応でも電話でも、いつも丁寧な対応に感謝している。障害のある子どもを育てる上で心強い存在である。
・障害児を育てるにあたって、これまで関わってきた周囲の人、スタッフ、障害者福祉課の職員から温かい支援がもらえたことにとても感謝している。
・発達相談支援センターにて、良質な療育を無償で受けられる状況に大変感謝している。

◆就労に関すること（16件）

・障害者雇用の給料だと経済的に自立できないため、障害者であることを隠して通常の雇用形態で就労しているが、周囲の理解を得られないことも多い。
・障害者雇用の条件を週20時間でなく、もっと短時間にしてほしい。短時間ならもっと働ける人もいると思う。
・身体障害は職場が遠いと通勤が困難なので、特例子会社や就労継続支援Ａ型など働ける場所をもっと増やしてほしい。
・職場、定着支援事業所などとの様々な関わりを、上手にマネジメントしてくれるサポーターがいると助かる。

・イベントやお祭り等、単発で障害者がスタッフとして働けるとよい。

◆区役所・関連機関・医療機関等の職員の対応（15件）

・窓口で幼稚園、小学校など進路を決める相談をした際に意見を聞いてもらえず、望まない方向へ持っていこうとされた。障害に対する理解や知識を深めてもらいたい。

・問い合わせ等の対応は、職員によって違いを感じる事もある一方で、とても画一的な時もあり、相談するうえで難しさを感じる。個別の事情を丁寧に聞き取っていただける様お願いしたい。

・区の担当者と利用者のやりとりを担当部署内で情報共有して、認識の相違がないようにしてほしい。

◆障害児のサービス・支援（14件）

・放課後等デイサービス（療育）の利用時間を延長してほしい。

・障害に合ったサポートを行う体制の整備や共存理解の浸透により、できるだけ普通学校や普通学級へ通う機会があるとよい。

・未就学児の福祉サービスは充実しているが、就学後の相談先やサービスが少ない。

・障害の有無に関わらず、放課後を安心して過ごせる場所の提供を区が先頭に立って、早急に支援してほしい。

・児童通所施設の増設。

◆理解促進・相互理解（11件）

・安心して育っていけるよう、もっと障害に理解を持ってほしい。

・発達障害など、目に見えにくい障害は周囲の人から理解されにくい。

・障害があっても生き生きと人生を過ごせる、社会に参画できる世の中づくりをお願いしたい。

・聴覚障害があるが、公共機関や病院において、マスクをすることで会話が更に困難になっている。筆談にも対応できるような環境づくりの促進を要望する。

◆更新、手続き、認定（10件）

・申請書類文章の簡易化及び手続きの簡素化。

・障害に関する手続きが区役所でしかできないことは大変不便であり、各事務所で手続きができるとありがたい。

◆外出（移動、交通、道路、バリアフリーなど）（９件）

・歩道と車道の段差や傾きがあるので、段差の解消など車椅子を利用する者なども移動しやすい街づくりを要望したい。

・区役所の車椅子駐車場の数が少ないので、新庁舎には増やしてほしい。

・自転車のルールをもっと明確にし、視覚に障害があっても、安心して歩道を歩けるようにしてほしい。

◆親亡き後（８件）

・親亡き後、子どもの将来が心配なので、家族や本人が気軽に相談できる場所や頼れる人がいると安心できる。

・親亡き後の生活する場にも不安がある。安心して将来生活する場ができることを希望する。

・知的障害の子どもの親がいなくなってからの暮らしが大変心配である。子どもにあった支援があったらと思うが、今のところどうしたらよいのかわからない。

◆地域活動・教室（７件）

・障害児・者がパラスポーツを体験・活動できる場をつくってほしい。

・芸術活動などの活動や取組みにチャレンジして、本人たちが楽しめる先を広げられるとよい。

・障害者の余暇活動ができる場所の確保をしてほしい。

◆災害時の対応（７件）

・災害時の避難所について、トイレなどの設備が整っていない状況では避難できない。

・外にいて災害などが起きたときなどに、障害者が迷わず助けを求められるような場（こども110番のようなもの）があってほしい。

◆今回のアンケート（７件）

・オンライン対応にしてほしい。アンケートの結果公表と、それがどう生かされるのか公表してほしい。

・アンケートを今後の活動や政策に役立ててほしい。

◆保育園・幼稚園・学校・すくすくスクール（５件）

・学校の支援やサポートの向上と利用できることを増やしてほしい。

・すくすくスクール（学童）を利用するためには、保護者の付き添いを要求され、負担である。

・マスクをつけることができず、入園を延期することになった。練習してもできない子もいるので柔軟に対応してほしい。

◆保護者や介護者の支援（５件）

・障害児の親の会など情報交換の場や勉強会の場がほしい。

◆その他（31件）

・障害があるとわからず長年苦しんできた。私のように苦しむ前に、早期発見・早期治療に力を入れてほしい。

・コロナ禍で障害者の生活の質が落ちたことに、根本的な社会制度の不十分さを感じる。重度の障害がある人やその家族が地域の中で安心できる支援を考えてほしい。

・地域活動支援センター等で開催される相談会の実施日が、仕事で参加できない。複数の曜日での開催を検討してほしい。

・幼稚園や保育園が人手不足であり、受け入れてもらえず療育機関の利用ができない。事業所で働く人の手当を充実し、働き手が増えるよう区で働きかけてほしい。

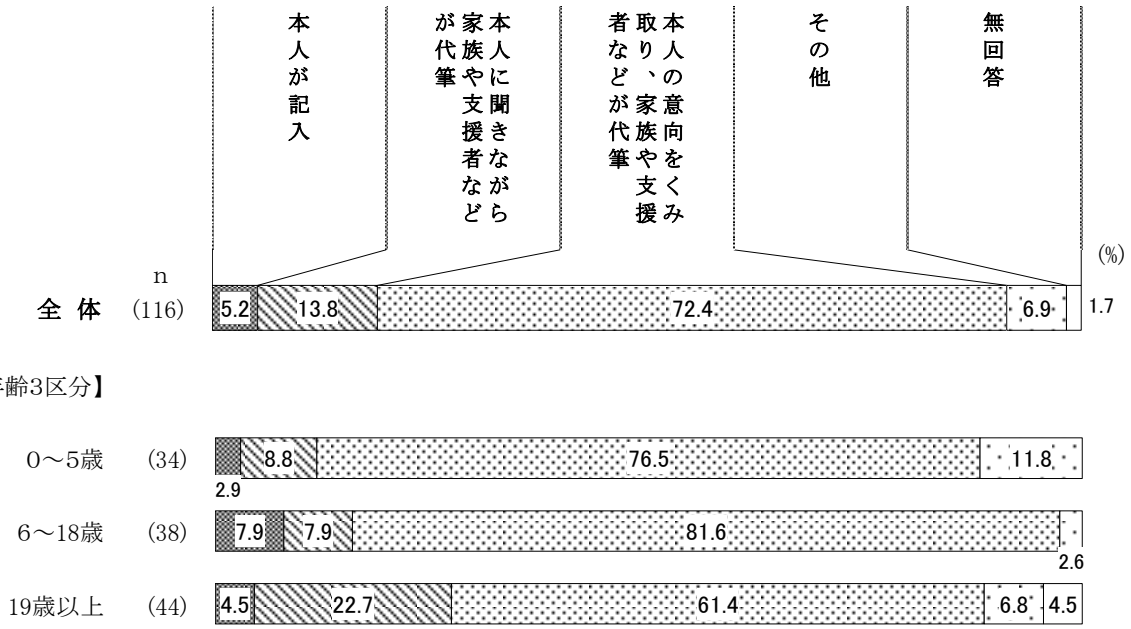
・支援員の質の向上のための資格取得など指導してほしい。

Ⅱ 医療的ケア者・児調査

1 回答者について

（1）回答者の属性

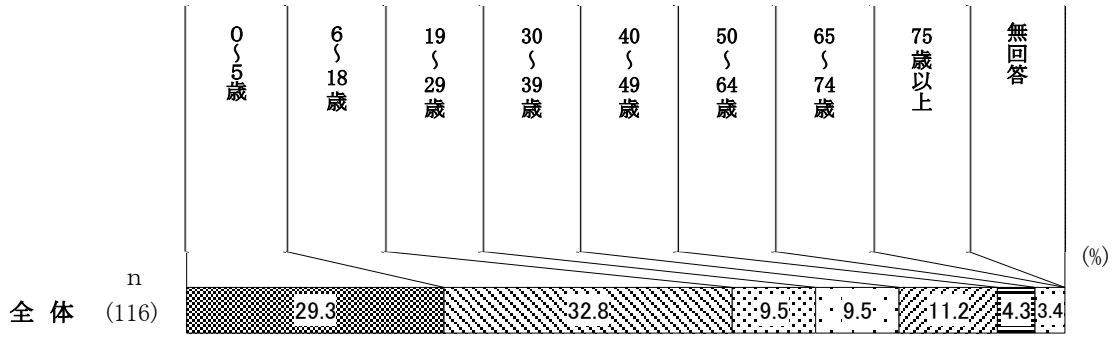
問１ 回答されている方はどなたですか。（１つに○）



2 本人の属性について

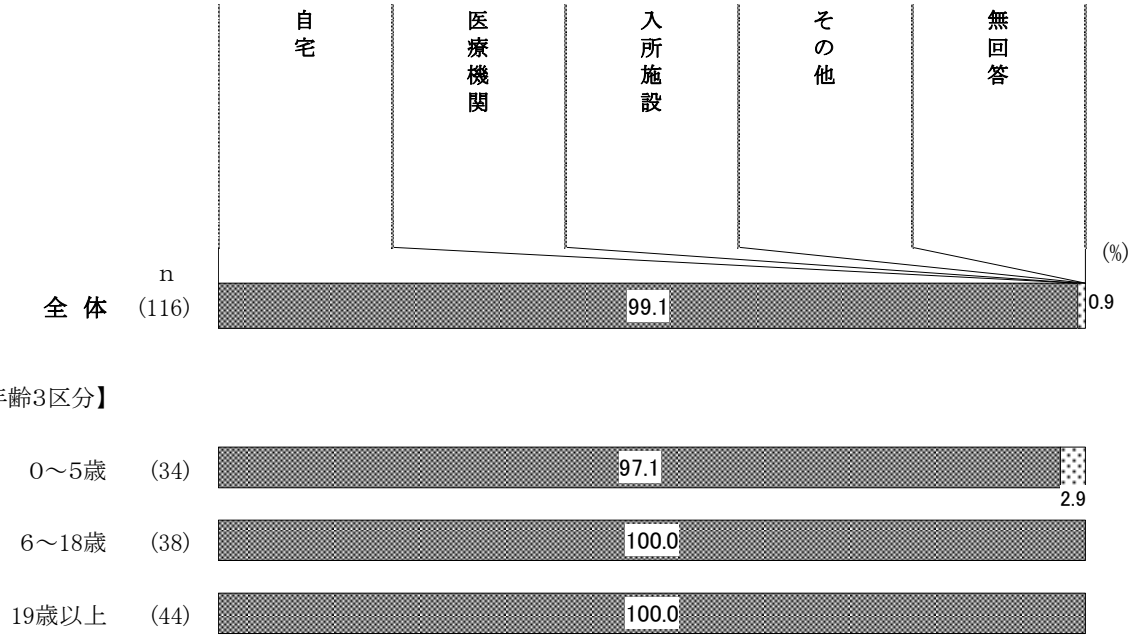
（1）年齢

問２ あなたの年齢をお答えください。（１つに○）



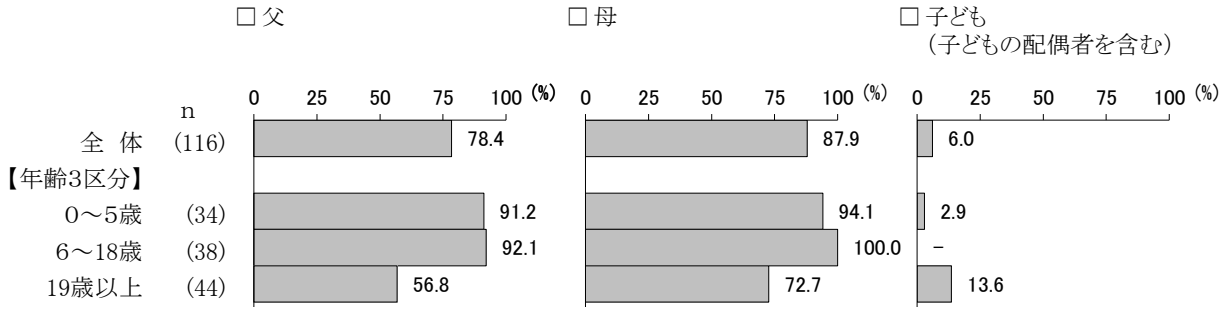
（2）現在の生活場所

問３　あなたは、現在どこで生活していますか。（１つに○）



（3）同居者

問４　あなたは、どなたとお住まいですか。同居しているご家族に○をつけてください。
（医療的ケアが必要な本人は除く）（あてはまるものすべてに○）



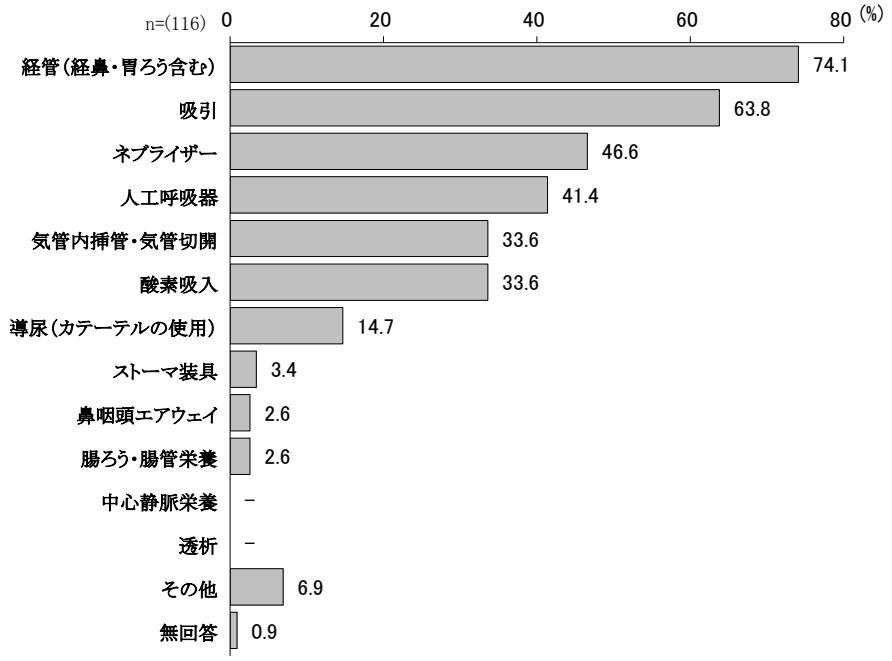
3　本人の状況について

（1）必要とする医療的ケア

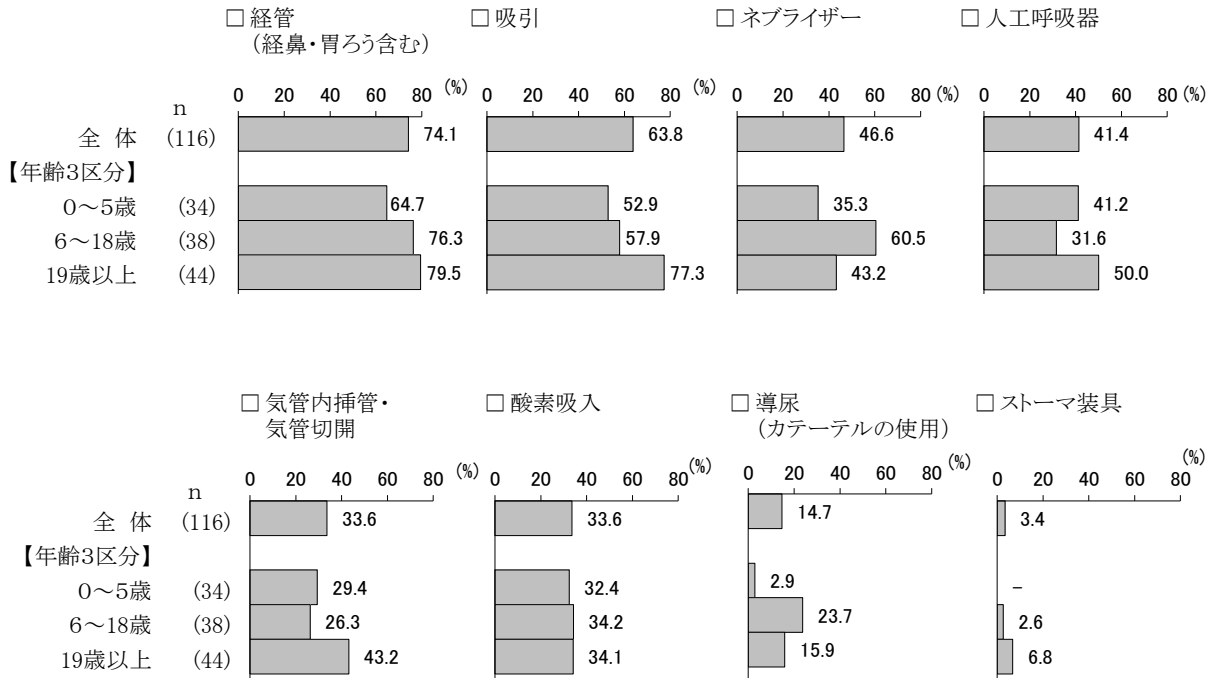
問５　あなたが必要とする医療的ケアは何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

必要とする医療的ケアは、「経管（経鼻・胃ろう含む）」が最も多く74.1％となっている。

年齢３区分別にみると、19歳以上は「吸引」（77.3％）、「人工呼吸器」（50.0％）でそれぞれ多く、「ネブライザー」（60.5％）、「導尿（カテーテルの使用）」（23.7％）では６～18歳がそれぞれ多くなっている。



年齢3区分別（上位8項目）

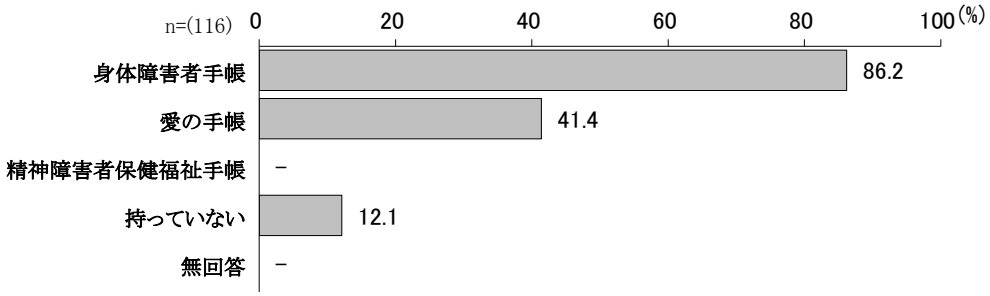


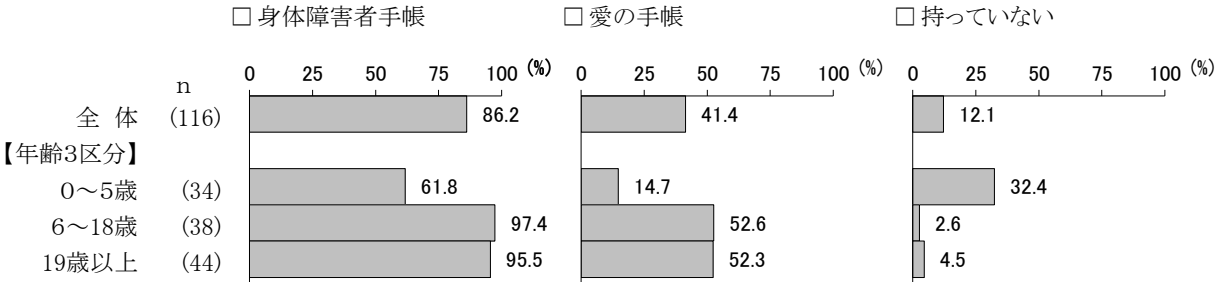
（２）障害者手帳の有無

問６　あなたは、障害者手帳をお持ちですか。（該当するものに○をし、等級を記載）

障害者手帳の有無は、「身体障害者手帳を持っている」が最も多く86.2%となっている。

年齢３区分別にみると、「身体障害者手帳を持っている」、「愛の手帳を持っている」は６～18歳（97.4%、52.6%）、19歳以上（95.5%、52.3%）がともに９割台、５割台と多くなっている。なお、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」は該当者がいないため触れていない。

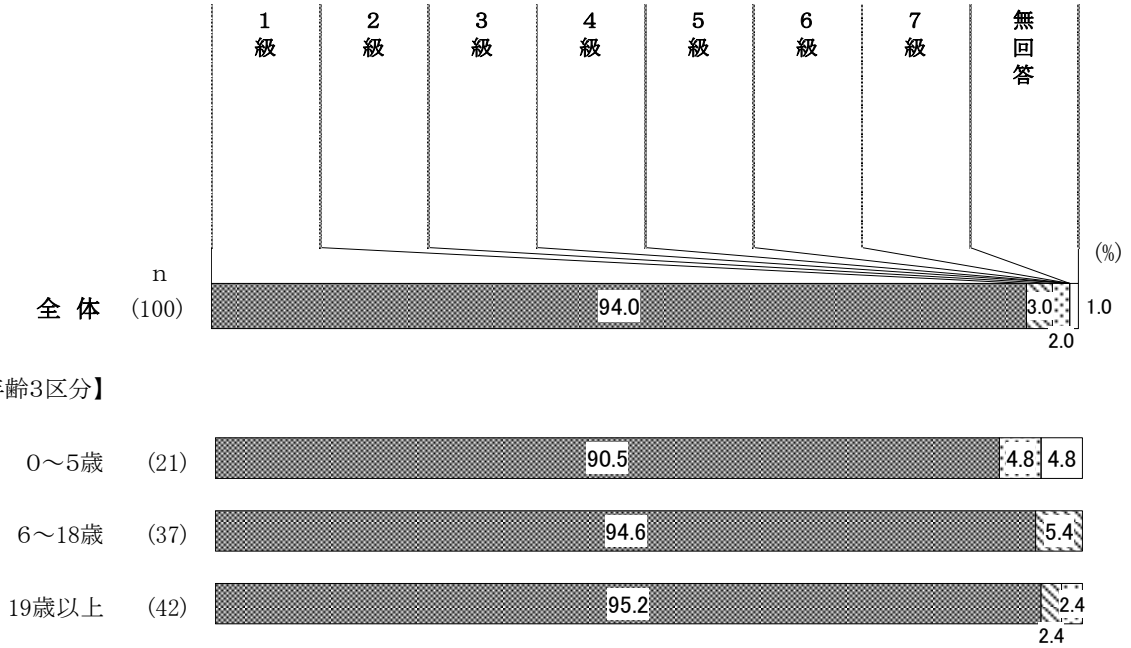




身体障害手帳の等級

身体障害者手帳の等級は、「１級」が最も多く94.0%となっている。

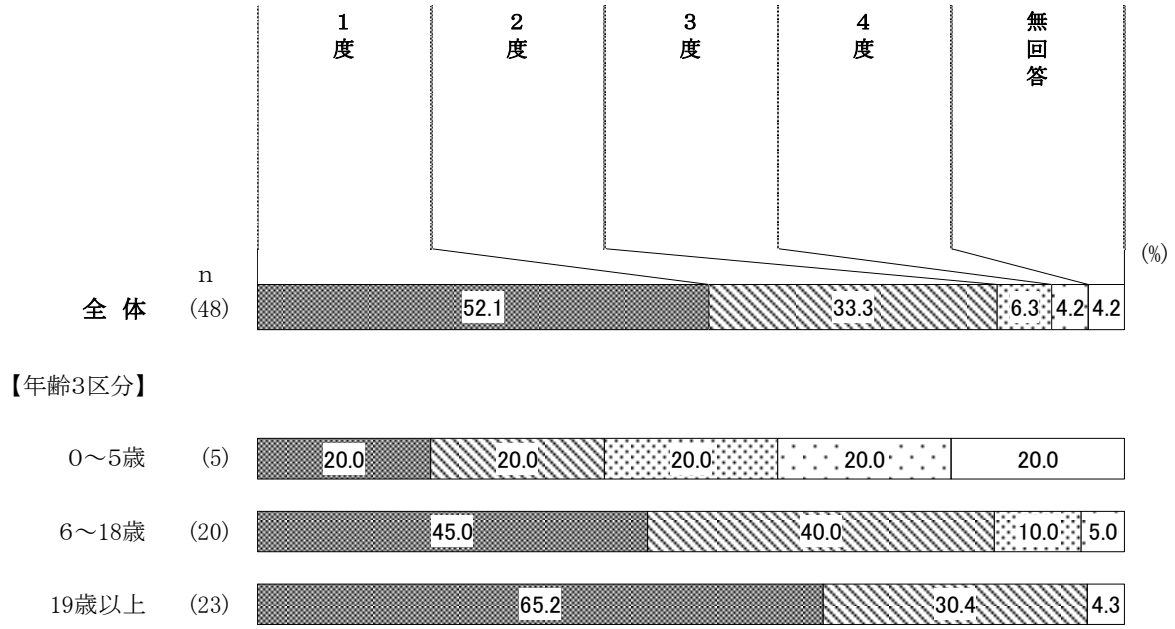
年齢３区分別にみると、「１級」は０～５歳（90.5%）、６～18歳（94.6%）、19歳以上（95.2%）がそれぞれ９割台と最も多くなっている。



愛の手帳の等級

愛の手帳の等級は、「１度」が最も多く52.1%となっている。

年齢３区分別にみると、「１度」は０～５歳（20.0%）、６～18歳（45.0%）、19歳以上（65.2%）と年齢が上がるにつれて増加する多くなっている。

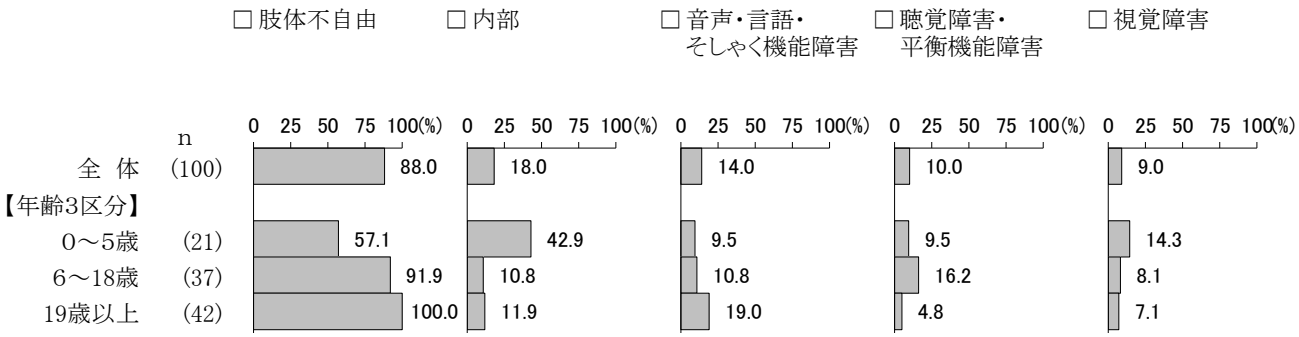


（３）障害の種類（身体）

問６で「身体障害者手帳」と回答した方のみ。
問７　障害の種類はどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

障害の種類（身体）は、「肢体不自由」が最も多く88.0％となっている。

年齢３区分別にみると、「肢体不自由」は19歳以上が100.0％と最も多く、「内部」は０～５歳が42.9％と最も多くなっている。

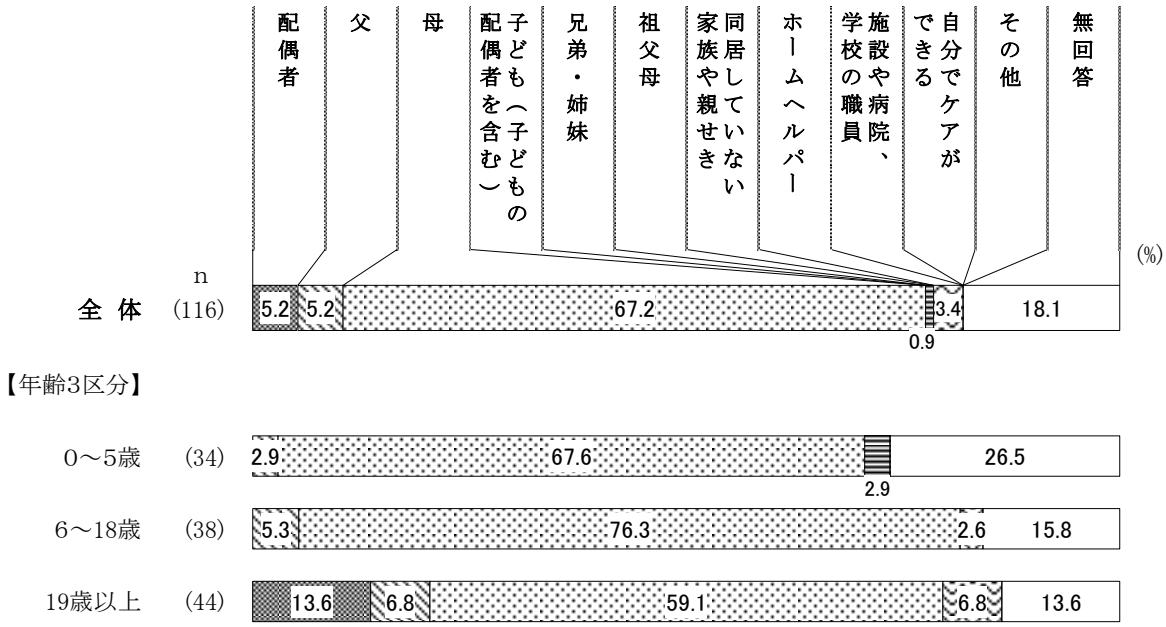


（４）主な介護者

問８　介護や支援をしている方は、主にどなたですか。（主なもの１つに○）

主な介護者は、「母」が最も多く67.2％となっている。

年齢３区分別にみると、「母」は年齢３区分のすべて６割から７割と最も多くなっている。

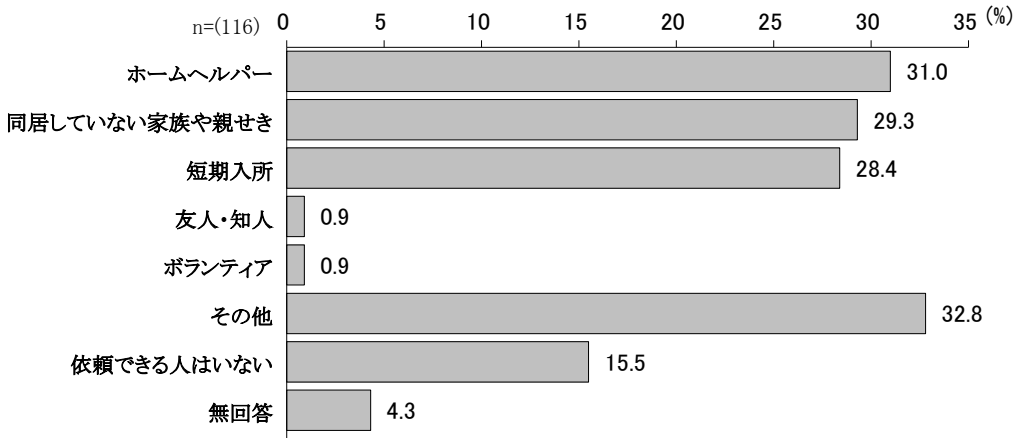


（５）家族以外の介護者の有無

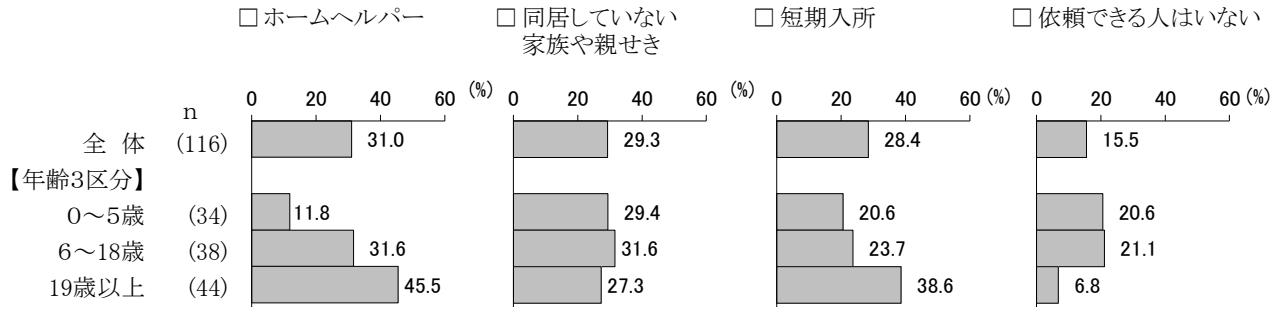
問９　同居する家族以外の方に、介護や支援を依頼できる人や場所はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

家族以外の介護者の有無は、「ホームヘルパー」が31.0％と多くなっている。

年齢３区分別にみると、「ホームヘルパー」は０～５歳（11.8％）、次いで６～18歳（31.6％）、19歳以上（45.5％）と年齢が上がるにつれて多くなっている。



年齢3区分別
（上位3項目＋「介助・支援を依頼できる人はいない」）

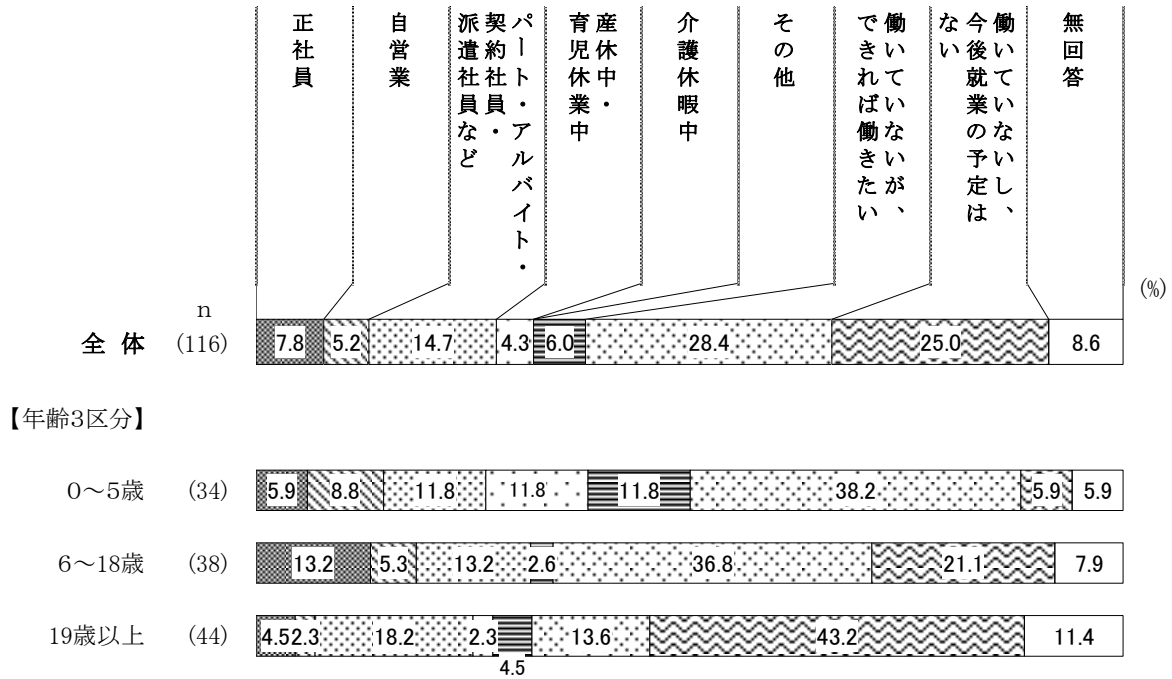


（６）介護者の就業状況

問10　主な介護者の現在の就業状況についてお聞きします。（１つに○）

介護者の就業状況は、「働いていないが、できれば働きたい」が最も多く28.4％となっている。

年齢３区分別にみると、「働いていないし、今度就業の予定はない」は19歳以上が43.2％と最も多く、「働いていないが、できれば働きたい」は０～５歳が38.2％と多くなっている。

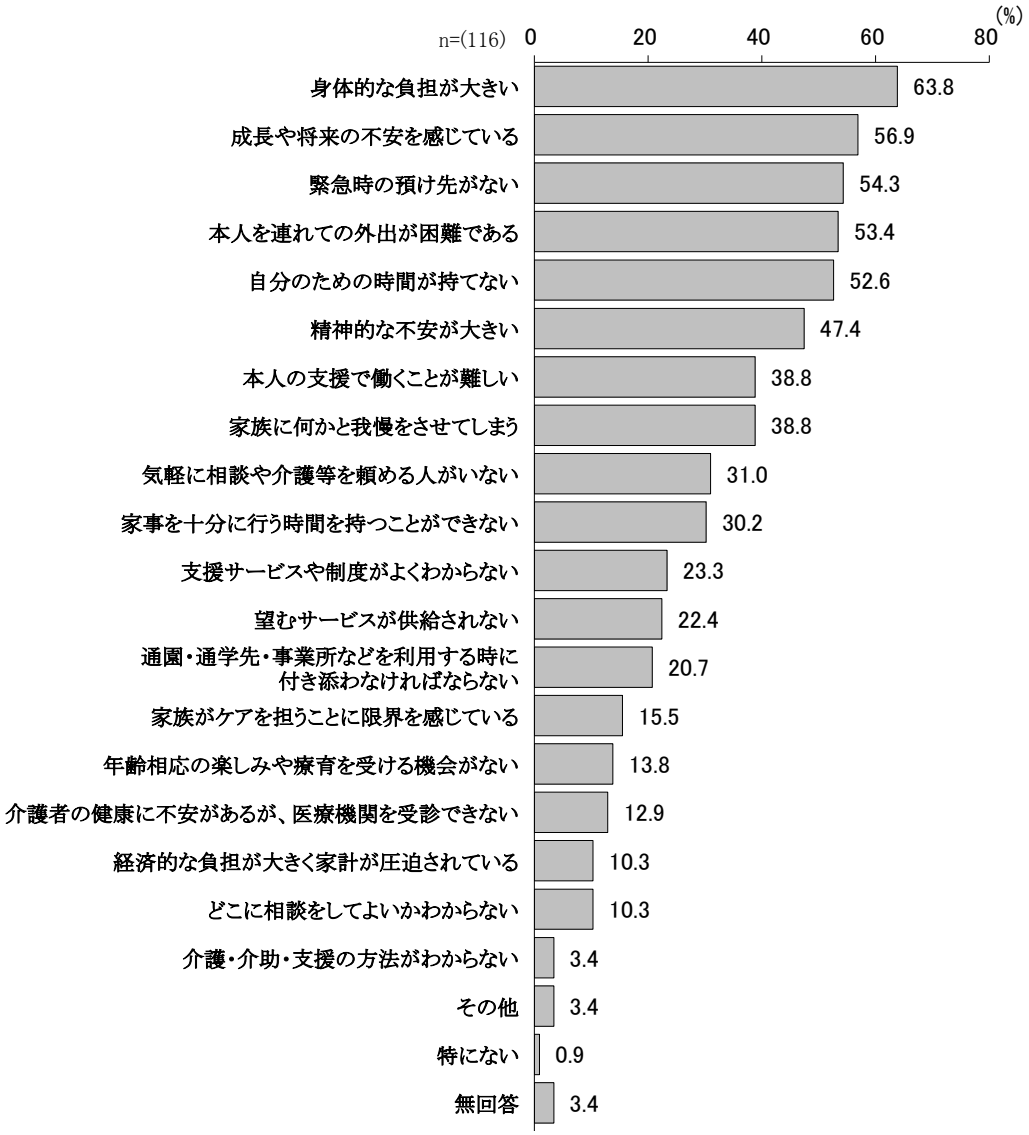


（7）介護の悩みや不安

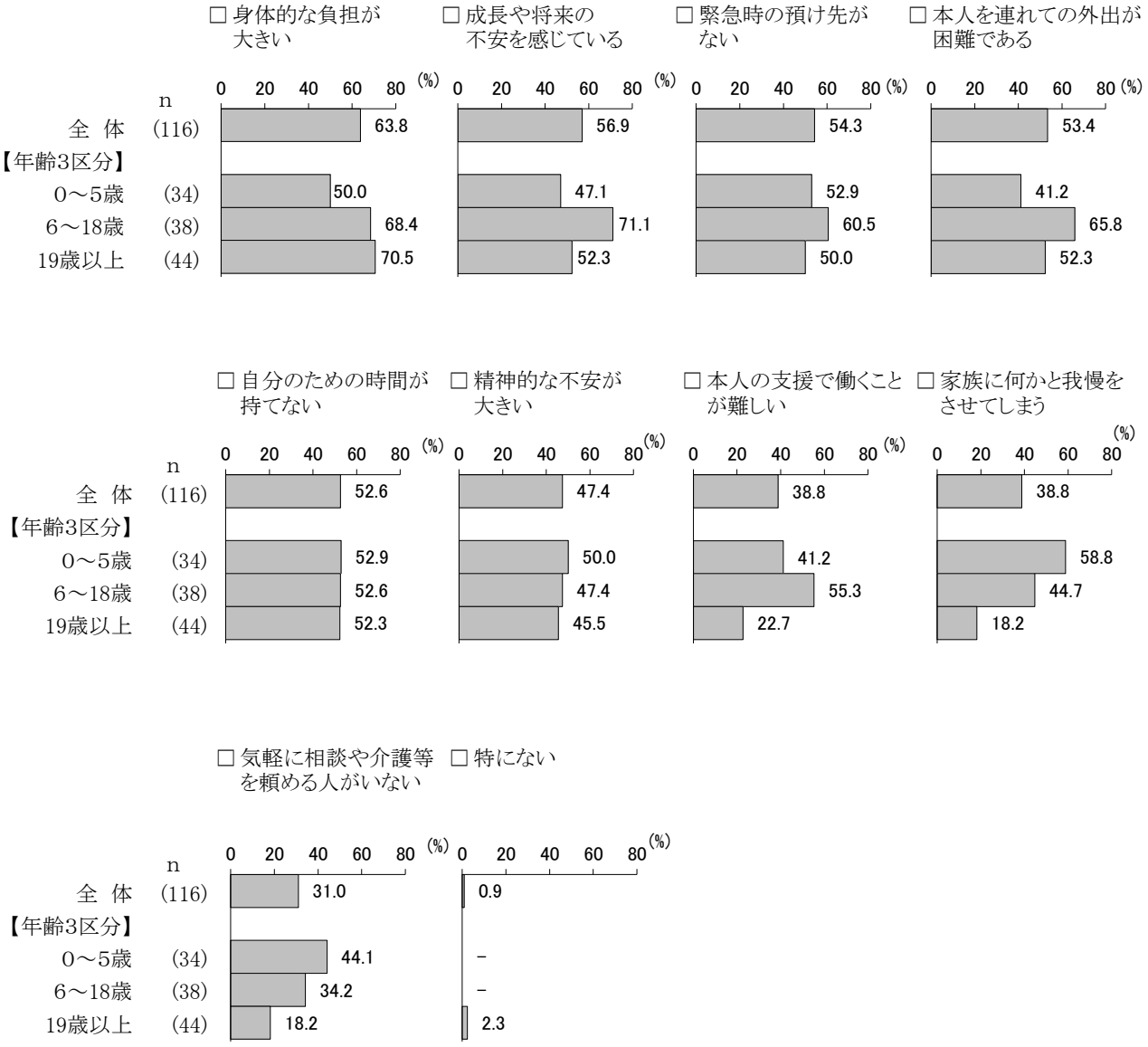
問11　介護にあたり、どのような悩みや不安がありますか。（あてはまるものすべてに○）

介護の悩みや不安は、「睡眠不足や疲労など、身体的な負担が大きい」が最も多く63.8％となっている。

年齢３区分別にみると、「成長や将来の不安を感じている」は６～18歳が71.1％と最も多く、「睡眠不足や疲労など、身体的な負担が大きい」は19歳以上が70.5％と多くなっている。また「家族（子、兄弟・姉妹など）に何かと我慢させてしまう」、「何かあった時に、気軽に相談や介護などを頼める人がいない」は年齢が上がるにつれて、少なくなっている。



年齢3区分別（上位9項目+「特にない」）



（８）不安や悩みの内容

問12　どのような不安や悩みがあるか具体的にお書きください。

不安や悩みの具体的内容を自由に記述してもらったところ、114件の貴重な意見をいただいた。

１人で２つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となっている。

なお、主なものをテーマ別に分類、要約して掲載している。

◆介護負担・介護疲れ

・学校の預け先がなく、介護者の負担が増大している。
・定期的な啖吸引が必要のため、十分な睡眠がとれない。
・兄弟に介護の手伝いをさせたくはないが、どうしても手が足りなくて手伝ってもらっている。
・精神的・肉体的苦痛。
・この生活がいつまで続くのか、自分自身の人生は何も無かったことになってしまうと感じている。
・ヘルパーが見つからず、仕事に行くことができないため、収入が激減し今後の生活が不安である。

◆親亡き後の生活

・親の亡き後に遠方の施設に入所させられ、そこで一人で一生を終えるのかと思うと心が痛む。
・介護する親の高齢化で、いつまで介護できるのか、また、介護できなくなった時どうすればいいのか不安だ。
・将来、親亡き後、入所施設の不足、子どもはどのように生活しているのか見通しが立たず不安である。

◆施設やサービス

・コロナ禍による人数制限や看護師不足のため、利用制限（現在は週３回）がある。他の事業所と併用できない超重症児にとっては不公平である。
・医療型入所施設を希望しているが、空きの連絡が全くない。呼吸器をつけているので、入所は絶望的なのか。
・訪問看護やヘルパー事業所などは時間に制限が多く利用しにくい。急な事があった時に動けない。看護ステーションは全日入ってもらえないと利用できない。

◆預け先

・医療的ケアがあるため通所施設や短期入所などを探しても見つからない。緊急時でも区や都の医療施設等が利用できない。
・保育園に入園ができず復職できない。
・親が病気の際、近くに代わりの介護者がいない。短期入所は、時間や手間がかかるため緊急時に困る。
・レスパイト先が少なく期間も短いので、仕事などの時に預けられない。24時間呼吸器装着の小児のため、預け場所が区にない。

◆外出時の不便

・初めて行く場所の情報（バリアフリー化されているか等）の予習だけで疲れる。在宅が一番だと思うが、そうすると引きこもってしまう。
・車椅子入店を断る店舗が多く、外食しづらい。
・自家用車がなく、通院等で介護タクシーを利用したいが毎回予約が取れない。また、一般のタクシーの場合は、折り畳めるバギーが必要だが、車イスは1台だけと言われる。
・外出はともかく、旅行には行った事がない。旅行先では終日、加湿器付き呼吸器が必要である。ワゴンごとの持ち運びが必要だし、他の荷物も多いため行くことができない。
・ユニバーサルシートのあるトイレが少ない。障害者用トイレも女性用と男性用に分けてほしい。
・車椅子用の駐車場が非常に狭く少ない。通常の車が停めていることがある。

◆通園・通学

・看護師不足で専用通学車両では親の添乗が求められている。仕事と家事、子育てと介護に疲れているうえでの添乗は、精神的にも身体的にもしんどい。

◆就労

・医療的ケア児を介助しながら働くには、理解のある限られた場所や、パートでしか働けないので収入が少ない。

◆居場所・遊び場所

・卒業後の支援や通所先など不安がある。介護者にも余暇や働く事での社会とつながりが大切だが、日中の生活介護施設からの帰宅が早く、その後の預け先や、支援サービスがどのようになっているのかなど不安である。
・卒業後の活動場所、医療的ケア児の日中過ごせる福祉施設（デイサービスなど）場所が少ない。
・気軽に遊びに行ける公園や施設があまりない。

◆情報提供

・情報がまとまっていないので、受けられる支援サービス制度を調べるのが大変。
・自分から働きかけないと情報が得られず、介助者が動かない場合は情報が入らない。
・小学校や放課後等デイサービスの情報がなく、どのように調べればよいのかわからない。

◆その他

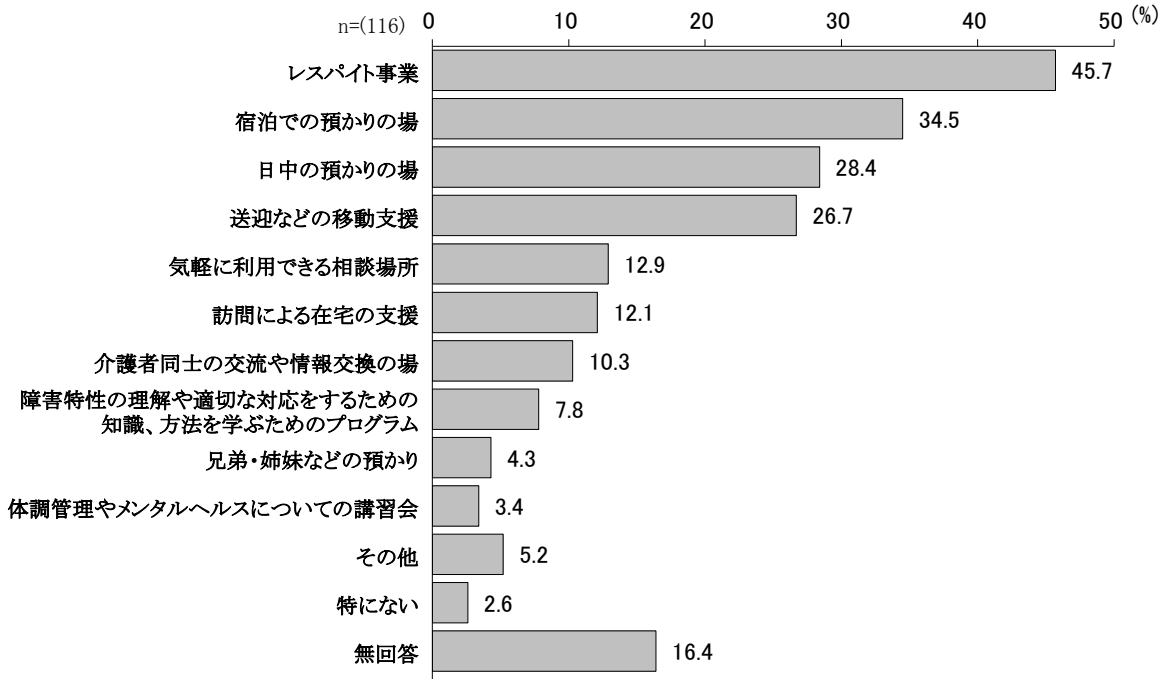
・医療的ケア児の認識がまだ低いため、良い相談員や医療職、介護職の方に出会えない。
・感染のリスクから友達との関わりがほとんどできず、社会性が大丈夫か心配になる。
・兄弟の習い事などに付き添えず、寂しい思いや我慢をさせてしまう。

（９）介護者の負担軽減のために必要なサービス

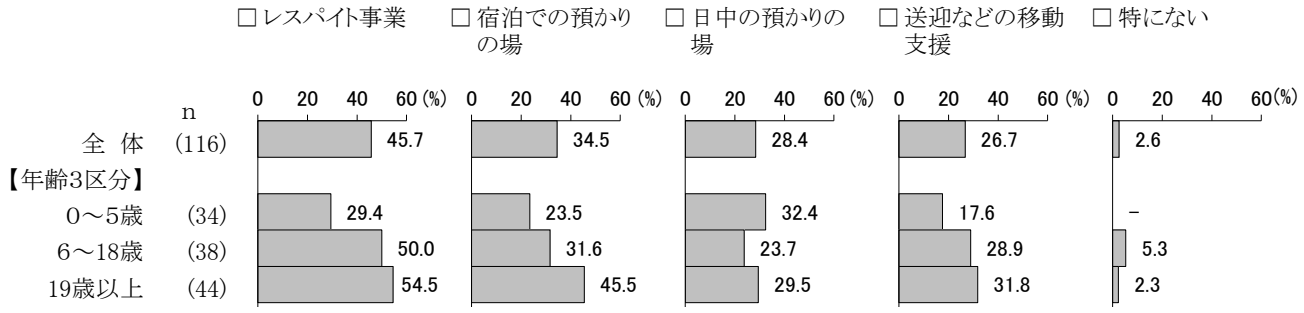
問13　家族で介護する方への支援策として、今後充実してほしいことは何ですか。
（あてはまるもの３つまで○）

介護者の負担軽減のために必要なサービスは、「レスパイト事業（介護者に休業してもらうための事業）」が最も多く45.7%となっている。

年齢３区分別にみると、「レスパイト事業（介護者に休業してもらうための事業）」は19歳以上が54.5%と最も多くなっている。また「レスパイト事業（介護者に休業してもらうための事業）」、「宿泊での預かりの場」、「送迎などの移動支援」は年齢が上がるにつれて、多くなっている。



年齢3区分別（上位4項目+「特にない」）



4　サービスの利用等について

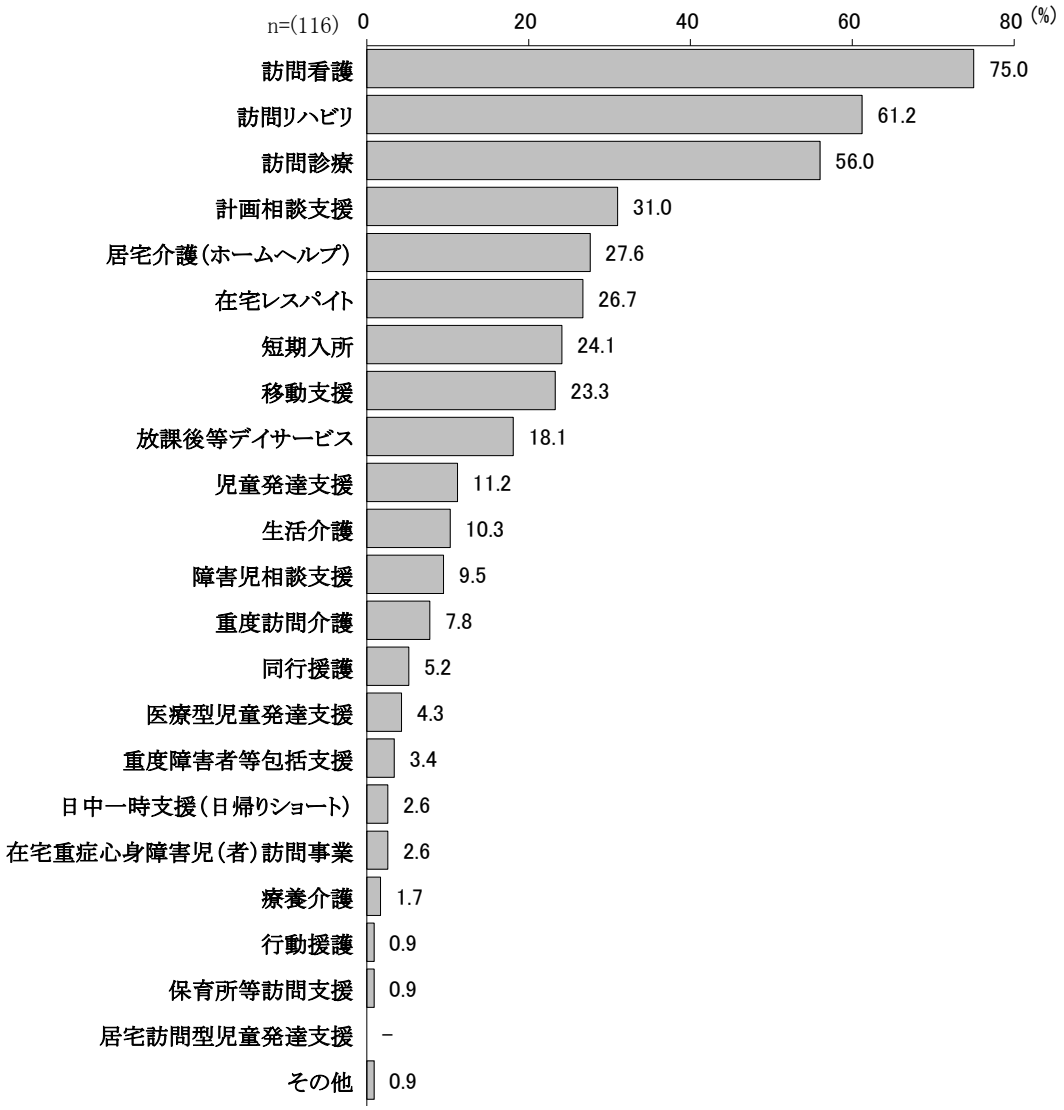
（1）在宅医療サービス、障害福祉サービスの利用状況

問14　現在、在宅医療サービス、障害福祉サービスを利用していますか。①現在、利用しているもの、②今後、利用したいもの、③医療的ケアを理由に自主送迎や付き添いを求められ利用を諦めたものをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

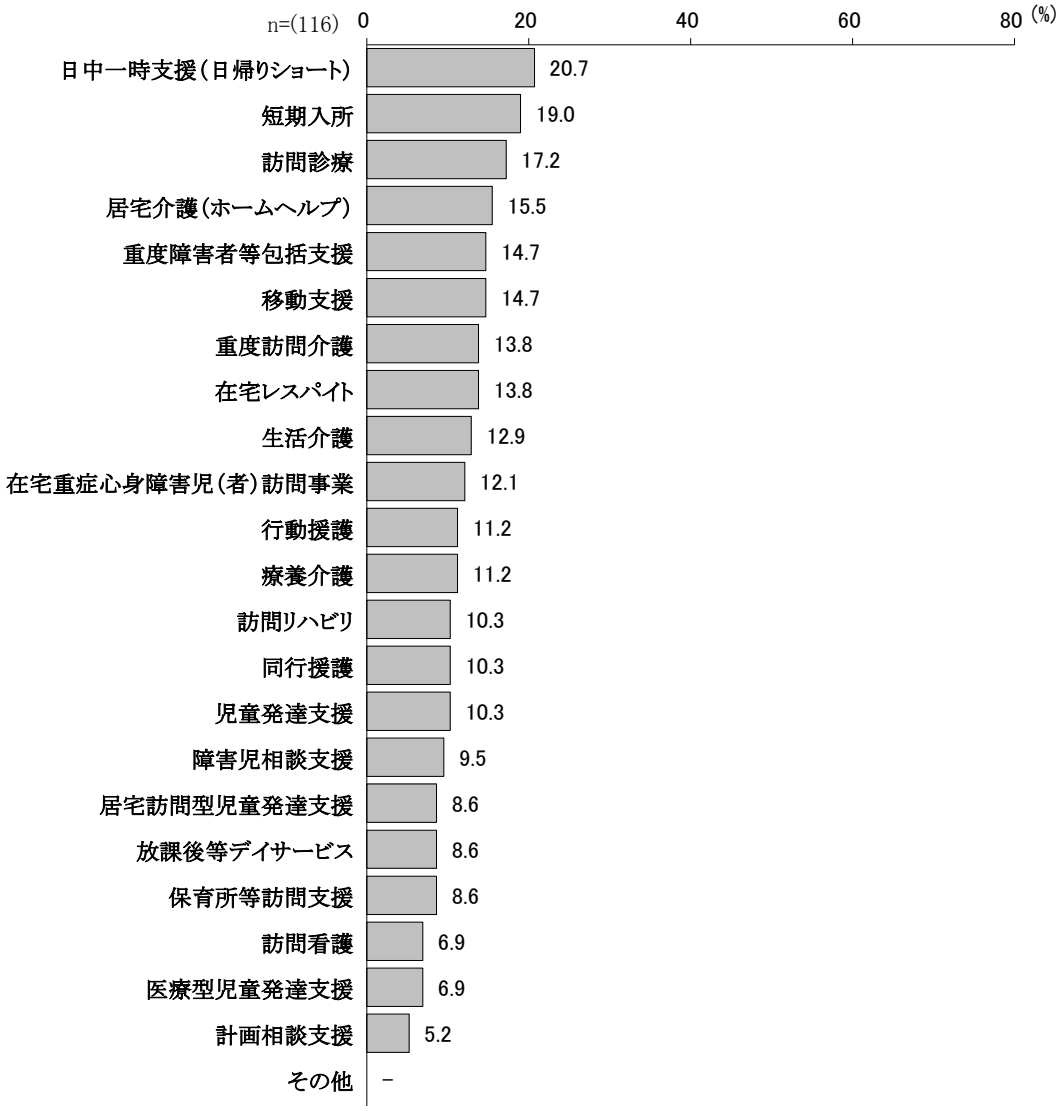
「現在、利用しているもの」は訪問看護が75.0％と最も多く、次いで訪問リハビリ（61.2％）、訪問診療（56.0％）となっている。

「今後、利用したいもの」は日中一時支援（日帰りショート）（20.7％）が２割と最も多く、次いで短期入所（19.0％）、訪問診療（17.2％）、居宅介護（15.5％）が１割台と多くなっている。

現在、利用しているもの



今後、利用したいもの

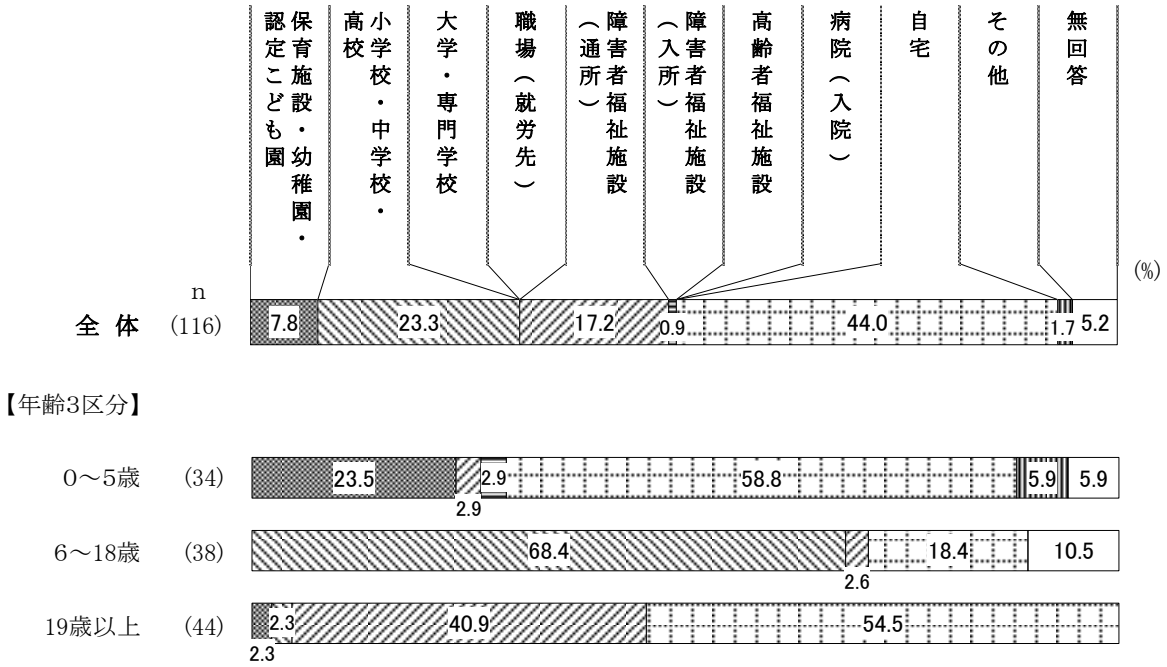

n=(116)
0
20
40
60
80
(%)
日中一時支援(日帰りショート) 20.7
短期入所 19.0
訪問診療 17.2
居宅介護(ホームヘルプ) 15.5
重度障害者等包括支援 14.7
移動支援 14.7
重度訪問介護 13.8
在宅レスパイト 13.8
生活介護 12.9
在宅重症心身障害児(者)訪問事業 12.1
行動援護 11.2
療養介護 11.2
訪問リハビリ 10.3
同行援護 10.3
児童発達支援 10.3
障害児相談支援 9.5
居宅訪問型児童発達支援 8.6
放課後等デイサービス 8.6
保育所等訪問支援 8.6
訪問看護 6.9
医療型児童発達支援 6.9
計画相談支援 5.2
その他 －

（２）平日の日中の過ごす場所

問15　平日の日中、主に過ごしている場所はどこですか。（主なもの１つに○）

平日の日中の過ごす場所は、「自宅」が最も多く44.0％となっている。

年齢３区分別にみると、「小学校・中学校・高校」は６～18歳が68.4％と最も多くなっている。「自宅」は０～５歳が58.8％と多くなっている。また「障害者福祉施設（通所）」は19歳以上が40.9％と多くなっている。



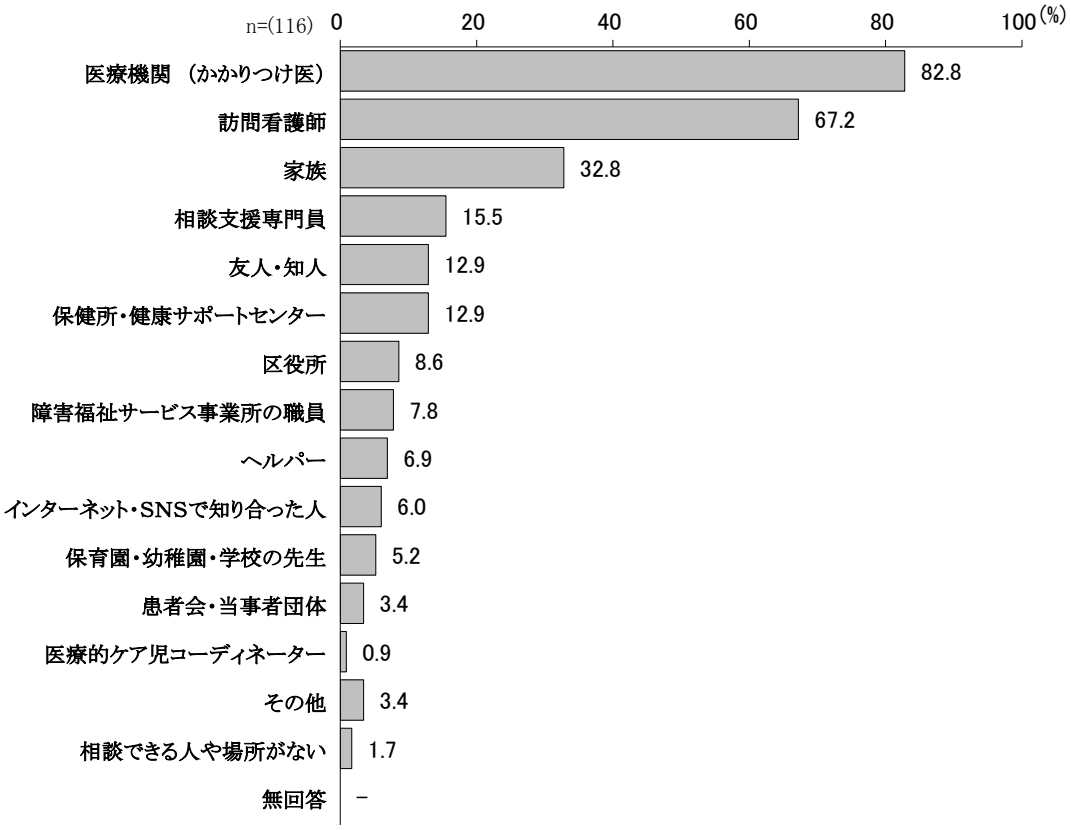
5　相談や情報入手について

（1）相談相手（場所）

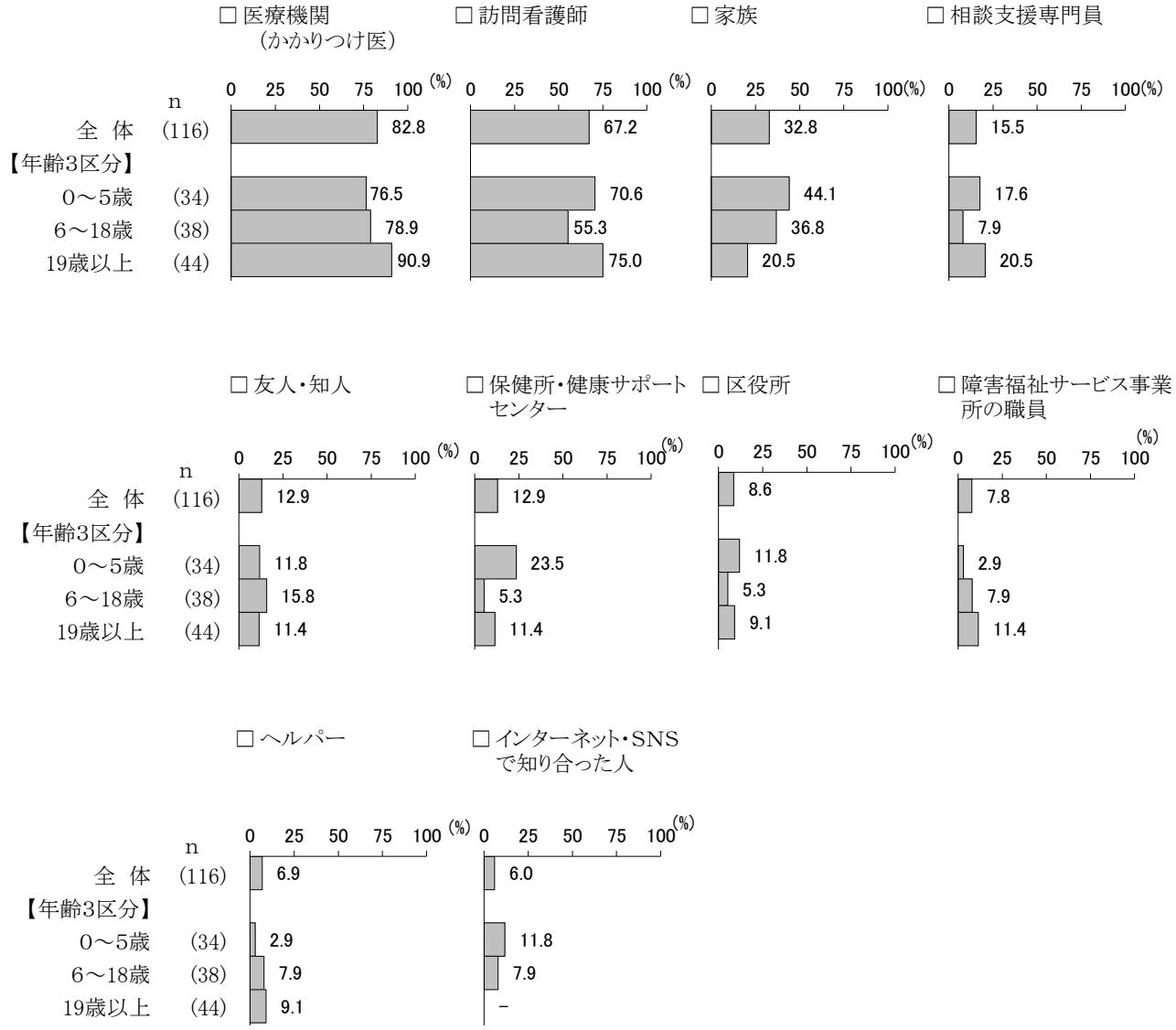
問16　医療的ケアに関することで相談相手（場所）は、次のうちどなたですか。
（あてはまるものすべてに○）

相談相手（場所）は「医療機関（かかりつけ医）」が最も多く82.8%となっている。

年齢３区分別にみると、「医療機関（かかりつけ医）」は19歳以上が90.9%と最も多くなっている。「家族」は０～５歳（44.1%）、６～18歳（36.8%）、19歳以上（20.5%）と年齢が上がるにつれて少なくなっている。



年齢3区分別（上位10項目）

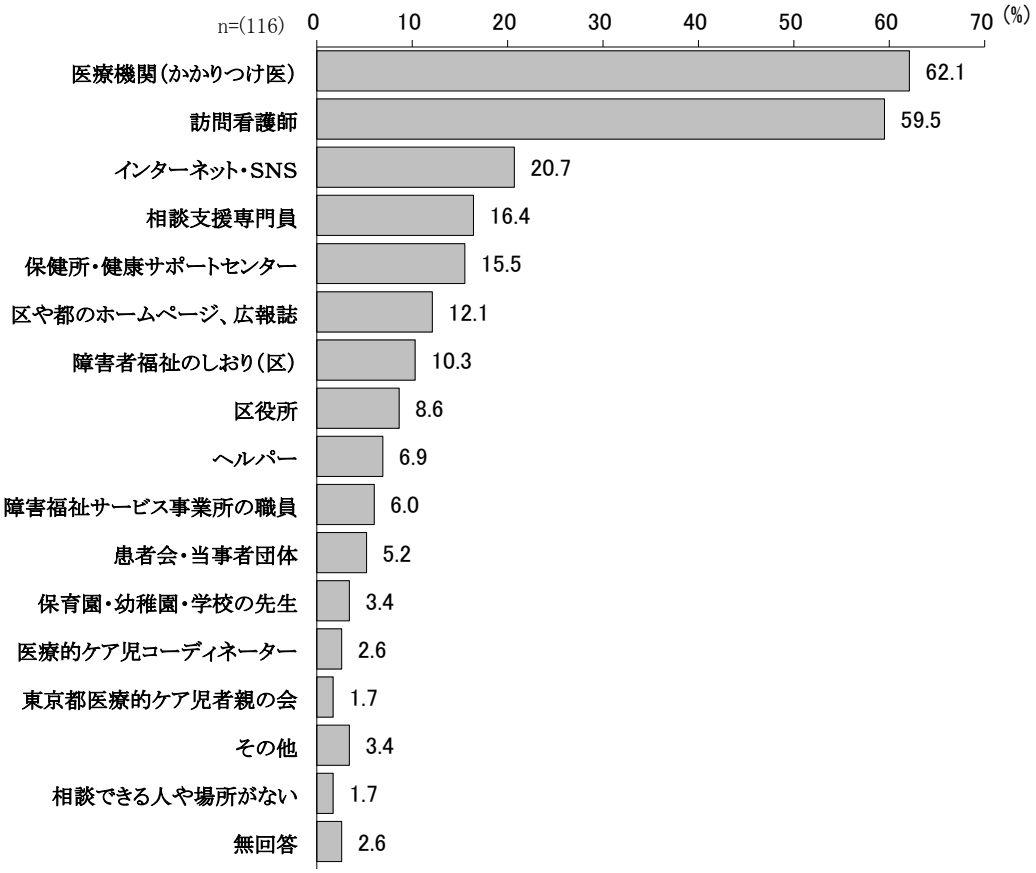


（２）医療的ケアに関する情報の入手源

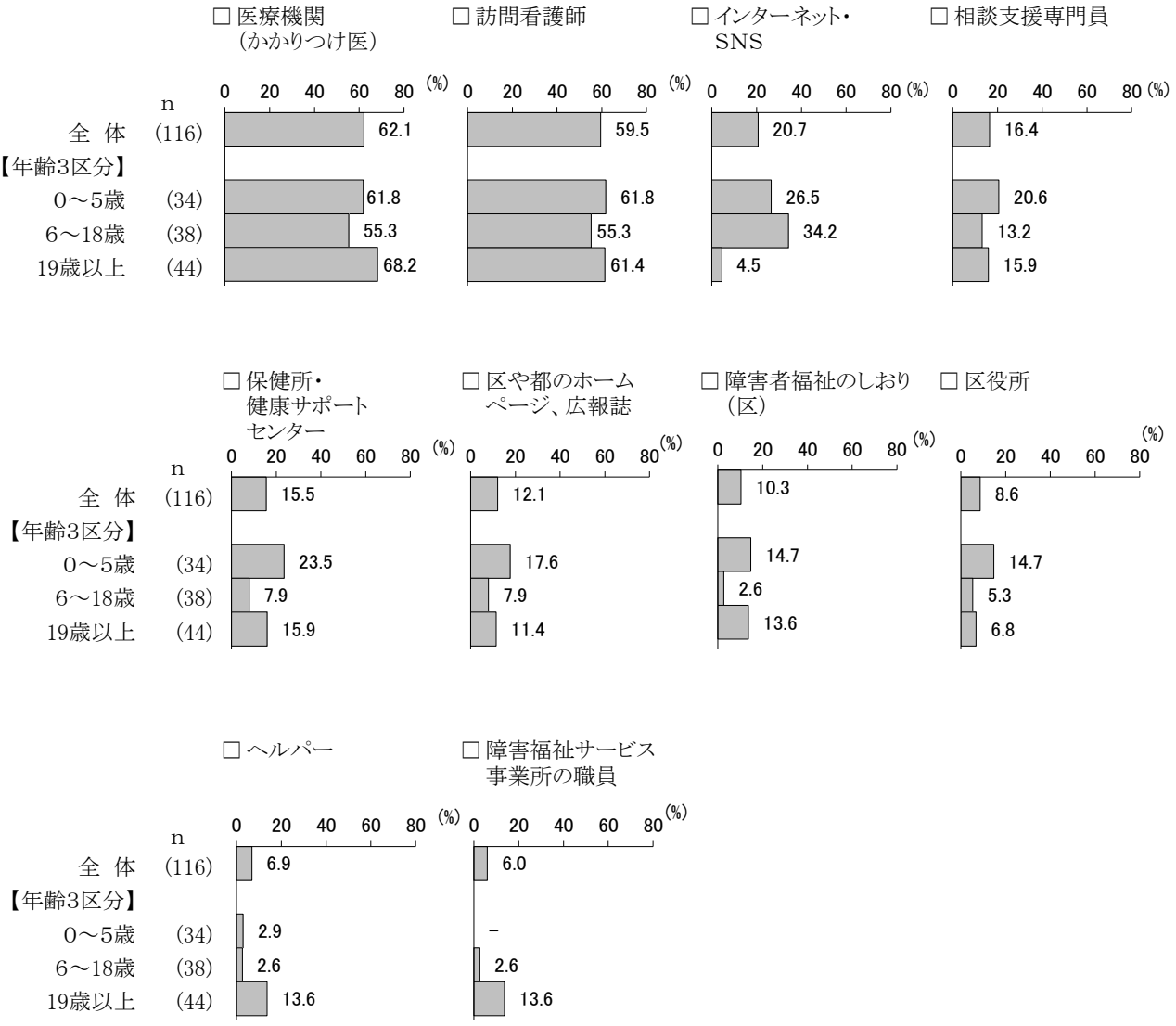
問17　医療的ケアに関する必要な情報をどこから取得していますか。
（あてはまるものすべてに〇）

医療的ケアに関する情報の入手源は「医療機関（かかりつけ医）」が最も多く62.1％となっている。

年齢３区分別にみると、「医療機関（かかりつけ医）」、「訪問看護師」はどの年代でも５割以上だが、次いで「インターネット・ＳＮＳ」になると、全体で20.7％となっている。なかでも19歳以上は4.5％と少なくなっている。



年齢3区分別（上位10項目）



（３）医療的ケア児・者の生活や医療的ケア等の知りたい情報

問18　医療的ケア児・者の生活や医療的ケア等に関してどのような情報を得たいですか。
具体的に知りたい情報がありましたらお書きください。

医療的ケア児・者の生活や医療的ケア等の知りたい情報を自由に記述してもらったところ、53件の貴重な意見をいただいた。１人で２つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となっている。

なお、主なものをテーマ別に分類、要約して掲載している。

◆サービス、制度

・受けられる支援サービスや制度の情報がまとまっていないので把握しにくい。受けられる医療的ケアの情報をわかりやすく簡単に入手できるようになるとよい。
・小児慢性の助成制度があるのに使いづらく、必要な人に浸透していない。通院先の病院で「マル乳医療証」があるので、特に申請は必要ないと言われたが、申請したら区から補助支援金交付や医療器具を購入することができた。
・新しいサービスや取り組み、年齢によって受けられるものを、常に知りたい。
・自分で調べないと何も教えてもらえないので、受けられる支援などが一括で把握できるものがあると助かる。

◆障害・病気との向き合い方

・他の人がどのような事業所、施設や病院を利用して生活されているのかを年代別に知りたい。
・自己導尿がまだできないので、外出時にどこでどのように導尿されているのか知りたい。
・医療的ケア児の生活介護の場での１日の過ごし方が気になる。

◆交流の場

・車椅子でも参加できるイベント情報。
・ＳＮＳで医療的ケア児の子を育てる方を見て学んだりする事はできているが、直接会う事がないので、交流の場があると嬉しい。進路や体験話など聞きたい。
・同じ医療的ケアの人との交流がほしい。生活のことなど、相談できる人と出会いたい。

◆施設

・親亡き後の生活はどうすればよいのか。（日中の居場所、施設入所など）
・緊急時一時預り場所、自宅周辺の短期入所先、入所施設について。
・学校や利用できる施設の情報。健常者の学校は徒歩圏内にあるが、障害者施設は埋もれやすいので内容や場所など探しにくい。

◆治療、薬、器具

・ケアの方法、薬、治療法など。
・医療的ケア児の知り合いが少ないので、導入したい機器の口コミ情報の入手が困難。

◆その他

・介護者が働ける職場案内、かつ区を通した理解のある仕組みがあれば助かる。
・駅や公共施設、大型店舗等、外出先での障害者対応（駐車場・トイレ・エレベータ等）の可否と利便性の情報がほしい。
・昼の流動食注入するために、何日か学校に行かなければいけないが、親のかわりに行ってくれる看護師を紹介してほしい。
・医療的ケア児コーディネーターの存在とは何なのか知りたい。
・対象となるサービスの申請、継続手続が大変なので、いわゆる「マイページ」のようなところで一元管理できるとよい。
・医療的ケアのサービスや就学支援、ケアプラン等の作成等の援助ができる相談員に出会いたい。

6 災害時の対応について

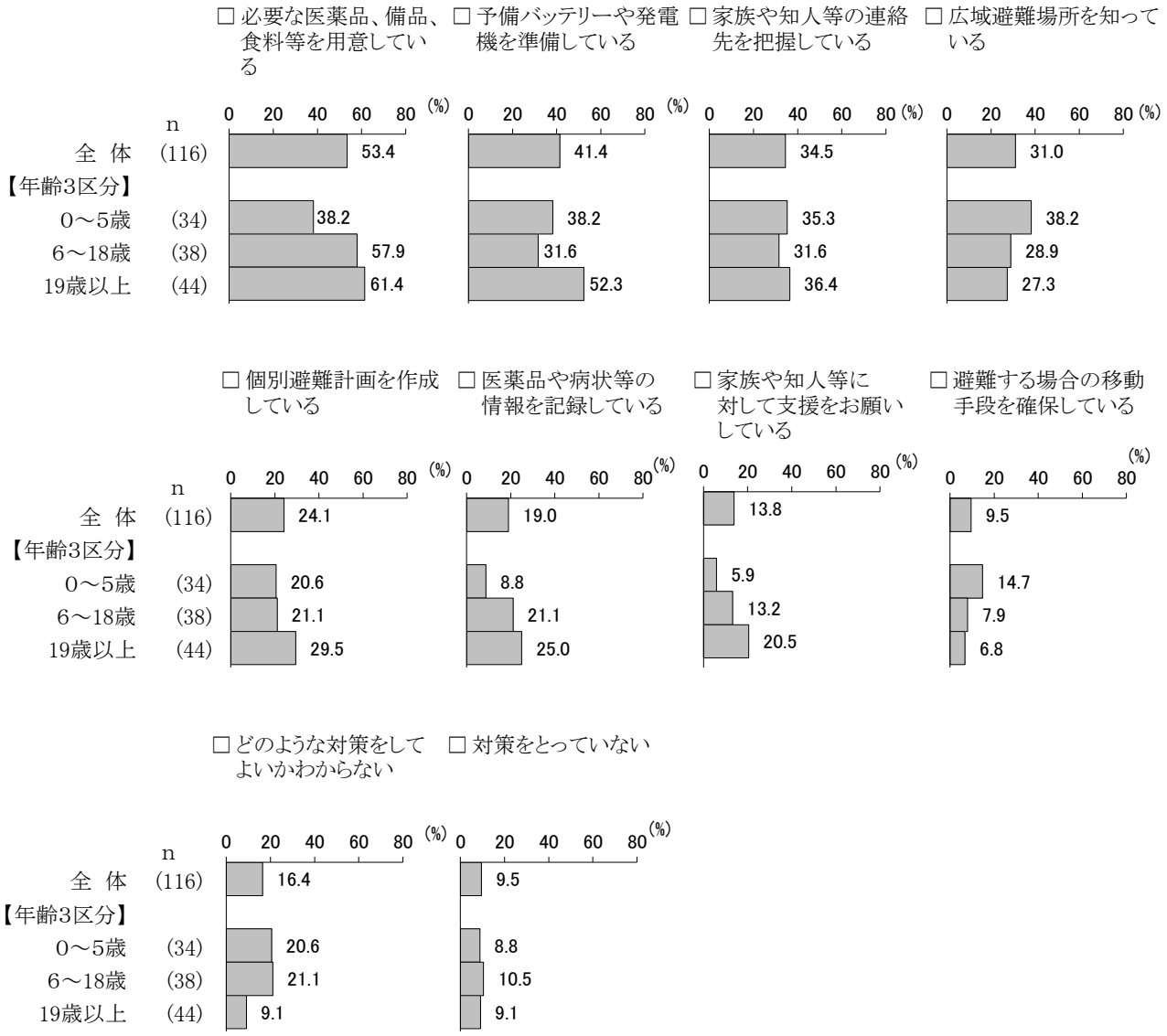
（1）災害に備えた特別な対策

問19 災害に備えて、医療的ケアの状況に応じた特別な対策をとっていますか。
（あてはまるものすべてに○）

災害に備えた特別な対策は「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」が最も多く53.4%となっている。

年齢３区分別にみると、「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」は19歳以上が61.4%と多く、６～18歳では57.9%となっている。「災害時や緊急時に支援してくれるよう、家族や知人等に対してお願いしている」は０～５歳（5.9%）、６～18歳（13.2%）、19歳以上（20.5%）と年齢が上がるにつれて多くなっている。

年齢3区分別
（上位8項目＋「どのような対策をしてよいかわからない」「対策をとっていない」）

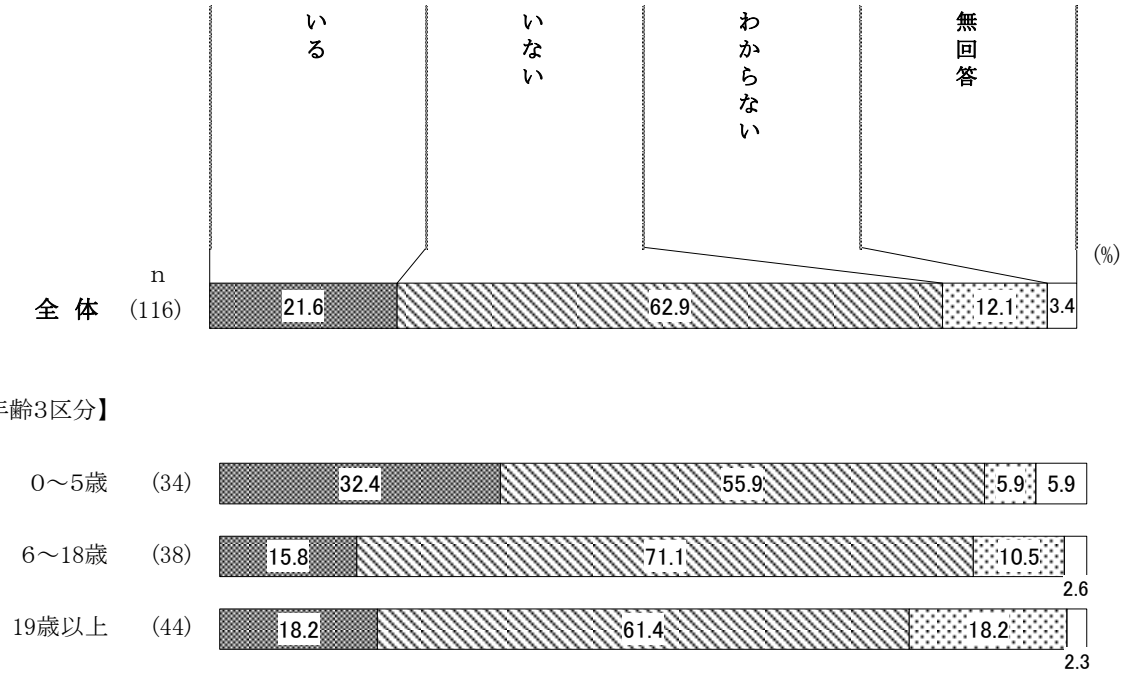


（2）近所に助けてくれる人の有無

問20　火事や地震などの災害時に家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。（１つに○）

近所に助けてくれる人の有無は「いない」人が多く62.9%となっている。

年齢３区分別にみると、「いない」人は６～18歳が71.1%と最も多くなっている。次いで19歳以上が61.4%となっている。一方「いる」人は０～５歳が32.4%と最も多くなっている。



（３）災害時の不安や具体的な支援の内容

問21　災害が起きた時、どのような不安がありますか。また、どのような支援が必要ですか。

災害時の不安や具体的な支援の内容を自由に記述してもらったところ、105件の貴重な意見をいただいた。１人で２つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となっている。

なお、主なものをテーマ別に分類、要約して掲載している。

◆避難援助

・医療的ケアに必要な物品や避難用品等を一人でかかえて避難することは困難である。手伝ってくれる人がいると安心だが、どのような対策をすればよいかわからない。
・必要な物品や人工呼吸器など荷物が多いため災害時に駆けつけてくれるサービスがあるとよい。
・避難するにも車椅子の移乗など、ヘルパーを頼めるのか。
・近くに都立高校があるが、都立の建物を緊急時には使用できるよう都へ早急に相談してほしい。無理ならば必要な医療機器が多いため、自宅で過ごしたい。
・移動も簡単ではないので、避難は現実的ではない。
・車椅子への移乗すら介護者１人ではできない。
・移動が必要になった時、お願いする知人が遠いのでどうしたらよいか不安。
・避難所に行くまでの移動ができない。

◆電源確保

・持続的な吸引のための充電池は用意しているが心配である。
・予備バッテリー購入費用助成支援が必要。
・充電のための電源。せっかく制度があるのに使いづらく浸透していない。
・呼吸器管理のため電源確保に不安がある。
・避難所での電源確保。酸素や電源を確保できる場所を避難先に準備してほしい。

◆避難スペース、避難場所での配慮

・指定されている避難場所はエレベーターがない。
・まわりの人に気にせず過ごせ、感染対策されている避難スペースの確保が必要。
・医師または看護師の巡回や配置をしてほしい。
・避難所のトイレ等にベッドを設置してほしい。
・広域避難の時にホテルなどと協定を結んでいるが、宿泊施設において障害者、医療的ケア者を優先して受け入れてくれるところもつくってほしい。
・温度管理ができ、医療的ケアに特化し個別に待機できる場所が必要。
・人が多い避難所を利用するのは難しい。座位もとれないし、てんかん発作があるし、機嫌が悪いと怒ったり泣いたりするので、まわりに迷惑をかけてしまう。
・災害時は病院に入院したい。
・当事者の声を聞いて、安心して過ごせる避難所づくりを設置してほしい。

・エレベーターが停止したら避難できない。医療的ケア等が必要な家庭を把握し、支援していただけたら助かる。

◆在宅避難

・台風等での避難は３日前に避難する想定は、障害者やその家族の事を考えていない内容である。自宅へ介助者の派遣、避難場所へ医療関係者の派遣が必要である。
・障害が重すぎるため、火事以外で避難は考えていない。生存確認の際は、自宅を確認してほしい。
・在宅避難にならざるを得ないので、それが不安。自分で準備をしなくてはいけないが、必要物資が確実に届くようにしてもらえると安心。

◆医療品、ケア用品

・医療的ケアに必要な物品や医薬品が入手できるか不安。

◆食料、飲料

・避難先での食事が不安。（胃ろうやミキサー食など）
・避難所で食料の中にトロミ剤や、経腸栄養食も含めて、備蓄してほしい。

◆その他

・連絡がとれなくなることが一番の不安。医療のことなど、どこに連絡をとることが最善なのか悩む。

7　今後のことについて

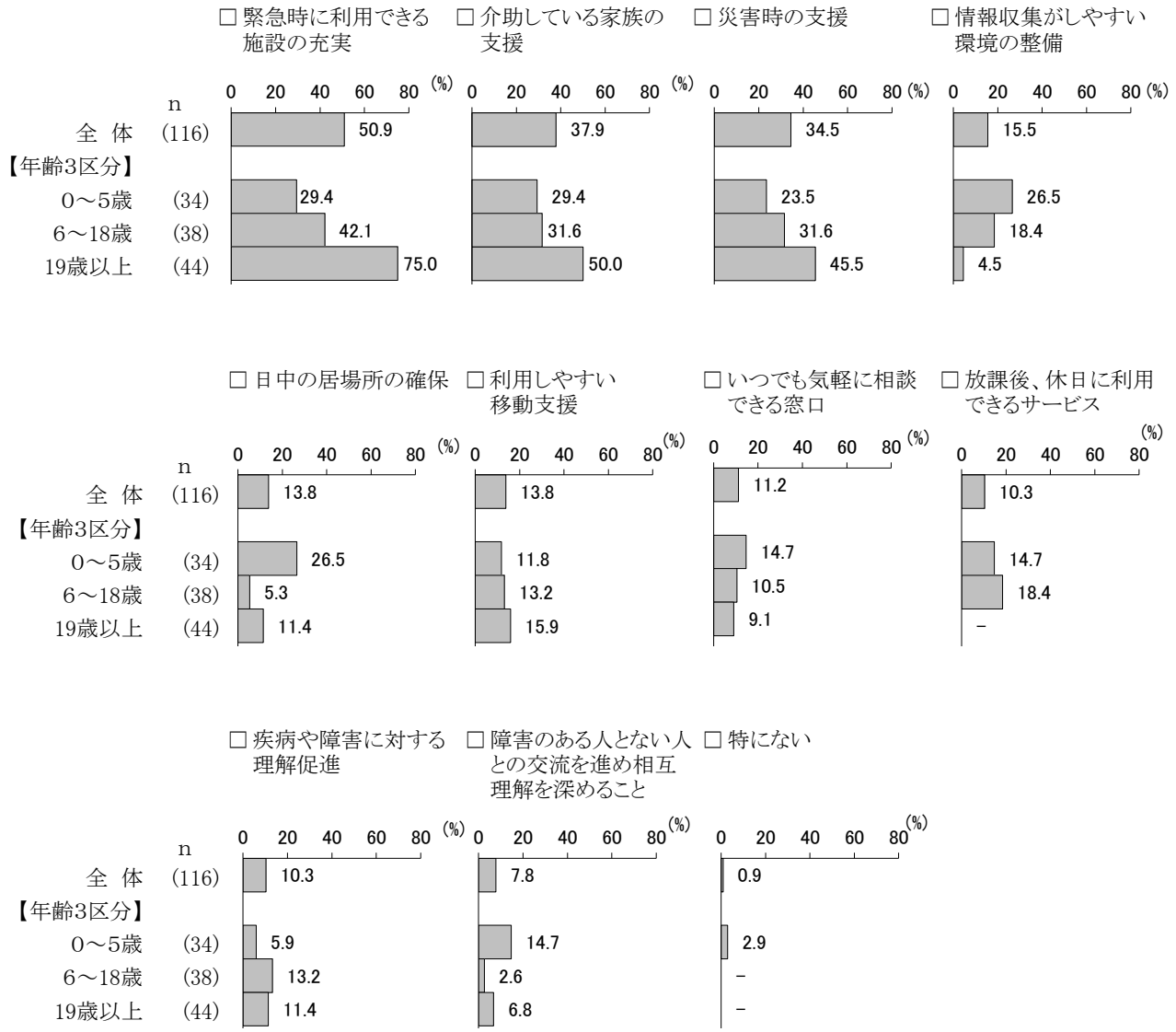
（1）充実すべき障害者福祉施策

問22　今後、区の障害者（児）福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。（主なもの３つまで○）

充実すべき障害者福祉施策の有無は「緊急時に利用できる施設の充実」が最も多く50.9%となっている。

年齢３区分別にみると、「緊急時に利用できる施設の充実」、「介助している家族の支援」、「地震や台風など災害時の支援」は年齢が上がるにつれて多くなっている。一方「情報収集がしやすい環境の整備」は年齢が上がるにつれて少なくなっている。

年齢3区分別(上位10項目＋「特にない」)



8 意見・要望

問23 区への障害者福祉にご意見・ご要望。

区の障害者（児）福祉への意見・要望を自由に記述してもらったところ、108件の貴重な意見をいただいた。１人で２つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となっている。

なお、主なものをテーマ別に分類、要約して掲載している。

◆施設・環境整備（26 件）

・区内に医療的ケアが必要な人の通園、通所、入所施設の増床及び設置を希望する。

・医療的ケア児支援法により保育園でも１園受け入れ可となったが、2030年の江戸川区(SDGsビジョン)では令和８年度に２園を目標としており、やる気が感じられない。

・レスパイト、一時預かりなどの事業を増やしてほしい。

・卒業後に重度医療的ケアを必要とする者の受け皿が、区内には１つもないので困っている。

・区内に医療的ケア者が利用できるショートステイがほしい。医療的ケアが多くて大変なので預けたいのに実際は利用できなかったり、条件をいくつも足されたりする。

・医療的ケア児を受け入れてくれる放課後等デイサービス事業所を増やしてもらいたい。

・区に「東部療育センター」のような外来診療、通所、入所ができる施設がほしい。いざという時にも「避難所」としても活用できれば、大きな安心になる。

・施設の利用時間を延長するなど何らかの方法で、親のゆとりの時間が作れるようにしてほしい。

・幅広く医療的ケアのある人を受け入れて、何かあった時に利用できる施設があると安心でき頑張れる。

・他区のようにレスパイト施設をつくってほしい。

・複数の医療的ケアが必要な者が区内の生活介護施設に通える様に体制を整えてほしい。

・医療的ケア者の受入先が少なく、入所できる施設は遠方である。親亡き後の子どもの生活が不安。区内に入所施設をつくってほしい。

◆制度、助成、援助（15 件）

・手当の所得制限は不平等。医療的ケア児の介護している大変さは所得に関係なく同じである。至急、制度の見直しをしてほしい。

・福祉用具の値上がりで、自費負担が増えて困っている。

・重度心身障害の介護を頼める方がいない。普段利用している在宅看護や診療、介護などのサービスを緊急時に柔軟に使えるよう、福祉サービス制度の見直しを希望する。

・他区のように介護用品を薬局で購入できたり、クーポンや現金支給などをしてほしい。

・所得制限には反対。デイサービスも上限が高いため、利用できない。

・車椅子や装具の作成は、スムーズに早くできあがるようにしてもらいたい。できあがったときには身体に変化があって手直しが必要になる。
・各種手続きの書類の簡素化や電子化。
・難病手当申請の連絡をしたら申請書を郵送してくれたので、来庁せず申請ができ、ありがたかった。

◆サービス全般（10 件）

・制度やサービスの狭間にあるようなケースも支援してもらいたい。
・区独自の重度訪問介護利用者に対する就労支援事業の新設。
・外出できない医療的ケアが必要な人の訪問事業サービス（訪問カレッジなど）を行ってほしい。
・重度訪問介護支援をもっと受けやすく、充実してほしい。

◆外出（移動、交通、道路、バリアフリーなど）（９件）

・区役所の障害者用駐車スペースは、障害者のみが利用できるようにしてほしい。
・区役所のだれでもトイレに荷物置き場があると作業しやすい。
・歩道にゴミ袋があふれていたり、街路樹や雑草で車椅子が通りにくい。段差の解消をお願いしたい。
・区内の公共施設内のスロープは幅が狭すぎて利用困難であり、勾配が急なところもあるので、少しずつ見直ししてほしい。
・酸素使用のため地下鉄やバスは混んでいて乗車できないので、通院時にはタクシー券を助成してほしい。

◆保育園、幼稚園、学校（８件）

・医療的ケア児を受け入れてくれる保育園を拡充し、医師が近くにいるなど受け入れ体制を強化してほしい。
・医療的ケア児の預かりを積極的に行う園が増えてほしい。
・保育園や幼稚園で医療的ケア児を積極的に預かり診てくれる所が増えてほしい。
・特別支援学校の部活動は運動部の２つのみのため、近くの中学校の文化部などの部活動に参加することができたらよい。経験することで、できることを伸ばす機会をつくることや何か見つけられるかもしれない。
・学校行事や社会科見学の付き添いを求められる事がいつまでも改善されない。看護師を増やして、親の負担を減らしてほしい。

◆感謝、満足（７件）

・いろいろな支援でとても助かっている。区役所に手続きに行った時も、みなさんが丁寧に対応してくれることに感謝しかない。
・相談事の対応が早く、いつもありがたく感じている。

◆情報提供・案内等（７件）

・受けられる支援や制度がわかりやすく図示してもらえるとよい。

・通所施設について相談したが、保健師や医療的ケア児コーディネーターからも有益な情報は得られない。どこかに聞いてすぐ解決できると助かる。

・サービスや制度について新しい情報を随時、郵送等で知らせてほしい。

・利用可能なサービスや今後の生活での問題点などは、困る前に教えてもらえると、余裕を持って準備ができる。

・健康サポートセンターでも障害者福祉のしおりを配布してほしい。80ページ以上あるので区ホームページからダウンロードしづらい。

◆区役所や関連機関などの職員の対応（６件）

・職員の障害知識の向上と障害理解及び差別的発言の改善。

・保健師は病名・状態を知っているにも関わらず、小児慢性医療費助成のことを教えてくれず、受けられる支援を尋ねても的外れな回答があって、医療的ケア児の制度を理解していないと感じた。

・障害者福祉課と保健所は、きちんと連携ができているのか疑問に思う。

◆相談支援体制（４件）

・障害者福祉に関することを包括的に相談できるようにしてほしい。

・担当者が変更になる場合、当事者やその家族の経緯を確認して進めてほしい。困っているから相談に来ているのに「できない、難しい」は悲しい。障害者の生活にもっと理解を深めてほしい。

◆災害時の対応（４件）

・他人事とは思わずに協力してほしい。

・災害時の電源確保、避難方法、福祉避難所など不安がある。ヘルパーにも家族がいることを考えながら避難方法等を考えてほしい。

◆介護や介護者（不安等）（３件）

・いつまで続くかわからない介護で、精神的にも体力的にも難しくなってきた。

・介護者の働く先の支援と、その後の会社と連携した理解が必要。

◆人材に関すること不足・育成（保育園・学校など以外）（２件）

・ヘルパーが不足しており、利用できない場合がある。

◆その他（７件）

・共生社会が実現できれば嬉しいが、日常生活で健常者との接点がなく、孤立感を感じる。機会があれば、相互理解を深める場に積極的に伺いたい。

・当事者や介護者の話を聞く機会をたくさん設け、具体的な支援や街の整備等につなげてほしい。

・障害児・者の実情を把握する為にも区内の特別支援学校や療育施設、生活介護施設等を積極的に訪問してほしい。

・家族などの交流会が定期的にあるとよい。

第７期江戸川区障害福祉計画・第３期江戸川区障害児福祉計画
策定のための基礎調査
（江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査）
結果報告書

令和５年３月

【編集・発行】江戸川区役所　福祉部　障害者福祉課
〒132-8501　江戸川区中央１丁目４番１号
電 話　03（5662）0044（直通）
ＦＡＸ　03（3656）5874